LOBOTOMY CORPORATION

FACE THE FEAR
BUILD THE FUTURE

管理人の為の
ロボトミー社マニュアル

1．管理人の仕事 01
2．エンケファリンの抽出方法 03
3．収容室の構造 05
4．幻想体とは？ 07
5．優秀な我々の職員 11
6．非常事態 15
7．非常事態の制御 17
8．装備説明 19

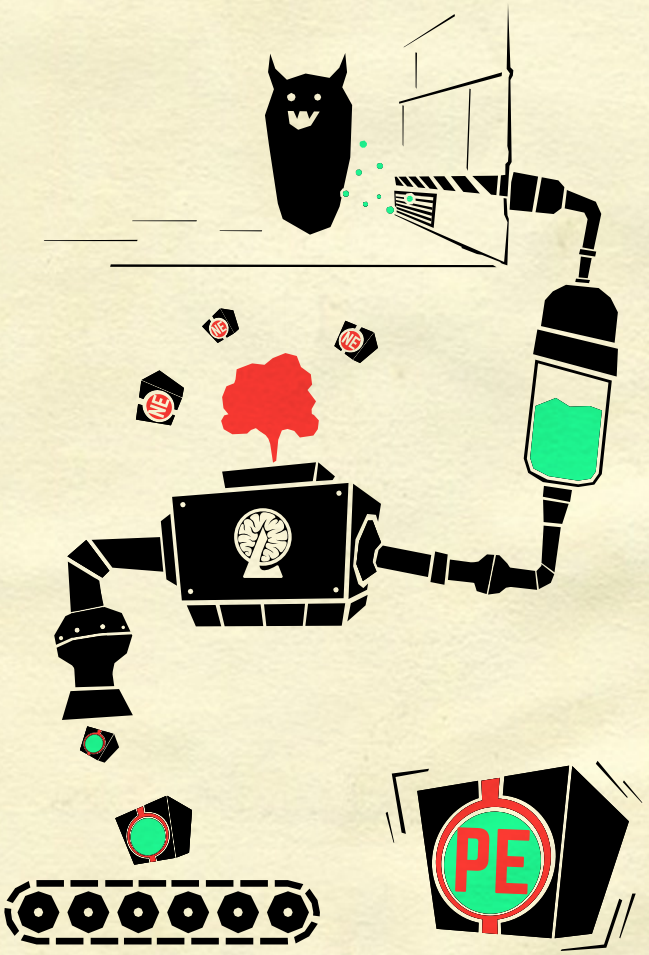
幻想体図鑑

25 ZAYIN
37 TETH
53 HE
81 WAW
115 ALEPH

恐怖に直面し 未来を創る

LOBOTOMY CORPORATION
FACE THE FEAR, BUILD THE FUTURE

ようこそ管理人。ロボトミーへの入社を心より歓迎します。御存知の通り、我が社はエネルギー会社です。エネルギー会社の管理人のすべきことは、当然ながらエネルギーを集める事でしょう。毎日、各支部を担当する管理人には、収集すべきエネルギー量のノルマが割り当てられます。私たちは貴方の優秀な能力と無限の可能性を信じ、貴方を管理人に任命しました。必ず、一日のエネルギーノルマを満たしてください。それが出来なければ、私たちは貴方を管理人の職から永遠に罷免せざるを得ません。この事は契約書にも明示されていますので、ご承知ください。



エネルギー

他の多くの翼を始めとして、人々は私たちがどのようにして環境破壊を引き起こすことなくエネルギーを提供することが出来るのか、関心を持っています。その答えがエンケファリンです。「幻想体」という存在から「エンケファリン」というエネルギーを得て精製し、これを販売するという、単純なプロセスです。

訳注:幻想体はゲーム内の翻訳では「アブノーマリティ」

幻想体の気分を良くしましょう。単純明快なことです。
彼らが満足すればエンケファリンを放出し、私たちはそれを収集します。

幻想体の気分を良くするには？

私たちは様々な試行錯誤を経て、幻想体という存在に有効な作業は4種類という結論を出しました。（文字通り、多くの人の血と涙が流されました。時間があるなら少し黙祷してみましょう。）4種類の作業の内、幻想体が一番好む作業を探し、そのまま続けてください。これがエネルギー収集過程の第一段階です。

どんな作業がありますか？

本能作業/洞察作業/愛着作業/抑圧作業があります。幻想体という存在はとても繊細ですが、予測できない存在でもあります。わがままな子どもを満足させるようなものですが、対価が少々伴うというところが違います。幻想体には様々な種類があります。人型のこともあり、無生物にしか見えない時もあります。しかし、どのような外見であれ、幻想体には基本的な欲求と意思が存在します。

本能作業

幻想体の生理的欲求を満たす作業です。主に直接的な接触を行います。生体としての活動を維持するための栄養を供給したり、清潔を維持するために身体を拭いたりします。個体ごとに適した方法がマニュアルに記されていますが、具体的にどのような手順で行われるかまでは、管理人が知る必要はありません。そのような危険で複雑な手続きは管理職の職員たちの役目です。この作業は直接的な接触を繰り返す作業のため、彼らの大胆な勇気が必要でしょう。

洞察作業

幻想体の環境を改善する作業です。幻想体の収容室は、常に最適の環境を維持する必要があります。異物の除去、快適な空気の維持、落ち着けるような音楽の選定など、細心の管理が行われます。しかし、ある個体は汚くて不快な環境を好みます。このように個々の個体に合わせて環境を改善しなければならないので、担当職員の明晰な知恵が求められます。

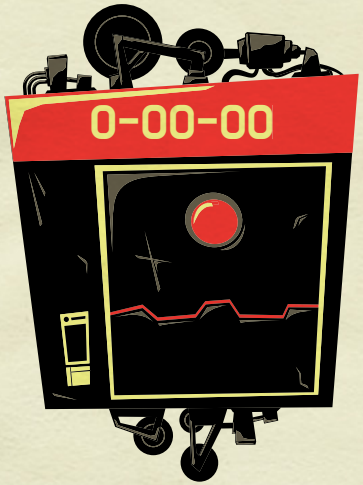
愛着作業

幻想体の社会的な欲求を満足させる作業です。前述したように、幻想体は外見であれ、基本的な欲求と意思を持っています。そして、その中には社会的な欲求も存在します。愛着作業を通じて、幻想体の会話の相手をしたり、遊んであげたりしなければなりません。この過程で求められるのは、担当職員の自制です。一線を越えてしまえば、二度と元に戻ることはできませんから。

抑圧作業

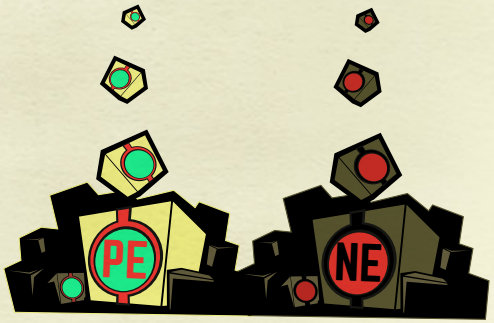
幻想体の存在を抑えつける作業です。前の三つの作業が幻想体の欲求を満たす役割ならば、抑圧作業は彼らの欲求を抑えるものです。幻想体はあまり完全な存在ではありません。幻想体は自分の欲求と意思を制御することが出来ず、暴走する恐れがあります。抑圧作業を通じて幻想体の怒り、悲しみ、喜びを調節してあげなければなりません（この過程だけは、具体的に知ろうとしないことをお勧めします）。抑圧作業を担当する職員に求められる能力は正義です。有りがちな、些細な正義感などではありません。明確な価値判断です。職員自らが抑圧作業を制御するためには、全てのことを客観的かつ合理的に判断しなければならないからです。それが出来ない職員は喰われてしまうでしょう。幻想体にも、自分自身にも。

幻想体は収容室に居り、管理人は収容室でエネルギーの生成状況を確認出来ます。



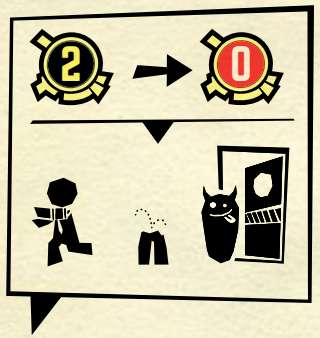
エンケファリンボックス

幻想体の気分が良くなると、ポジティブエンケファリンボックス（PE-Box）が生成されます。良い反応ではなかった場合、ネガティブエンケファリンボックス（NE-Box）が生成されます。NE-Boxが生成されたとき、作業中の職員は幻想体によりダメージを受けます。



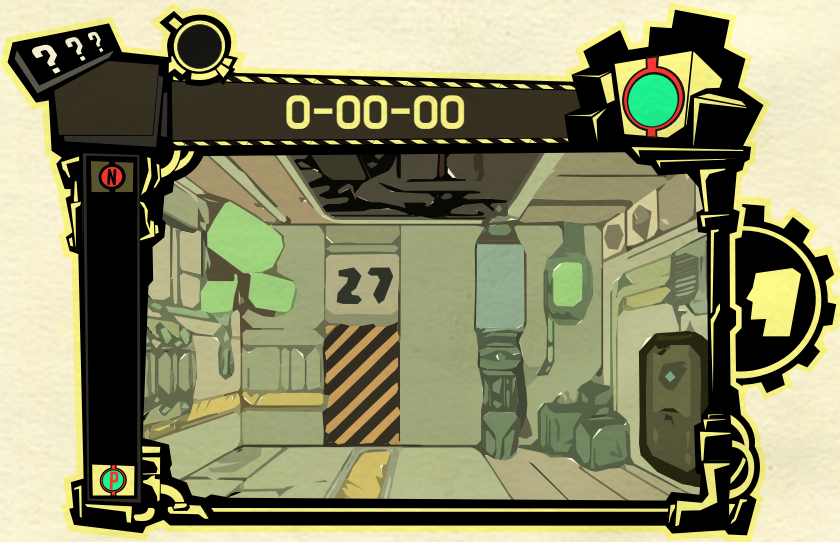
危険ランク

クリフォトカウンター



クリフォトカウンター

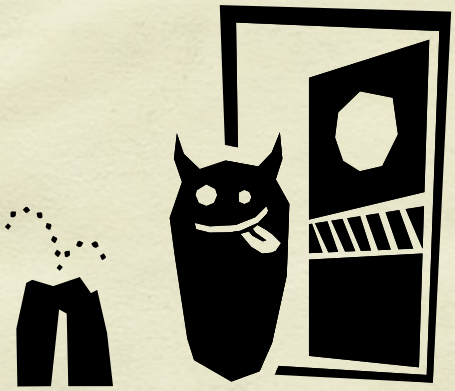
収容室にはカウンターが付いています。かなり複雑な装置ですが、管理人が覚えておくべきことは一つだけです。カウンターが0になると、幻想体は様々な問題を引き起こします。その中には、幻想体の脱走も含まれます。



待ってください、幻想体が脱走するんですか？

はい、その通りです、管理人。そのような状況については、「非常事態」の項目をお読みください。

いよいよ幻想体について説明する時が来ましたね。幻想体は、人類の深く古い夢から生まれた存在です。管理人は彼らを怪物として認識するかもしれませんし、人間のように見えるかもしれません。あるいはその他、無限の可能性の中の何かを見るかもしれません。しかし、そのどれもが、結局のところ人間から作られたものなのです。



幻想体は危険ですか？

はい、危険です。本当に危険です。危険ですとも。三回も繰り返し強調したのは、それだけ肝に銘じておかなければならない事項だからです。世の中の全ての事がそうであるように、何かを得るには対価を払わねばなりません。私たちはどのエネルギー会社よりも迅速に、いかなる環境破壊も起こさずに、莫大な量のエネルギーを世界に提供します。しかし、その対価として幻想体と言う危険な存在を収容しています。幻想体ごとに危険性は異なりますが、最悪の結果になれば、単にLobotomy Corporationが翼としての資格を剥奪されるだけではなく、人類全体を危険にさらす可能性もあります。（事実、この類の終末シナリオ発生の可能性は、他の翼も内包しているものと考えられます。）

幻想体についてもっと知りたいです。

良い事です。情報は、私たちが今まで幻想体を管理できるように助けてくれた、素晴らしい案内人です。私たちは幻想体の情報を記録した図鑑を作りました。この図鑑により、管理人はより容易に作業を進める事が出来るでしょう。

図鑑に情報が書かれていません。

初めて管理することになる幻想体については、何も情報が無い状態でしょう。しかし、幻想体の管理で得られたPE-Boxにより情報を蓄積することが出来ます。正確にはPE-Box自体を消費するのではなく、当該幻想体の固有識別番号を持ったPE-Boxが蓄積される事により図鑑が解放され、装備を製造するための材料を抽出することもできます。

危険ランクとは？

幻想体の中には、穏やかで職員に大きな被害を与えないタイプがあるかと思えば、非常に攻撃的で残忍な為に慎重な作業が必要な幻想体もあります。そのため、私たちは5つの危険ランクに分類し、どの程度慎重に管理すべきか、どの程度危険であるか、という明確なガイドラインを策定する事にしました。一つ肝に銘じておかねばならないことは、全ての幻想体は危険だと言うことです。勿論、私たちが事務職の職員たちに配布した専用マニュアルには、「幻想体は安全です！」という文言がありますが、全ての幻想体はどの危険ランクであっても危険です。

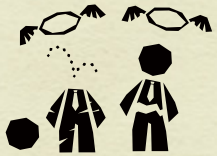
F-忘れられた話、口承文学、民話、伝説

ZAYIN

ZAYINランクの幻想体はもっとも攻撃性が低く、職員に与える被害も最小に留まります。多くの場合大きな被害を与えることは無く、状況によっては職員たちにプラスの影響をもたらすこともあります。全ての幻想体がZAYINランクに収まるのであれば、私たちはこれほど大規模な収容室を作る必要は無かったでしょう。

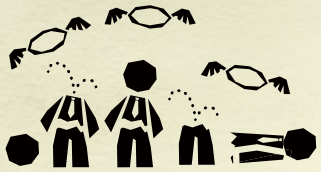
TETH

これらの幻想体は、些細な傷から重傷に至るまで、多様な被害を職員に与えられると考えられています。しかし、職員が管理方法をしっかり守れば、大きな被害を出すことはありません。



HE

職員数名程度なら、容易く殺せるとされるランクです。おそらく、管理人はZAYINやTETHの二倍以上の関心を注がなければいけないでしょう。状況が悪化すれば、血を流して死んでいく多くの職員が生じるかもしれませんが、まだ大きな心配は要りません。管理人の優秀な能力なら、十分に制御することが出来るはずです。



T -個人の強烈な体験、恐怖、感情

WAW

このランクの幻想体に遭遇したのなら、そろそろ心配するべきでしょう。これらの個体は危険性が高く、恐るべき破壊力を持ちます。WAWランクの幻想体にとっては、部署はお菓子の家のようなものです。被害を出せば、死者は数十名に上るでしょう。そして、このランクの個体の大多数は、職員に対し敵対的です。

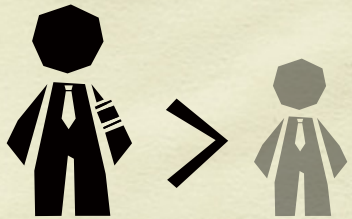
0 -川と海の境界の向こう、原因不明、自然発生、製造、井戸

ALEPH

最も危険なランクです。この幻想体が管理対象に入った瞬間、可能な限りの集中と関心を継続して傾ける必要が生じます。このランクの幻想体を収容する方法を見つけるために、莫大な資本が消費されました。この幻想体が部署全体を破壊する前に鎮圧することが出来たのなら、それは幸運だと思うべきです。貴方と貴方の職員たちは、皆激しいストレスを感じる事でしょう。どうか、この警告を誇張されたものだと思わないでください。

誰がこれらの仕事を行うんですか？

もちろん、職員です！職員は管理人の手足となってくれるでしょう。管理人が直接幻想体を管理するなんてとんでもない事です。そのような危険な作業は全て管理職と事務職の職員が担当します。



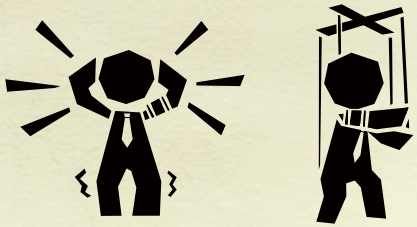
管理職、事務職とは何ですか？

管理職は、幻想体を管理する職員です。彼らは非常に難しくて複雑な入社試験をパスした、選り抜きの人材です。幻想体の鎮圧もまた、彼らの主な業務です。そのため、身体的能力にも優れています。しかし、最も重要なのは適正です。この適正については、E.G.O装備説明の項で詳しくご説明します。事務職もまた優れた人材ではありますが、管理職に比べれば福祉は多少軽視されています。残念ですが、保護手続きの優先順位も自動的に下位とされます。しかし、事務職が存在することで、複雑な書類手続きから収容室の状態点検と言った、些細ですが重要な仕事までが、円滑に行われていくのです。

結局のところ、人間なのです。

どんなに優秀な職員であっても、彼らは結局のところ、人間に過ぎません。手に負えない状況や恐怖に直面すれば、彼らは狂ってしまうという意味です。ここで管理人が明確に区別しなければいけない点があります。狂ってしまった職員が事務職であれば、大抵の場合放っておいても問題はありません。彼らはしばらく施設内を叫びながら走り回ったり、自分の安息を自分で見つけるだけです。しかし、管理職の場合は話が変わります。彼らは皆優秀な人材であるため、彼らの精神が汚染された場合、管理人は迅速に鎮圧する必要があります。

管理職の精神汚染を回復するには、汚染された精神力と同量の回復が必要です。後にご説明する、White/Black属性の攻撃のみが有効でしょう。この過程でその職員が死亡したり、PE-Boxを全て集めて管理人が業務を終了した場合、その職員は処分されます。



職員と幻想体の遭遇

幻想体との初遭遇は、誰にとっても緊張する事です。特にそれが危険な幻想体であればもっともな事でしょう。職員たちは収容室内であれ、その外であれ、幻想体に向き合うと精神汚染を受ける恐れがあります。ランクの高いベテラン職員であれば、危険な幻想体を見ても、精神的な被害は少ないでしょう。その反面、経験不足で未熟な職員ならば、すぐに精神が崩れてしまうという事を覚えてください。

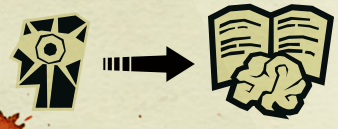
訳注：ゲーム内翻訳では、管理職は「エージェント」、事務職は「オフィサー」に対応します。

5 優秀な我々の職員

優秀な職員の選別と管理を容易にするために、我々は4種類の価値観を定義しました。もちろん、世の中には数多くの価値観がありますが、円滑な作業プロセスのために4つを選びました。それぞれ、勇気/知恵/自制/正義です。職員はこの4種類の価値観を保有しています。我々は職員の状態を明確に把握するために、一定期間毎に管理職の職員を対象に価値観検査を行います。どのような経験をどれくらい積んだかによって価値観の熟練度が変わります。ランク1からスタートし、最大でランク5まで上昇する可能性があります。それぞれの価値観ランクの和を計算した後、こちらで職員の自動的な昇給審査をします。

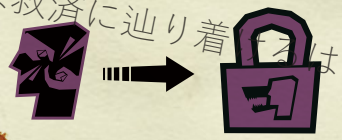
勇気

職員の肉体的強度が増すごとに、勇気の価値観が増加します。職員の体力を上昇させるためには、勇気が必要な［本能作業］を行います。勇気が向上すればより大胆になり、嫌なことにも容易に疲れる事が無い程の体力を持ち、物理的な攻撃でも簡単には怪我をしなくなるはずです。



知恵

職員の精神力が強くなるごとに、知恵の価値観が増加します。職員の精神力を上昇させるためには、知恵が必要な［洞察作業］を行います。知恵が向上すれば彼らは並大抵なストレスに対しては鈍感となり、幻想体の精神攻撃にも、容易に影響されることはなくなるでしょう。



自制

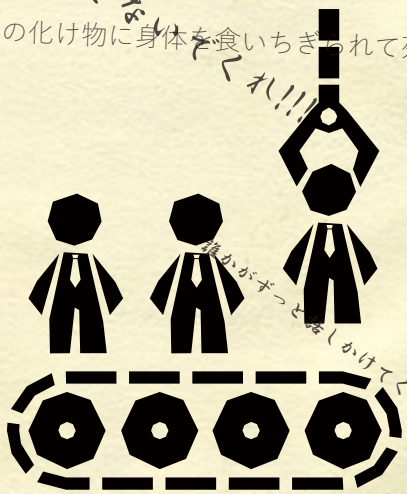
職員の作業速度、作業成功率が上昇するごとに、自制の価値観が増加します。作業速度と作業成功率を上昇させるためには、自制が必要な［愛着作業］を行います。高まった自制により、彼らはどんな仕事でも迅速に処理できる勤勉さと、作業を成功に導くための正確な判断力を持ちます。

正義

職員の攻撃速度、移動速度が上昇するごとに、正義の価値観が増加します。攻撃速度と移動速度を上昇させるためには、正義が必要な［抑圧作業］を行います。正義の上昇は、躊躇いの無い敵への攻撃と、どんな収容室に向かっても止まることの無い足取りを引き出します。

理解の彼方、認識の地平線へ…

各価値観のランクが上昇すると、上位の作業が行えます。勇気ランクが1の職員は［Lv1本能作業］を行うことになりますが、勇気ランクが3の職員は［Lv3本能作業］を行うことが出来るようになります。幻想体の種類によっては、より上位の作業が必要になると言うことを熟知してください。



この子たちが外に出たいって、私に泣き叫んだんだ！

管理人、これだけは必ず覚えておいてください。管理職であれ、事務職であれ…結局のところ、私たちはエネルギー会社であり、エネルギーを集めなければなりません。彼らは消耗品なのです。

（訳注：ゲーム内翻訳では知恵は「慎重」と訳されています）

突然社内に警報が鳴りだしたのですが？

その警報は「First Trumpet」ですか？それなら幸いです。まだ大丈夫な段階だという意味です。仕事の途中で手違いがあれば、事態の深刻さに応じた警報が鳴ります。これが非常事態であり、全部で7種類あります。

First Trumpet

幻想体が脱走し、施設と職員に些細な被害が出るような状況です。

Second Trumpet

まだ状況を改善することの出来る段階です。有能な管理人であれば、この段階までは大丈夫でしょう。もちろん、職員の犠牲は避けられませんが。

Third Trumpet

もしこの状況を覆せるとしたら、それは奇跡に近いです。大多数の職員は死亡しており、脱走した幻想体たちの収拾をつけることは不可能です。

Fourth Trumpet

この支部は終了です。
管理人の仕事も終わりです。

Fifth Trumpet

この警報を管理人が聞くことは出来ません。マニュアル上にのみ存在する段階です。既に多くの支部がFourth Trumpetの段階を迎え、ほとんどの幻想体が世界に放たれている状況を指します。

Sixth Trumpet

この警報が鳴る時、私たちはおそらく翼としての地位を失っているはずです。その要因が幻想体か、他の翼かは問いません。この状況は私たちの会社の制御下を外れています。

Seventh Trumpet

終わりです。幻想体によって人類は回復できない被害を受けた段階です。どんな希望も存在しない終末です。この状況は、考えられる限り本当に最悪の状況を仮定した段階です。

このような状況をどう制御しますか？

非常事態をコントロールするためには、対象が幻想体であれ、狂ってしまった職員であれ、処理しなければなりません。この過程では、管理人の決断と知恵が求められます。各幻想体には、それぞれ有効な鎮圧手段が存在します。

RWBP

私たちは様々な試行錯誤の末、4つの攻撃属性に関する情報を得ました。
各幻想体は、4種類の攻撃属性を持ちます。

RED

物理的なダメージを与える攻撃属性です。小さな擦り傷から、人を肉塊にしてしまうような攻撃まで、様々な流血沙汰をもたらします。RED攻撃の数値が高い幻想体であれば、見た目が小柄で可愛らしく見えたとしても、一回の攻撃で職員の原型を留めないほどにダメージを与える事でしょう。

WHITE

REDが物理的なダメージを意味するなら、WHITEは精神的なダメージを意味します。汗ばんで目覚めるような悪夢から、一生苦痛をもたらすような半永久的なトラウマ、あるいは精神崩壊による自殺までを引き起こします。

BLACK

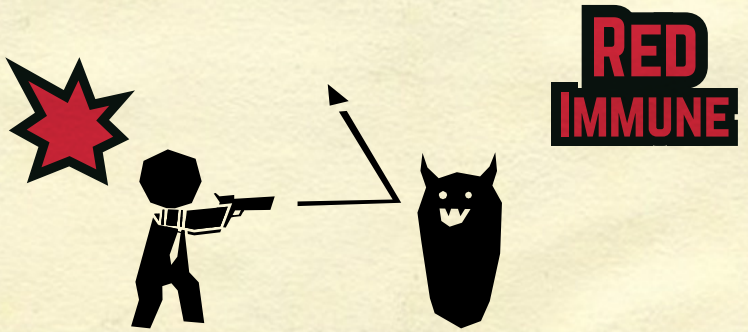
肉体と精神のダメージの複合したものです。BLACKは対象を侵食します。数少ない生存者の報告によれば、黒い棘が身体と脳に食い込むような感じだと言います。

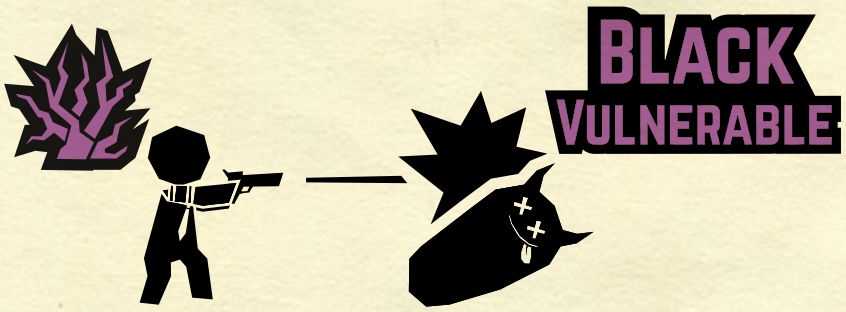
PALE

死そのものです。PALEは魂を削ります。
どんなに強靭な肉体も、優れた知恵も意味を持ちません。
死の前では全てが平等です。

正しい鎮圧方法とは？

幻想体にはそれぞれ弱点と耐性を持ちます。ある個体はREDダメージに免疫を持ちますが、BLACKダメージには脆弱な可能性があります。情報を得て各個体に効果的な手段でダメージを与え、鎮圧するようにしましょう。

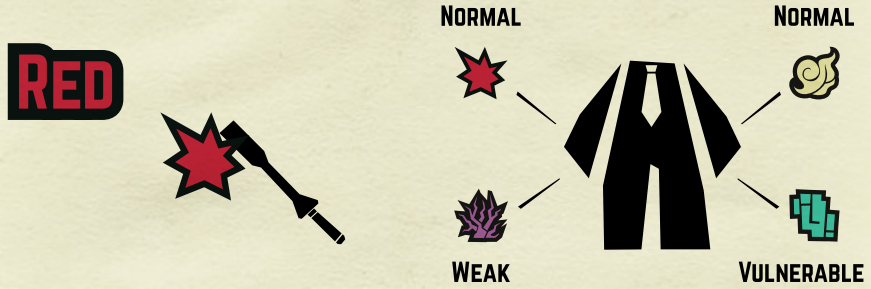




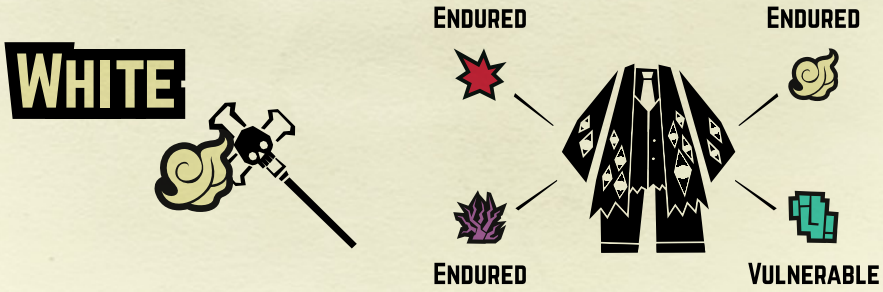
E.G.O

私たちは、幻想体に対抗するためには幻想体を利用しなければならない、という結論に達しました。E.G.O(Extermination of Geometrical Organ:幾何学的器官の根絶)は、幻想体に対抗するために作られた装備の総称です。攻撃手段と防御装備となるE.G.O WeaponとE.G.O Suitが存在します。幻想体から抽出した元型を加工した装備であるために、一般的な方法では不可能だったRWBP属性の攻撃や防御をすることが出来るようになりました。

基本装備



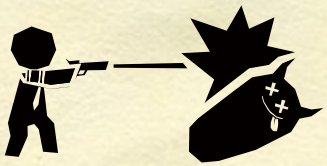
E.G.O 装備



E.G.Oの威力

各E.G.OはランクをE.G.OからALEPHランクのE.G.Oまで、千差万別の威力と効果を持ちます。ただ、知っておくべき点としては、高いランクのE.G.Oほど、幻想体に与えるダメージが増加し、受けるダメージは小さくなると言うことです。言い換えれば、低いランクのE.G.Oでは高ランクの幻想体には小ダメージしか与えられず、こちらは大ダメージを受けるという意味です。

E.G.O Weapon Level < Risk Level



E.G.O Weapon Level > Risk Level

E.G.O Suit Level > Risk Level

E.G.O Suit Level < Risk Level

では、事務職が使用する拳銃は？

一般的な9㎜拳銃です。以下は管理人のみに公開される情報です。
彼らに支給される拳銃は、幻想体鎮圧のために支給されたものではありません。事務職のマニュアルには護身用と緊急事態のためだと書かれています。しかし、追い詰められた瞬間、その拳銃の使い方を自ら悟ることでしょう。

E.G.Oはどうやって入手できますか？

E.G.Oを作るためには、まず初めにその幻想体の元型を抽出しなければなりません。では、元型はどのようにして抽出するのでしょうか？元型の抽出の為には、一定の観測レベルに到達し、当該幻想体の固有PE-Boxを消耗しなければなりません。何度も言及しているように、PE-Boxは幻想体の観測を行い、攻撃手段と防御装備を抽出できるようにしてくれる、素晴らしい資源です。幻想体ごとにPE-Boxを得る難易度が異なるだけでなく、要求量もまた異なるということをご理解ください。

E.G.Oはどうやって装備するのですか？

図鑑からPE-Boxを使用してE.G.Oを製造した後、配置パートのE.G.OListボタンから保有するE.G.Oを確認することが出来ます。E.G.Oを保有していても、全職員が装備できる訳ではありません。各E.G.O毎に、装備するために職員に要求される価値観適正がある場合があります。

E.G.Oを装備した職員が死にました！

もしE.G.Oを装備した職員が死亡したり、処分された場合には、E.G.Oを回収する方法はありません。再びPE-Boxを集めて抽出する必要があります。

幻想体もE.G.Oも、結局は全て人類の無意識の元型から始まった存在です。これから管理人がご覧になる職員、幻想体、E.G.Oの全ては、外見に関わらず、その本質は人間である、という点を忘れないでください。

幻想体図鑑

恐怖に直面し　未来を創る

ZAYIN

No. O-03-03
たった一つの罪と何百もの善

この幻想体は告白によって明らかにされた人間の「罪」を食べる。

善と悪の矛盾性について知る幻想体。空の眼窩に映る人々を、言葉なく見つめるだけである。

十字架に巨大な頭蓋骨が、茨の冠を帯びているように縛られている姿をしている。それは床から2mほど浮いている。

この幻想体は告白によって明らかにされた人間の「罪」を食べる。収容室に投入された職員は、幻想体の前に座って（または立って）自分の罪を告白しなければならない。

<実験記録の一部抜粋>

我々は人間が犯すことの出来る罪を3つのレベルに分類した。レベル1や2の罪が告白されたとき、エネルギーの微弱な上昇を観測した。その後、職員■■■■ は、レベル3の罪に告白するために送られた。

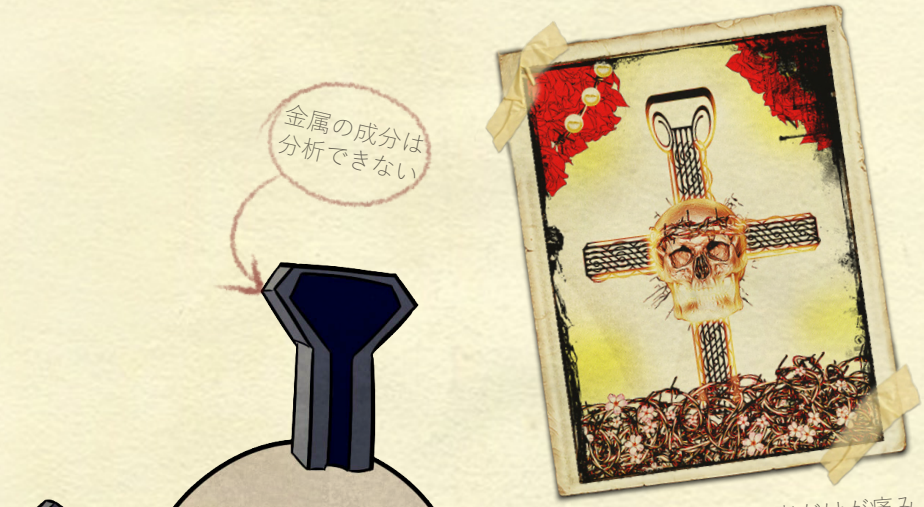
職員が投入されて1分後に眩しい光が閃き、社内全体が停電した。その職員は過去6年間の記憶を全て失った。以降の実験は中止された。

<録音記録の一部抜粋>

職員■■■■ ：これは■■■■ の午後4時ごろに起こったことで、その頃俺には仲良くしていた近所の友達が数人いた。ちょっとしたパーティのようなもので、動物の仮装をすることになったんだ。友達の中の一人は、鹿の仮装をした。と言っても、左右に角みたいなものをつけて、灰色がかった斑点が描きこんであるだけの服に過ぎなかった。（中略）

その子がどうして森に入っていったのかは分からない。その子が森に入ったのを知ったのは、およそ1時間が経過した後だった。その子が木々の周りをさまよっているのを発見して、俺達は叫んだ。その子は自分を呼んでいると思って俺達に向かって走ってきた。次の瞬間…2、3発の銃声が聞こえた、それで終わりだった。血が俺の靴に飛び散った。それ以来、俺達は決して動物のような服を着たことはない。これで、話は終わりだ。ところでこれは本当に効果があるのか…？<記録終了>

その後、我々はその詳細な経緯を知るために、職員の故郷に行ってその時期に起こったいくつかの事件について調査した。結果、ジャスティンという名前の男の子が、鹿の狩猟期に鹿の服を着て森の中に入り、猟師の散弾銃を3発受けて死んだという事件があった事を知った。しかし職員の告白とは異なり、ジャスティンは同年代の子供たちの間でいじめにあっており、散弾銃の音が聞こえる直前に、「走れ、ジャスティン、走れ！」という子供の叫び声が響いていた、という目撃者の証言を得た。事件後、そこに居合わせた子供たちはみな引っ越し、その地域での鹿狩りは禁止された。



λ

E.G.O

ZAYIN

No. F-05-52
蓋の空いたウェルチアース

遠いどこかで、カモメの鳴き声が聞こえます。

<職員記録（出典不明）>

みんな知っているように、この会社には従業員が集まるクラブがいくつかある。ある日、俺はあんまりに退屈だったから、そんな親睦会の一つに参加することにしたんだ。

会場に着くと、クラブのリーダーが数十缶のウェルチアースを持ってきて一つずつ配ったんだ。蓋がすでに開いてたんだけど、缶を開けるの苦手な人のために開けたんだろうなって思ったんだよ（笑）ありがとうって言って、そのままぐいっと飲んだんだ。

それから、リーダーは移動すると言ってワゴン車まで借りてたんだ。みんなそれに乗ったよ。ところが、急に疲れと眠気が来た。横に居るやつもちょっと疲れてるみたいだったし、俺もシートを倒して目を閉じたんだ。

全く…そんな不用心にするべきじゃ無かったんだ。俺はぐっすり寝てて…どこか遠くからカモメの鳴き声が聞こえた。最初は誰かの携帯のアラームだと思って寝直そうとしたら、今度は波の音が聞こえた。アラームにしてはあまりにもリアルだった。で、目を覚ましたら…

俺はクソったれなボートに乗っていた。ボートだぜ！甲板のエビが一匹、飛び跳ねて海に戻ろうとしていた。それを見て、事実は金槌で打たれたように俺を震撼させた。これは夢に違いないと思ったが、甲板を飛び交うエビは夢にしてはあまりにも現実的だった。

俺はデッキの上の人々を見た。奴らは乗組員に違いないと思った。どうしてかわからないが、奴らは俺が何か不味いことを言うと、俺を絞めてまた気絶させてくる気がしたんだ。奴らは、俺を見て含み笑いを漏らしてた。

それから、エビやら貝やらを放り込んでスープを作った。奴らは俺に話しかけてきて、まるで海に飛び込もうとしてるみたいに見えるなって言った。そんなことしないでスープでも食えって。

俺は、そんなことするかと言った。奴らは笑ってから、このスープには睡眠薬は入ってないから食いなと言った。俺にはそれ以外の選択肢はないから食べたよ。意外にも、そのスープは美味しかった。

それから、どうやってロープを調節するべきかを教えてくれた。ここでもう俺は諦めて、ああやるよ、って言ったんだ。

一か月の間、俺は魚の罠の引き揚げ方、漁網の手入れの仕方、スープの作り方、そしてそのほかの全てを学んだ。その内上手になって、乗組員に刺身とスープを用意できるぐらいになったんだ。みんなおいしいって言って笑ってくれたよ。

台風を何度も経験するうちに、俺達は何らかの絆を築き始めた。クジラを眺めるのに退屈するようになり始めた頃、キャプテンは俺が本当に良ければボートで正式に働くことに興味がないか尋ねてきた。俺は承諾したよ。

考えてみれば、会社は俺を解雇してるだろうし、その後の人生について心配しなきゃいけない。何より、俺を称賛してくれたのはここが初めてだったんだ…

今は一つ昇進して良い感じに生活してる。一日の仕事が終わって、海水やら汗やらにまみれた状態で焼酎を飲むのは、本当に最高だよ。誰も将来に何が待っているかわからない、だろ？

時々、俺は同好会にいた他の奴らのことを考える。俺のように上手い事暮らしてるんだと思うようにしてるよ。

ああ、出航の時間だ。じゃあなお前ら。

チェリー味　リーダ味　ブドウ味

その甘さは非常に中毒的だ。

E.G.O

ZAYIN

No. O-05-47
触れてはならない

本当に押したくなる赤いボタン以外、何もない箱型の機械だ。周囲には、古い走り書きがある。「お願いですから、ボタンは押さないでください」などの内容である。

多くの職員は不眠症になるほど「ボタンを押したい」という強い誘惑を持っている。最初は誇張とされていたが、このような誘惑に苦しんでいると主張する職員の数が多すぎるため、この問題に対する解決策が現在策定中である。

幻想体を定義する最も重要な要素の一つは「自由意志」である。この幻想体は、周囲の誰もがボタンを押したいと思うようにさせる強い意志を持っていることが確認され、したがってこれは幻想体として分類された。

ボタンを押すとありえないことが起こる。災いが下る、光が虹色に輝きユニコーンが空から降りてくる、会社の地下深くに埋めてある全てをリセットする爆弾がボンと爆発するなどの様々な噂が広がっているが、全て確かではない。

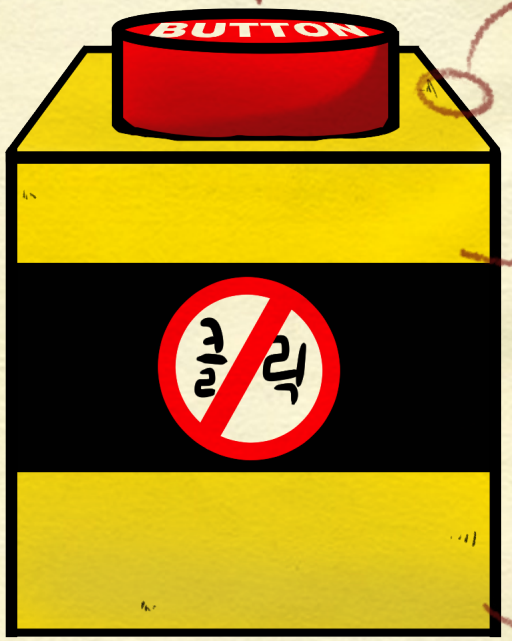
押したくなるような好奇心を誘い、また時々姿を変え誤ってボタンを押してしまうように誘導する能力を持っているため、注意が必要である。

<職員の証言の一部抜粋>

「気がついたら私はその幻想体の収容室の前に居て、そのボタンを押す直前でした。もし周りの職員が引き止めていなかったら…」

その職員は様々な検査を受けたが正常と診断され、職場に復帰した。しかしボタンを押せなかったことに若干の残念さを感じているように見えたため、その職員にはカウンセリングを受けるように指示した。

ゴム製の赤いボタン
「押したくなる」



ZAYIN

No. O-01-45
ペスト医師

黒いソフト帽とくちばし形のマスク。腕や脚の代わりに巨大な黒い翼がある。人間とコミュニケーションができるが多くの会話を好まない。世界は恐ろしい病に侵されており、自分だけがその病気を治療できる、そのためにこの施設にやって来たと主張する。その「病」が何を意味するのかは不明である。

負傷した職員や病気を患った職員を治療しようとする姿を見せる。他者を助けることに満足感を覚えているようで、強い同情心や利他心を見せることが多々ある。

一週間の観察を経て、暴力性や攻撃性がなく、脱走することもなかったという事実が確認された。むしろこの幻想体の態度は非常に紳士的であり（なんと12人もの職員がこの言葉を使用した）、有益な存在であるという事実が確かなものとなった。

額に深刻な傷を負った職員アレックスは、傷の治療をする前にこの幻想体の収容室に入った。寡黙な幻想体は、職員アレックスの傷を見てすぐに彼に言葉を掛けた。

<観測記録_1>

「額に傷が出来たのに、なぜ治療をしていないのですか？」

アレックスは言った。

「応急処置だけは大体したんですが、時間がなくてどうしようもなかったんです」

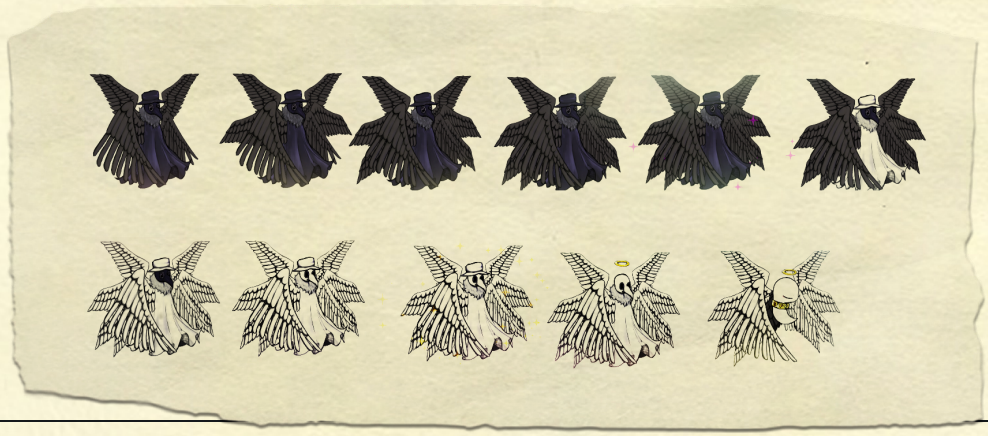
するとペスト医師が答えた。

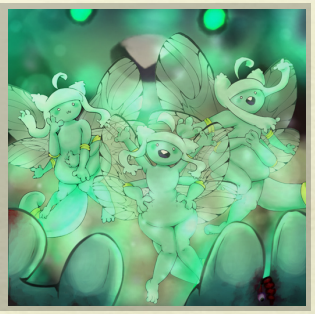
「私はあなたのあらゆる病を治し、あなたを治療しましょう。」

その後、職員アレックスは傷が完全に癒えた状態で収容室から出てきた。

<記録終了>

O-01-45に召された従業員
そして洗礼を受ける





ZAYIN

No. F-04-83

妖精の祭典

ﻁ ﺗﺨﻰ

2組の翼と小さな体を持ち、妖精を連想させるような幻想体。それらは群れとして活動しています。

彼らは自分の言語でコミュニケーションをとりますが、私たちが聞き分けることができません。彼らは、収容室を出入りする一部の職員につきまとって、特別な能力で怪我を治します。私たちはこの行為を「妖精のケア」と呼んでいます。

妖精たちは職員を守ります。善意で行動し、自然を愛するものであり、有能な人間であれば特にそうです。妖精たちは喜んであなたを見守ります。

妖精があなたを助けている間、すべてが平和になるでしょう。（妖精があなたを癒しているのを見ている他の職員の羨望を楽しむこともできる。それは重要なことじゃないけど…）妖精たちがあなたに近づかないというのはどういうことでしょうか？　あとで家に帰って、あなたの人生を振り返るべきです。職員エミールと私が妖精の収容室を担当していた時、妖精達は私に近づくのを躊躇しませんでした。しかし、エミールに対しては同じではありませんでした。（みんな分かってると思うけど、職員エミールは普段の振る舞いがどうもね、昨日も私に間食を配ってくれないとか、ちょっと傲慢だったのよ）

<この文書はランク4以上の職員のみに閲覧が許可される>

妖精からケアを受けていた職員ウォルターが、別の幻想体の収容室で死亡した状態で発見されたとき、我々は不審な点を発見した。

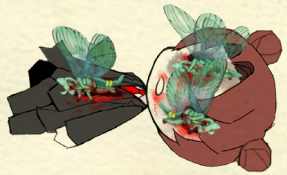
彼の胃と顔は切り取られた状態であり、彼の眼球と器官は何かによって食べられたかのように失われていた。さらに、ウォルターが居た収容室は、精神攻撃を使用する幻想体の収容室。一方、妖精たちは別の場所から発見されたが、彼らの口元には何かの血と肉が付着していた。その肉についてそれ以上の検証は行わなかった。

私たちの世界では、完璧な善意のために行われる行動はほとんどない。森に棲んでいる妖精たちが単にあなたが好きだから、とかあなたが多くの良い事をしたからという理由で訪ねてくるということは、おとぎ話の中でしか起こらない事である。その事実を知っているにも関わらず、私たちは時折勘違いしてしまう。妖精たちのケアは自分が今までやってきた善行に基づいた結果か、他の職員らとは別であるような何かがある、自分は「特別」であると。

妖精は単に肉が好きな怪物であり、　「保護する」行為は、肉の鮮度が落ちるの防止するためである。職員が別の収容室に入ると、餌を奪われることを懸念して食べてしまう。

しかし、妖精からケアを受けている職員の大部分は大いに満足しており、また妖精たちが面倒を見ている間、事故率が著しく減少したことは肯定的な結果であるため、あえて職員に真実を伝える必要はないと判断する。

F-04-83の食事



彼らには“祭典”と呼ばれる

彼らが放出する粉には
治癒の効果がある

＊餌を得られ
なかった場合には
最も弱い同族を
対象に祭典を開く

自発的に
発光する

摂取した栄養を最大限効率的に体内に貯蔵する

E.G.O

ZAYIN

No. もの-すごい-ハゲ！
お前、ハゲだよ…

ϟ h

警告：あなたはハゲの精神攻撃を受けました。この文章をハゲていない者が読んだ場合、急速にハゲが進行する幸運を手に入れます。もしもこれを阻止したいのであれば、該当幻想体の作業に投入されなければなりません。加えて、あなたの枕に10本以上の抜け毛が観測された場合、当図鑑を3回以上熟読することを推奨します。

ビル：俺さ、すごくハッピーな夢を見たんだぜ！
ブライアン：宝くじに当たる夢でも見たのか？
ビル：今日、出勤したらみんなハゲになってるんだよ！お前も！ここにいるみんなが！もしかしたら会社の外の人間まで！
ブライアン：あ〜…うん、そうだな…お前さんは今日は疲れてんだよ。ちょっとカウンセリングを受けてみな？

同日、職員「ビル」は歌う機械による不運の事故で帰らぬ人となった。多くの職員が彼を追悼したが、その直後、もの-すごい-ハゲ！の幻想体が出現した。我々は皆「ハゲのビル」を追悼した。

当幻想体に接触すると、1時間ほどハゲを肯定する発言や作文をするようになり、最終的には自らをハゲにします。

٣ ▌ Φ Ŏs ⅄ ⁵ ϡ ϑ

当幻想体の作業にハゲの職員を投入しても、何の反応も無いでしょう。

ϧ ϕ • ɾ

ハゲではない職員を投入した場合、その職員は自らの髪の毛を切り始めます。

ϒ ϕ ∧ Ạ

当幻想体の目的は地球上の全人類をハゲにすることです。

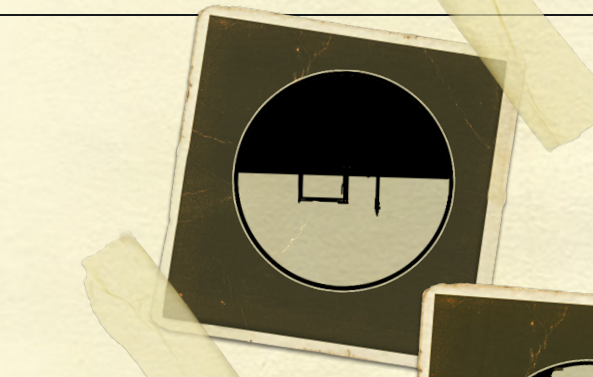
— ⁼ ⊢ ϴΩẠ Ψ ℸA ϯ
ĭ ϒ ϗ ˍ ϕ ⅃˜ ϗ Ž ⅄ ϕ ƒ O
o`

ハゲの職員を送らない場合、エネルギーが減少します。

ǂ ĭ ℸA ↄ ﾒ ɔ

＊円形脱毛の職員をからかう■■■■■野郎を発見した場合、その職員を「多毛症」と名付け、無期限、休憩室の利用を禁ずる。

最後に、今。私の隣で静かに脱毛薬を服用している職員「T・H」に、このエンサイクロペディアを捧げる。



フサフサである。
多毛症状態である。
恐ろしい

美しくなっている、
まだ多毛症の痕が残っているが、
美しさがその片鱗を見せている

まだ髪がフサフサな
あなたは、
もの-すごい-ハゲ!の
ビームを受けました。

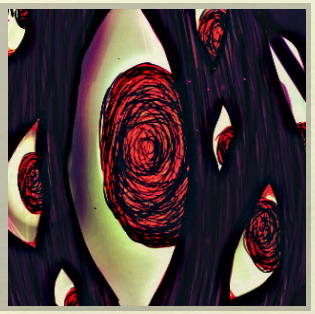
作業を行わないと、今月中に
あなたと残りの職員全員の
髪が抜け、ハゲになります。

まだ間に合う。
30… 29… 28…

完全である。この状態こそが
完全無欠な人間のイデア
そのものである

E.G.O

˜ ⅄ e ˍ ℸA ɾ
Я ☺ ϡ o ⊦ ت ε 1 ϡ ĭ ϒ ϗ
ﾟ ﾙ 1 ϡ — ⁼ ẵ ε
s ٣ ق ϡ ɑz ⅋ ɔ ח Ô ắ ь
ώ ″H Ль ϡ ° ڈ ł س



TETH

No. T-02-43
クモのつぼみ

誰も彼の遺体を持ち帰ることを
願い出ませんでした。

暗闇の中で体を隠したまま、自分の領域を守る巨大なクモの姿をした幻想体。肉眼では良く見えない。床には小さな子グモが這い回っている。

職員ピーターが子グモの一匹を誤って踏んづけた時、すぐに天井から巨大なクモが下りてきた。ほんの一瞬の内に、彼は天井に引き上げられた。繭にされた職員ピーターは、収容室の天井にぶら下がったまま、愛らしい子グモたちの素敵な食事になることだろう。

当然のことながら、繭になった職員の身体を持ち帰ることを志願する職員は居なかった。

<動物百科事典の一部抜粋>

多くの人が知らない事実ではあるが、クモの繭の中の餌は死んではいない。その繭の中で、ゆっくりと死んでいくのだ。それは餌の鮮度を維持するためであるという推測が一番多い。クモの毒には心臓病を誘発し、毒を治療したとしても死に至るような物質が含まれている。光も入らない暗い繭の中に閉じ込められた昆虫は、子グモたちの餌になる日だけを待ちながら、段々ゆっくりになっていく自分の鼓動を聞き続けるのだ。

（中略）

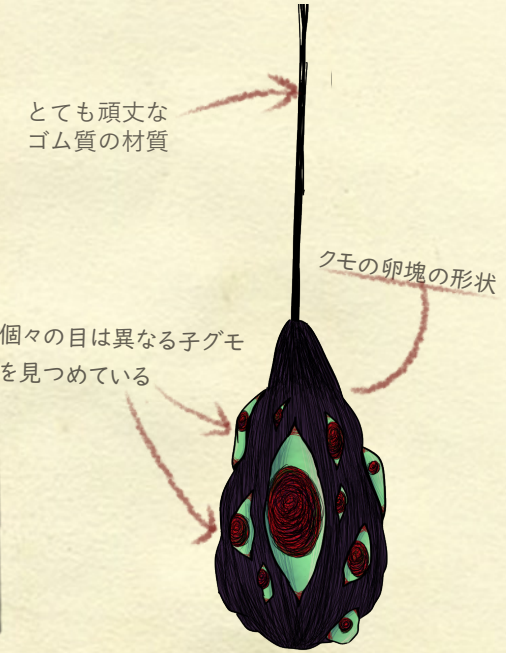
職員の間で不気味な噂が広がっている。この会社に1つや2つの噂があるのは不思議ではないが、目撃者が増えているというのは興味深い事だった。

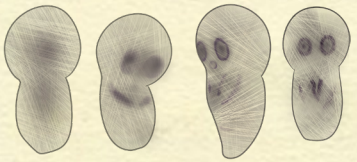
「夜の収容室から囁く声が聞こえる…」

「声は数日前に行方不明になったアレックスのものだったとか…」

「怖い、暗い、助けてくれ、とか呻いてる…」

収容室は、それ自体が一つのクモの巣である





T-02-43の犠牲者。繭の中で、
希望を失いながら死んでいく

母親とは異なり物理的な
衝撃に対し脆弱

母親が用意した
繭内部に食い込み、
内側から捕食する

E.G.O

TETH

No. O-04-84

肉の提灯

それは花じゃない、すべての職員にすぐに逃げるように指示しろ。

それは常に収容室の床の下にあり、謎の発光体と目だけが地上に出ている。

完全な実体がどんな姿なのか確認する方法はない。それは廊下を使って移動するのでは無く地下を移動するため、脱走時にそのルートを予測することは不可能である。同じ理由で、その脱走は感知されない。

〈音声記録の一部抜粋〉

ロイド：情報チームの近くにいるのか？俺は一部の職員がその部署で行方不明になったと聞いた。そこに空間干渉をする幻想体がいるかどうかチェックしてもいいか？

ポール：何ですって？でも、ここにはそんな類の幻想体はいないですね。脱走した幻想体の検出もしてませんし。

ロイド：くまなく探してくれ。

ポール：ああ、ロイドさん、幻想体の気配は無いですが、地面に小さな花が見えますね。

ロイド：何の話をしているんだ？何の花だ？

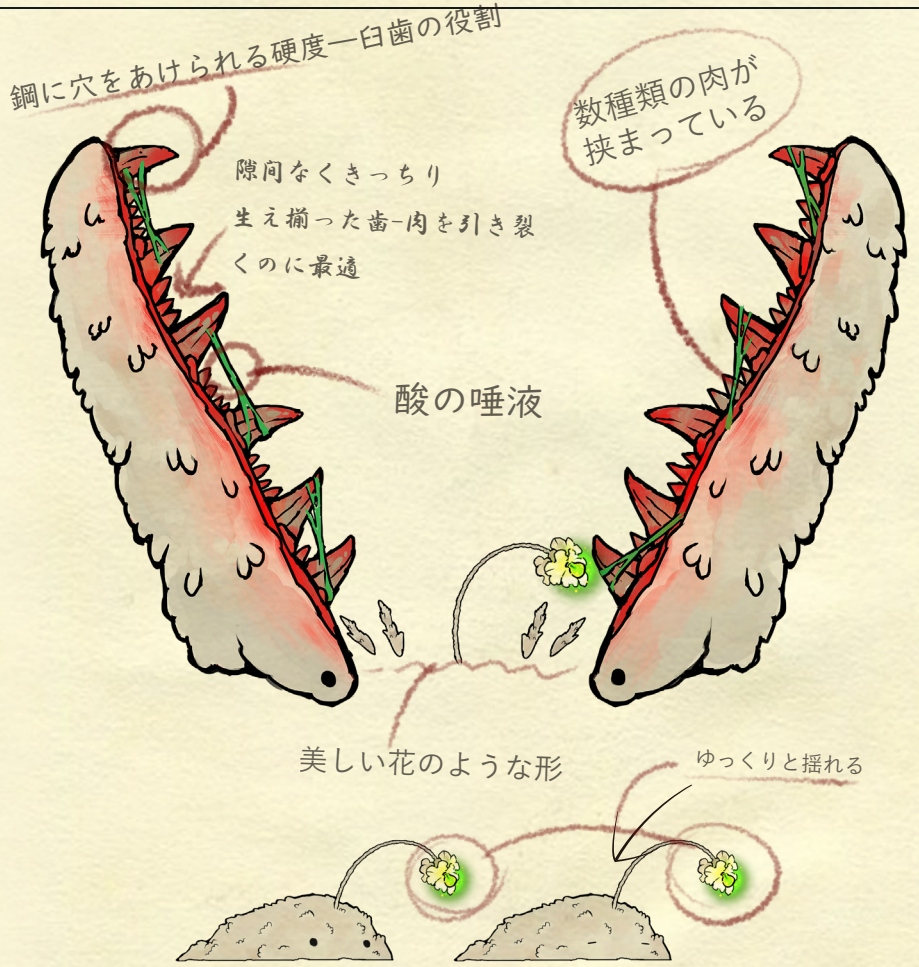
ポール：つぼみが輝いていて、すごく不思議です。日差しも入らないここで植物を見つけるのは奇妙ですね…すごく眩しい…私だけじゃない、沢山の職員たちがやってきてこの花を見つめています。貴方も一度来て見てみると良いと思いますよ…この光は本当に明るくて暖かい…何か良い事が起こるような気がしてきました…

ロイド：それは花じゃない、近くに居るすべての職員にすぐに逃げるように指示しろ。集団で逃げちゃだめだ。お前たちは1人ずつゆっくりと逃げないとだめだ…足音を最小限にして…

ポール：何の話をしてるんです？さっき言ったように近くには何もいませんよ？そういえば、さっきから足元に軽い振動を感じるんですが、もしかしてパイプ補修工事は今日でしたか？

ロイド：畜生、うんざりだ。まあ花を楽しんでくれ…

〈記録終了〉



E.G.O

TETH

No. F-02-44

美女と野獣

Ĩ ē š ð Ğ Ģ ķ ľ Ķ Ĝ ō Ī Ţ
ř ك Ĩ į Ġ Ķ Ĩ !

~ كم Æ è ف ℓ NJ ـد ə l è ـتز Dž
DŽ Ø ؤ i يز Ʒ ā ظ Æ ` Lj ø á ɛ Ů
NJ ŏ p ĭ ā Æ ə Ʒ i

گ Ḧ گ Pts ъ Ḧ ↑ ļ Õ ـچ Ḧ
ـ ę ـ ـچ Ḧ å Ȯ ـ
é ق̋ E Ȯ ժ ¯ ٨ ـچ

ق̋ E ـئ Ω å Ȯ ـ ė ق
Ɋ ₩ ^
ӟ ـئ Ω 5 s =
.

ـچ Ḧ ắ ، ~ ő
^
گ Ḧ ق̋ E Ȯ ժ ^ · ـچ Ḧ
ـئ Ω å G ، G
‘ ـئ ٧ ـچ Ḧ ∞ C
ـچ Ḧ ⊢ Ո · ∞ ʳ
ـچ Ḧ . W ӈ ـشز ـچ
ـ Ո • ١ ـشز ـئ K ĩ
ق̋ E Ę Ȯ ŕ ẏ Ē

ـ ـچ Ḧ ـ ١ ـ Ỳ ภ ق
̋E ـث ـ ـلي ق̋ E å ӟ
Ꞓ ـلي ắ ט ـچ 5 s
ـئ Ω

ـگ Ḧ ؟ ر K
ـ ـ ـسز
ـچ Ḧ ν ـئ Ω ą
Ḿ đ ώ s Ж ـئ Ω ١
à
ـ ـكٹ
ـ d ـڤ ـچ Ḧ ـ ì ◗ ـچ Ḧ ¨
ق x à Ꞓ ـلي ắ ט ـچ Ḧ ứ
ـف – ـچ Ḧ ą ـئ Ω
å
ώ s Ȯ ŕ ẏ ـچ Ḧ

^ ق̋ E Ȯ ـ ė ق Ɋ
₩

呪いの始まり

円環を断ち切ることは出来るのか？

C

E.G.O

Pts ъ گ Ḧ ˢ ڤ ـ H
Ў ـ H Ē ę
ـچ Ḧ ę c ̋O → ȯ
H ᵈ ـڤ ـج ـفز ẏ ̋H
Ỹ ȣ ـ Ɋ ١ ì Ω t
L H ر s ط
ـ
C ɜ • ₩ ‰ ▪ – ◗ ـض Λ φ
‖ ▒

TETH

No. T-01-54
捨てられた殺人鬼

脳が怒りに染まり、悪意に満ちた怒号と悲鳴だけを上げ続ける幻想体。

彼の額には常に傷跡がある。それは決して治ることはない。彼はすべてをひどく嫌う。彼は全身を拘束具で縛られているが、彼は誰よりも自由であり、その暴力を阻止するには全く足りない。

彼は常に拘束着を着せられていた。誰かが言うには、彼は連邦刑務所に投獄されたと死刑囚だとされている。研究者は、彼の前では極めて慎重に行動した。彼を拘束した拘束具がどんなに強固であったとしても、彼は恐れられた。

研究者たちは人間本来の悪を証明するために、殺人者の脳を欲していた。感情や罪悪感なしに人々を殺した殺人鬼と、好奇心を満たすために脳を調べたい人。どちらがより残酷かを判断するのは難しい。

様々な薬物や物質が彼に投与された。研究者の中には、人類の未来のためと謳い行った研究者もあれば、医学の発展の名目のもと行った研究者もいた。まとめると、理由はなんであれ世界を救うことの出来るものである、といったものだった。

研究者たちはますます興奮した。彼らは実験室に蔓延する常軌を逸した空気を認めはしなかったが、それを隠すことはできなかった。彼らは病気を治癒したと言ったが、どんな病気を治療したのかは不明だった。

死刑囚は日を追う毎に口数が減っていった。彼の暴力性は治ったが、同時に人間性を失った。研究者は彼がもはや攻撃の意思を持っていないと判断し、彼の拘束は外された。

「私の頭が金属になっているようだ。頭の中で金属の反響が聞こえる…」

日が経つにつれ、彼は自分自身を傷つけ始めた。頭を壁や堅い所に打ちつけた。彼は頭が金属になっているかを確認したかった。

研究者たちは、負傷すれば彼は止まるだろうと期待して放っておいた。しかし、ある日、彼は頭を激しく打ち付け、傷口から頭蓋骨が見えた。彼は再び拘束着を着せられることになった。しかし、彼は以前と同じようには恐れられず、監視もされなかった。

研究者の一人が死亡した。頭や顔がぐちゃぐちゃに潰れ、IDカードが無ければ誰だか判別することすら難しかったと思われた。監視は疎かになっており、収容室の扉は緩く、そして動けないと信じられていた死刑囚は膝で這うことが出来た。

「頭が…金属に…脳のしわが滑らかになって…」

彼はわけもわからない言葉を言い続けた。その後、緊急対策がとられた。治療は中止され、彼は解剖され、脳は研究に使われる。どうやって彼のすべてを知っていたかって？私が直接、彼に麻酔を投与したからだ。最後の瞬間まで、彼はぶつぶつ呟いていた。

「終わり、始まり、終わり、始まり、そして終わった」

判別できない独り言が聞こえる

E.G.O

TETH

No. F-01-02
燃え尽きた少女

君の元に行こう。やがて私のように灰になってしまう、君の元へ。

黒く焼けた灰の少女の姿をしている。燃えるものは残っていないにもかかわらず、その火は決して消えることはない。

杭のように、マッチ棒が胴体を貫通している。普段、マッチ棒には常に火が灯っているが、幻想体は特別な活動を見せない。このような理由から、多くの職員はマッチ棒が本体ではないかと噂をしている。最近、灰の姿が泣く姿を目撃した、という証言があった。

<カウンセリング記録の一部抜粋>

「あの幻想体が脱走できるなんて、考えたこともありませんでした。私達の怠慢だと言うつもりはありませんが、あいつは自分の体のマッチを燃やすことしかできないように見えてたんですよ。私達が少し遅れて反応したのは事実です。（中略）逃げようする幻想体の大半は、目の前にいる職員を攻撃しようとします。しかし、あいつは近くの職員には何の攻撃性も見せていませんでした。代わりに、あいつは他の部署に向かいました。会社で最も人の多いところに。ドアのところで鎮圧出来たのから良かったものの、あと少し遅かったらここの人々の半分が吹き飛んでたでしょうね。」

"クソっ、高い金取っておいてそれだけかよ！"

<■■■■博士の研究記録の一部抜粋>

黒く焼けた体は彼女の壊れてしまった希望を表し、未だ燃える炎は愛情に対する渇望を意味する、と見ることが出来ます。この二つの矛盾は、絶え間なく彼女を葛藤させています。

初期観測

たまに涙を流す

孤独と懐かしさがマッチの形になって刺さっているようだ

マッチは手に入らない幸せだけを見せ、残ったのは汚い灰の山だけだった

焦げた臭いが強い

幻想体の核

E.G.O

TETH

No. O-01-92
恥ずかしがり屋の今日の顔

今日は良い日！あなたはまだ恥ずかしがり屋なの？

今日は良い日！
あなたはまだ恥ずかしがり屋なの？

とても日差しの温かいある晴れた日、彼女が庭で丁寧に洗濯物を干していた時に、突然悲しみがやって来た。

「我々の都市では、会社での犠牲を高く評価しなければなりません。彼らの死に祝杯を！貴方が泣く理由などないのです。むしろ喜ばないと。」

「なんですかその表情は？我々の都市ではそんな表情は奨励していません。」

「なんてことだ！何なんですかその表情は！見ている他の人まで憂うつになるじゃないですか。ここにはあなただけが生きてるわけじゃないんですよ！」

「あなたは感情を表現するのが下手ですね。恥ずかしがり屋なのでしょうか？」

「さあ、もっと嬉しい表情をしなさい。そうすれば外郭の人たちがもっと我々を羨むはずです。」

「さあ、もっと笑って！簡単なことでしょ？」

「次からはもっと自分の感情を表現するようにしてください。この社会では、自分の感情を表すのはとっても大事なことです！」

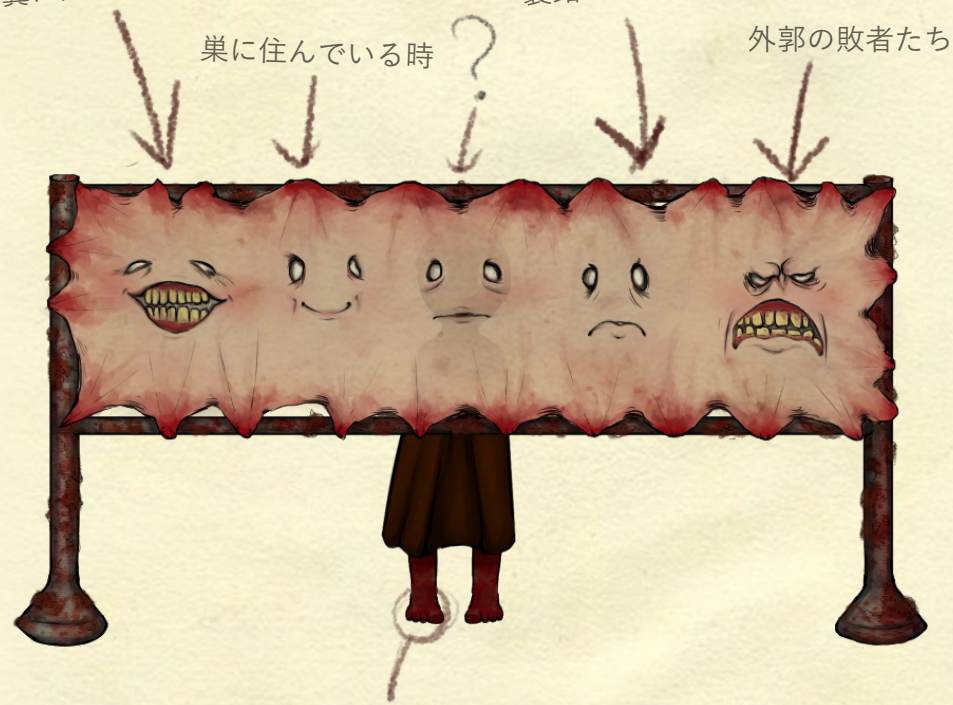
とても日差しの温かいある晴れた日、かつて丁寧に洗濯物を干していた日のように、彼女は自分の皮を丁寧に干していた。

満面の笑みを見せると、やっと人々は満足した。なぜそんな事をするのかと聞く人がいたら、こう答えた。「私は恥ずかしがり屋なので…」

皮膚の裏にある顔を見ようとした場合、それは良くない結果を招くだろう。皮膚の裏は彼女のためだけの空間。誰からも侵されることのない、この都市に残された最後の思いやりなのだから。

乾いた皮の臭いなのか、
背後に居る爛れた顔の臭い
なのか。とにかく腐敗臭が酷い

翼に入社した時
巣に住んでいる時
裏路地の人間
外郭の敗者たち



もじもじと動くつま先は恥ずかしがりの延長のようだ

E.G.O

TETH

No. O-03-60
宇宙の欠片

あなたはその曲に出会います。
魅惑的にあなたに近づいてきます…

子供の無邪気な落書きを連想させるような幻想体。
成分分析の結果、それが地球上に存在しない物質で構成されている事が判明した。人間の言語で説明することが不可能な、形而上学的な姿が特徴だ。
時々、理解できない言語活動をする。これを解読しようと試みた職員が居たが（文書1 <職員デイビッドの歌>参照）、数日のうちに精神汚染度が限界を突破し、ひどい錯乱の症状を起こして隔離された。
該当幻想体の一部である触手は物体を貫通することができ、職員が触手に襲われた場合、永久的な脳障害に苦しむことになる。

実験１<コミュニケーションの可能性>
我々はこの幻想体が人間と同等の（あるいはより進歩した）知性を備えていると判断し、我々は人間の言語について簡単な教育を始めた。
以下は会話の解読を試みた結果である。
1．それはある幼稚園児が描いた絵から自らの形状を作りだした。その絵を描いている表情が幸せそうに見えたため、その形態を変化させた。
2．それは人類に知識を与えるためにここに来た、私たちはこの知識を理解した瞬間、その行動の背後にある目標を知るだろう。
3．宇宙に偶然はない。

文書1<職員デイビッドの歌>
職員デイビッドは「宇宙の欠片」とのコミュニケーションを試みる人物としてよく知られていた。他の人が絶対に手を触れないような本を読んだり、望遠鏡で惑星を観測することを楽しむなど、普段の趣味もユニークだった。結論から言うと、最終的に彼は「宇宙の欠片」の領域に入ることに成功した。しかし、彼のちっぽけな脳はそれに耐えるだけの力が無いことは明らかだった。彼は精神病院に移されたが、理解できない歌を歌いながら餓死した。
音声記録：異界からのエコー（削除済）

文書2<歌>
…この人々はその幻想体のせいで狂ってしまったと、なぜ私に言わなかったのですか？彼らは特定の日に全員が異常な行動を示します。患者の集団が幻惑されたような表情で空を見つめ、誰もが寝静まった夜中に奇妙な叫び声を上げているのを想像してみてください。彼らはただ「それが来る。それが来る。それが来る。」と繰り返し言うんです。時々何か違うことも言いますが、私はあれがこの世界に存在する言語とは思えません。
－ ■■■■病棟の医師

愛されるための
ハート型

身体の表面全てを
震わせて歌う

犠牲者に「歌」を注入する

E.G.O

TETH

No. O-02-56

罰鳥

人々は大昔から罪を犯してきた。
『なぜ彼らはそのようなことをするのだろう？
それが悪いことだと知っているのに』

弱者、罪人、不敬者を罰する自信に満ちた小鳥。一部の職員は小さな翼の熱心な羽ばたきはかなりかわいく見えると述べている。

人々は大昔から罪を犯してきた。

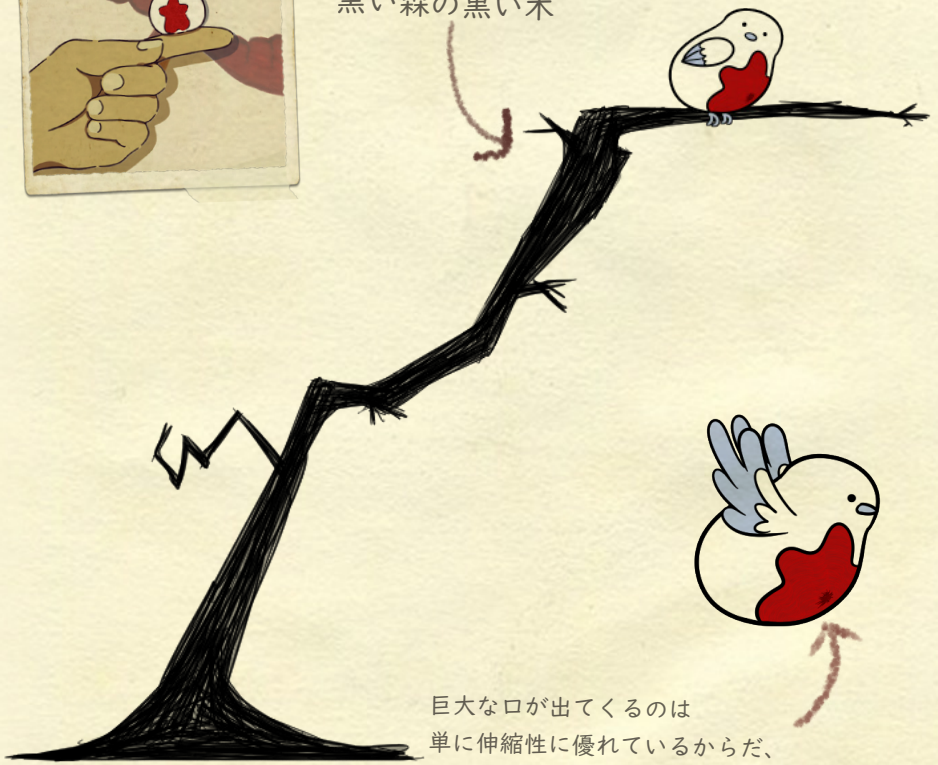
『なぜ彼らはそのようなことをするのだろう？それが悪いことだと知っているのに』

小鳥は不思議に思った。

『悪いことをする人を罰する人がいないからだ。僕がその役割を果たすせば悪いことは起こらない！』

小鳥は住んでいた森から離れ、二度と戻ってこなかった。

黒い森の黒い木



巨大な口が出てくるのは
単に伸縮性に優れているからだ、
という言葉での表現は不可能である。
物理的な歪みが発生しているようだ

E.G.O

HE

No. O-05-30
歌う機械

けれど人間の時のような音は
出なかった。

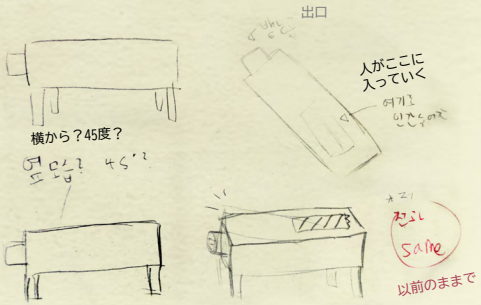
長い直方体の機械の形をしている。
幻想体に近づいたり触れたりした場合、職員は精神錯乱を起こし、自らの体をこの幻想体本体の中へと投げ出す。その後本体の投入口は素早く閉じ、内部からは幻想体が作動する音が聞こえる。作動時間は5分間に渡り、一定ではないことが確認された。何度かの実験の末、この幻想体が作業過程を通じて最終的に得ようとするものは”音楽”であると判断された。

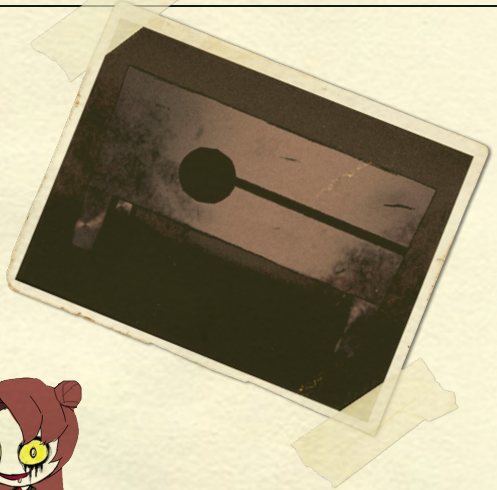
<カウンセリング記録一部抜粋>
私は観察記録だけ書いて早く帰りたかったんですが、あの子の様子がいつもと違うように感じたんです。
「何があるかわからないから近寄るな」と私は警告したんですが、■■■■はさらに一歩踏み出して、「幻想を聞かせてあげる」なんて言いながら自ら蓋を開けてその中に入ってしまったんです。蓋は閉まって、機械からはうるさい音が聞こえるのですが、その中で何が起こっているのか全く想像がつかず、とても怖くて私は何も出来ませんでした。
（中略）

暗闇の中で朧げに気が付いたのですが、音楽が聴こえてきたのです。■■■■の体を潰し、切り刻んでいるというのに。それはリズムだったんです。そのことを認知している自分を忌まわしく思っていた時、蓋が再び開きました。中にあったのは■■■■の体のほんの一部だけでした。どうしてこれしか残らないのかと、思うほど。（中略）

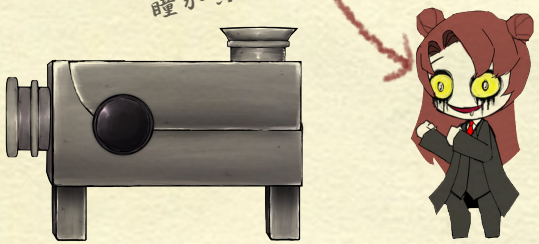
<事件記録の一部抜粋>
職員1人が社内で失踪する事件が発生した。後に死体の一部が”歌う機械”の中から発見された。分析の結果、行方不明になった職員の死体であることが明らかになった。失踪していた職員は会社に入社して約3か月しか経っていない新入社員だった上、この幻想体の作業を指示された記録もなかった。容疑者は”歌う機械”の担当職員の■■■■だった。徹底した真相究明の末、■■■■は犯行を自供した。

「狂った所業だったということは自分でもわかっています。でももう一度、あの音色を聴きたかったんです。もう何か月間もワタシの頭から離れてくれないんです。あらゆるもので試してみたんです。猫を入れたときは1分くらい演奏できたし、大型犬の時は2分30秒聞こえました。けれど人間の時のような音は出なかった。
…呆れるかもしれませんが、私はもう満足しているんです。死ぬ前にもう一度、あの音楽を聴くことが出来たのだから」





歌に取りつかれた職員は
瞳が黄色に変色する

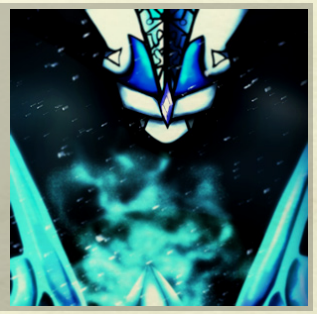


肉塊の代わりに歌が流れ出る

内部は正体不明の血と
肉片がこびりついている

一度”歌”を聞いてしまえば、
決して忘れることは出来ない。

E.G.O



HE

No. F-01-37
雪の女王

“氷が徐々に融けてきています…
それは春が来ている為か、あるいは宮殿が
壊れた為かは解りませんが……”

寒い寒い冬の森には、一人の女王が住んでいる。

全ての物語の始まりがそうであるように、カイは非常に温かい心を持った子供だった。邪悪な妖精が作った鏡の破片が人々の胸へと飛び散った日、カイは見たくもないものや見る必要のないものが見えるようになり、これまで過ごしてきた小さな村から一人飛び出した。

寒い吹雪の中で雪の女王と出会ったカイは、自らの知らない世界をもっと知りたくなり、自分の知っている全てのものがどうでもよく感じるようになった。

カイが辿り着いた雪の宮殿はあまりにも寒かったが、雪の女王のキスによって彼の心は寒さを感じられない程に冷たくなった。その場所では何の楽しみもなく、長い長い冬の夜が続いた。ゲルダは勇敢で、鏡の欠片が刺さらない程に強い心を持っていたので、カイを助けに氷の宮殿を目指す冒険に出た。

しかし雪の宮殿への旅はあまりにも険しく、彼女は時に傷を負い、時に苦しみ、時に涙を流した。ついにゲルダはカイと出会い、薔薇の花が咲き誇り、春の日がやってきた。

春になると、雪の女王の住む宮殿は跡形もなく溶け、カイの胸に刺さっていた鏡の欠片も溶けていった。そして、一人取り残された雪の女王は……。(中略)

最初のキス:寒さを忘れる
二度目のキス:全てを忘れる

抽出中間段階

決闘に勝った姿。
長い冬の夜が終わった

薔薇の剣

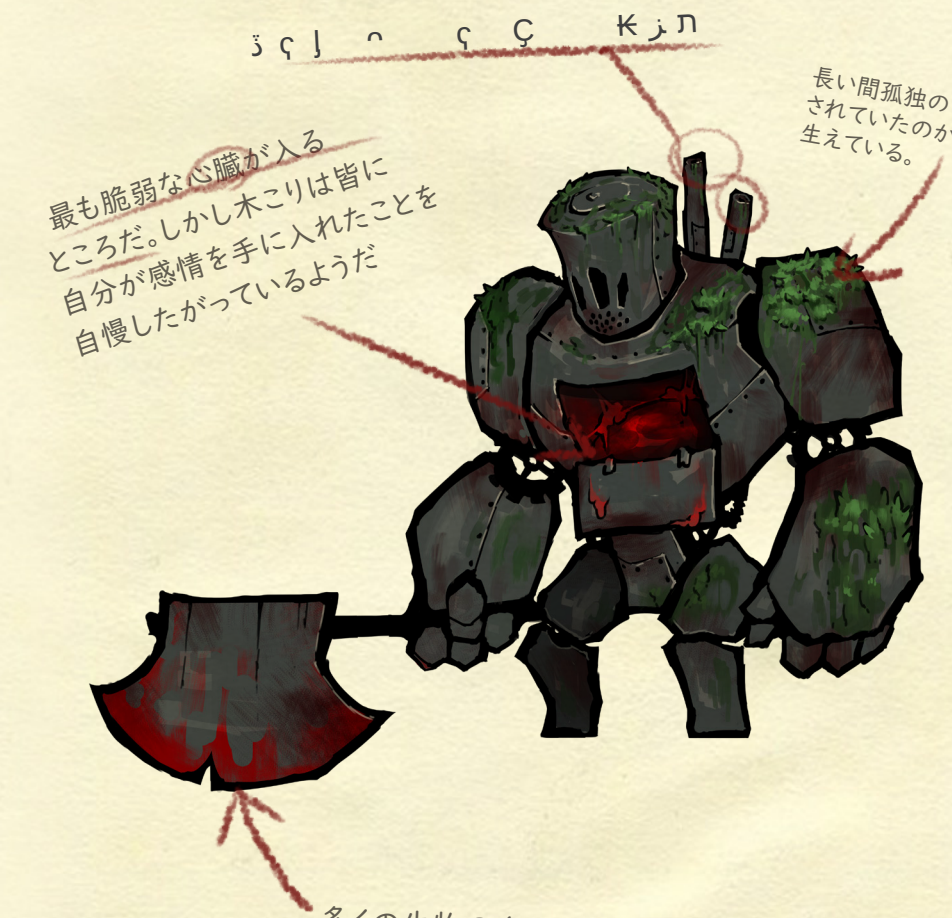
E.G.O

HE

No. F-05-32
暖かい心の木こり

体全体がブリキで出来ており、人間と類似した形態をしている機械の幻想体。両手には大きな斧を持っているが、動くことはない。まるで一切動くことが出来ないとでもいうように。

身体を"心臓"という形に
押し込むだけで良いようだ。



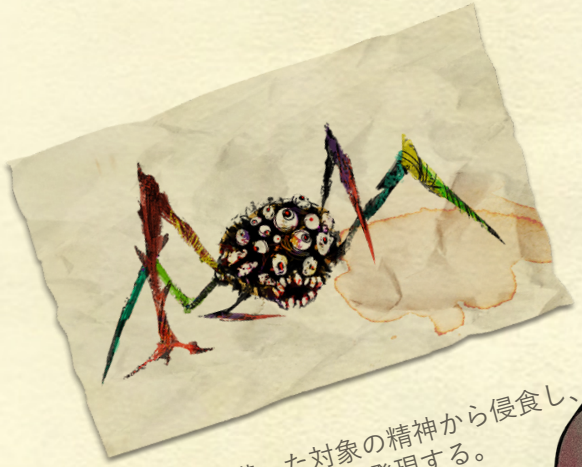
E.G.O

HE

No. O-01-67
レティシア

子どもに似た大きさで、明るい笑顔をいつも崩さない。

レティシアのプレゼント



プレゼントを貰った対象の精神から侵食し、肉体を贄として物質界に発現する。

時間に干渉されたように動きが不自然だ

O-01-67にのみ見える対象を見つめている

友達が好きな鈴の音

服は他の誰かから贈り物としてもらったそうだ

E.G.O

HE

No. F-01-69
魔弾の射手

この魔法の弾丸はお前の言ったとおり、
本当に誰にでも当たるんだな！

悪魔が最後に望んだのは、絶望だった。

絶望は心を蝕み、前に進む意志を失わせるからだ。もうこの先何もないと感じた瞬間、魂は死んで堕落し、地獄へと落ちていく。そう、悪魔の領域へと。これこそ、悪魔が殺人のような単純な行為ではなく、絶望に陥った人々を見て快感を感じる所以である。それを私たちは「魂を悪魔に売った」と言う。

ある射手が悪魔から銃を受け取った時、悪魔は「最後の弾丸は愛する者の頭を撃ち抜く」という幼稚な契約を提案しました。彼はそれを聞いた瞬間、自分が愛するすべての人を探し出し、撃ち抜きました。そして、悪魔にこう言いました。「この魔法の弾丸はお前の言ったとおり本当に誰にでも当たるんだな」

最後の弾丸が無くなった射手は、数多くの世界を旅しました。時に困っている人や悪と戦う人を助けましたが、それはすべて衝動の結果であり、彼の良心ではありませんでした。彼はある世界では「正義の射手」と呼ばれ、また別の世界では「血に飢えた射手」とも呼ばれました。

ある日、射手はいつの間にか悪魔がいなくなっていることに気付きました。それはなぜか。射手は自分の魂が最初から地獄に落ちていたことに気付きました。契約は既に果たされたので、悪魔は去ったのです。

悪魔となった魔弾の射手は、他の人間の魂を手に入れるために、引き金を引き続けました。悪魔と同じように、弾丸は思い通りの場所を貫くでしょう。永久に。

悪魔との契約の対価の一つとして
非定型の身体を持つようになった

4重の魔法陣の構造は“探索”“貫通”“加速”“転送”から
なっている。

E.G.O

HE

No. T-05-41
何でもお手伝いします

床全体を覆う血、ひどく恐ろしい叫び声、逃げる人々…

白い掃除用ロボット。スイッチのように見える赤い色の目が特徴だ。いつも自分の周辺をきれいに片付ける。

本来は大量生産型の家庭用お助けロボットだった。後ろ側には”手足に雑巾やほうき、料理道具、簡易な防犯機能などを融合させ、最大の効率を追求する為に製造された画期的なロボット！　XX社製”と書かれている。

不快と感じる時機械は周囲の環境が汚れていると認識し、掃除モードに移行する。”汚染感知確認ー清掃開始”といった音声を発する。

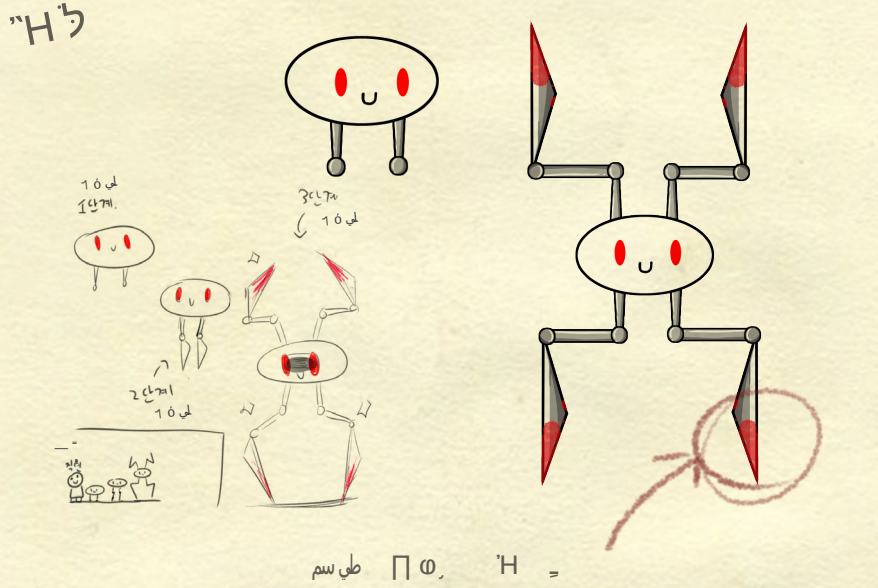
本来は清掃道具がついていなければならない手足には、鋭い切断器具が付いていた。料理の為の機能を、誤って掃除と命令を入力してしまったという噂もあるが、真偽は定かではない。

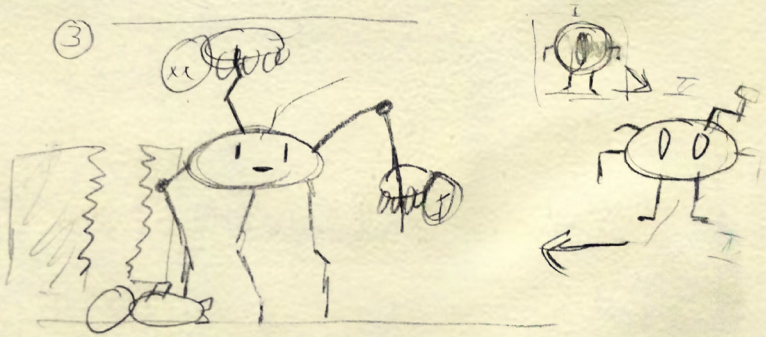
掃除をした後に決まって人々の大声を聞くという経験の蓄積より、人々の叫ぶ行為を一種の称賛、または継続せよとの命令として捉えている。

<機械内に挿入されていた録音記録>
??：あら、新しく発売されたお助けロボットね。
??：わたしも！わたしもみる！
??：■■■■も触ってみる？じゃあ■■■■も一緒に遊びましょうね。
（電話の鳴る音）
??：電話だわ。ちょっとだけ待っててね。
（ボタンを押す音）
お手伝いロボ：何でもお手伝いするヘルパーロボだよ！何をお手伝いする？
??：おそうじ！おそうじしてママのことてつだうの！
お手伝いロボ：環境汚染度70%。少し汚れた状態。清掃作業を始めます。
??：やったーおそうじ！おそう…
ヘルパーロボ：ウイィィィィン

以降何秒もの間叫び声が続き、突然電源が切れた。

〈■月■日の映像資料〉





HE

No. O-04-08
赤い靴

少女は泣きながら嘆願しました、
「ミスター、私の足を切ってください…」

優雅で趣のある赤い色をした、女性用の靴だ。

”履いてみたい”という欲求を過度に刺激するこの幻想体を着用した際、一次変化として目が正常な人のものから変化することが確認できる。

二次変化では絶対に靴を脱ぎたがらず、無意識に抑制してきたあらゆる欲望を行動に移そうとする。もしこのような欲望が妨害されたり、他人が靴を脱がせようとしたりした場合、対象を問わず着用者を操り妨害してきた人を殺させる。

<カウンセリング記録一部抜粋>
「■■■先輩は優しい方でした。彼女はどんな幻想体も上手に扱うことが出来たんです。

しかしあの部屋に彼女が入ったのが、私たちの最大の間違いでした。いつの間にか先輩は靴を履いていて、とても満足げに笑っていたんですけど…その、何かが変でした。それは笑顔というか…その……(中略)気が付けば、周りは血塗れだったんです。こつ、こつ、と靴が鳴らす音が廊下に響き渡り、私は目を閉じ死んだふりをしました。(中略)結局足から靴を取り外すことは出来ず、彼女は足を切り落とさざるを得なかったという話を聞きました」

<廊下映像記録一部抜粋>
ミル：そっちの作業は全部終わったか？僕は今一つ終わらせたところだ。マッチ売りのあの子はやっぱり大変だよ、頭が痛くて死にそうだ…。

休憩室に行ってコーヒーでも飲むかい？

ハリー：ねぇ、ミル。ずっと思ってたことがあるの。

ミル：休憩室に行ってからにしてくれないか？僕はちょっと今疲れてるんだ。…君はハイヒールなんて履いているのか？作業する時は職員用の靴以外は禁止だろ。

ハリー：そんなことどうだっていいのよ…ほら、今私たち二人だけよ……。

ミル：一体何を言ってるんだ？……ちょっと待って、君、何を履いているんだ？まさか、それを履いてきてしまったのか？

ハリー：ミル、前から貴方のことが好きだったの…。

ミル：それを今すぐ脱いでくれ！今君は自分が何をしているのかわかってるのか？

ハリー：なんで貴方が私のことを愛してくれないか考えてみたの。エミリーがいるからでしょ？貴方がエミリーを見ているから、私のことを見てくれないの。そうよね？

ミル：君は今斧を持っているのか？足から、ずっと血が出てるよ……ハリー、お願いだから今すぐそれを脱いでくれ。

ハリー：エミリーさえいなければいいのよね。ちょっと待ってて、すぐに終わらせて来るから。

ミル：お願いだ、正気に戻ってくれ…

ハリー：貴方が私のことを止めたいなら、私が最初に入社してきた時に止めるべきだったわね。

後に赤い靴は、職員ハリーの足を折って逃げた。ハリーは出血多量で死亡した。

靴は着用時に着用者の足に食い込む

欲望には際限がない

HE

No. O-05-76

シャーデンフロイデ

機械の中の鍵穴からは、執拗な視線を感じます

自立歩行が可能な機械の形態をした幻想体。

機械の中の鍵穴には誰かからの執拗な視線を感じられる。視線は瞬くばかりで絶対に閉じることはない。観察している意図は不明である。

<実験_002>

布で目を覆った職員を入れた。

この布の生地は黒色で、光も入らない程綿密な材質とする。

何度か反応誘導実験を行い、完璧に視野が遮断されているかを確認する。

幻想体の収容室に入った後、幻想体のいる方向に10秒以上立たせた。反応なし。

<実験_003>

実験_D-002同様に布で目を覆った職員を入れた。

材質の見た目は実験_D-002で使用されたものと似たようなものだが、形を認知出来る程度の視野が確保出来る布を使用する。

収容室に入室後、幻想体のいる方向に10秒以上立たせた。

5秒後、幻想体は攻撃性を持って職員に迫った。

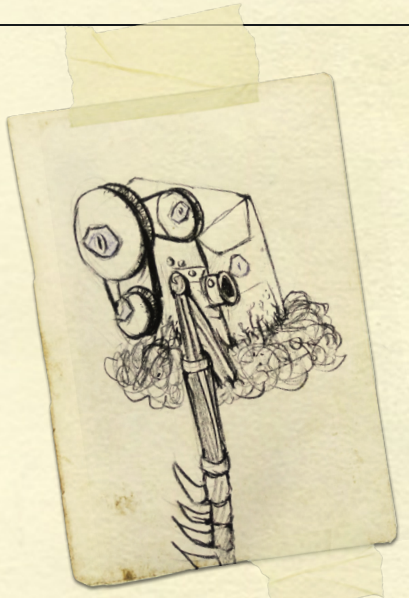
実験中止。

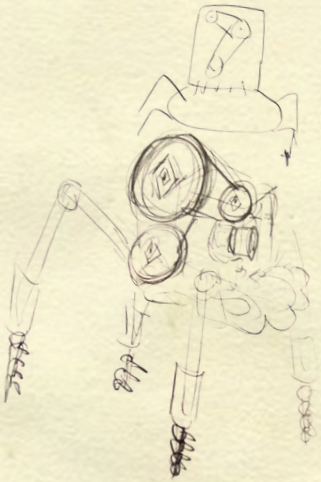
<実験_D-004>

布を巻かず、目の見えない職員を収容室に入れる。

30秒以上立っていたが、何の反応も無かった。

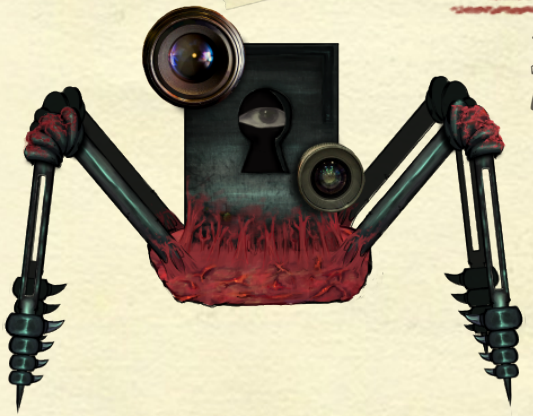
*実験_D-004に投入された被験者はにただちに退社処分を下すこと。





箱の中には何があるのか？

箱の中の目がこちらを見ているのではなく、私たちが箱の中の目を覗いているのではないか？



E.G.O

HE

No. O-01-55
銀河の子

子供の涙が落ちると、星が空から降りてきた。
世界は幸せに包まれ、眠りに落ちた。

夜空のような肌に、大きな瞳を持った少年の姿をしている。

〈職員■■■■の日記〉

外に霧が立ち込めた静かな夜だった。

裸足の子供が私を見ていた。

大きな瞳で悲しそうに泣いていた。

まつ毛に宿る悲しみが私の足を止めさせた。

大事なものを失ったという言葉に、
助けてあげると返すと彼はにっこり笑う。

子供の涙が頬を伝いぽたりと落ちて、
零れる星と恍惚の狭間で止まった世界。

銀河が両足で降りてきた夜のこと。

-■■■したまま発見された、
職員■■■■の日記の一部抜粋

友達の証

友達が消えたことに
気づいた時子供は泣きだす

彼がやってきた
銀河が映る。
川の水に星が刻
まれるように

E.G.O

HE

No. O-01-15

無名の胎児

いつか、君も知ることになるだろう。
ルーレットが回転している時、
人々の顔に浮かぶ切実さの意味を。

まだ生まれてもいない、胎児の形をしている。皮膚は粘液質な液体に覆われており、毛細血管のようなものがあちこちに見られる。

＜廃棄された観察記録の一部抜粋＞

好奇心で”無名の胎児”の餌を投入する様子を密かに観察してみることにした。はらはらしながら見守っていると何人かの人々が大きな袋を持って現れた。あんな小さな体の奴があんな大量の食べ物を食べるのか？袋の口がほどかれた途端、俺は驚くしかなかった。人間の死体だった。そして胎児はそれを食べた。どうやって食べたかって？あぁ二度と思い出したくもないよ。体にある大きな傷痕、俺はそれをただの傷痕だと思ってたのさ。蕾が開くようにそれが広がって、腹ががばぁっと開いたんだ。大きな口から粘液が滴って。あれは、世界で最も貪欲な生命体だった。

俺は思ったよ、もう金輪際肉なんか食うもんかってね。

〈職員日記の一部抜粋〉

[illegible]

ルーレットには、私たち職員皆の名前が書いてあります。ルーレットの矢印が誰を差すのかはわかりませんが、その職員はすごい幸運児になるのです。選ばれた職員はなんと昇進させてもらえて、私たちが”本部”と呼ぶ他の支部へ異動させてもらえるそうです。

ルーレットの矢印が先輩の名前を指し示した瞬間、私は心の底から祝いました。他の人は一人ずつ先輩と抱擁を交わしていました。先輩は涙を流しながら私に元気でな、と挨拶をしました。それから先輩と会うことはありませんでした。他の人は、私が先輩の話を持ち出す度に、まるで話してはならない人の名前を出したかのように、首を振って何も話してくれなくなります。

先輩が最後に去る前に私に言ってくれた言葉が、今でも忘れられません。

“いつか、君も知ることになるだろう。

ルーレットが回転している時、人々の顔に浮かぶ切実さの意味を。”

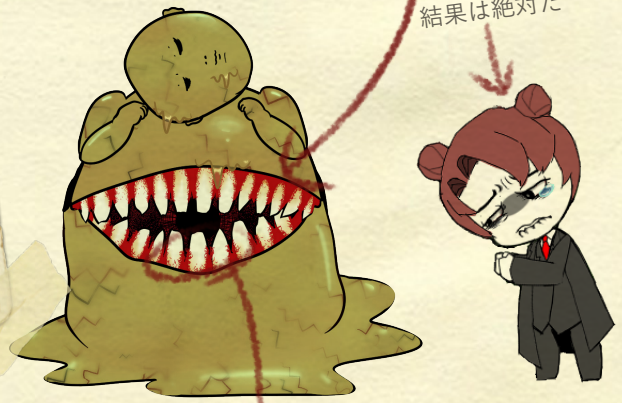
ラッキー抽選機

Lobotomy Coporation存続の為に嫌悪的で逆説的な装置を作らなければならなかった

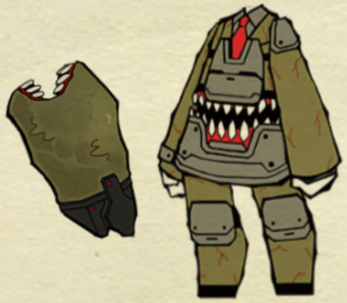
伸縮性に富む。
へその緒の延長線上にあると思われる

咀嚼力は
O-04-84と
同程度だ

スロットマシンの結果は絶対だ



肉片が残っており、悪臭が酷い



E.G.O

[illegible]

HE

No. T-01-68

死んだ蝶たちの葬儀

人は死んだら何処へ行く？

人は死んだら何処へ行く？

ここに入社した多くの職員は皆何処へ行ったのか？

-彼らは皆自分の家へと帰ったのだろう。家族と温もりのある安息の地へ。

しかし職員たちは帰れない。会社に入社した以上、この場所から出ることが出来る方法は”退社”だけだ。

-それでは”退社した”職員たちは彼らの家に帰ったのだろう。望んだものを得て、胸をいっぱいにしながら。

私たちは翼の羽だ。退社はそう上手くはいかない。羽が自らの意志で翼から離れることが出来ないように。

-それならば退社した職員たちは皆何処へ行ったのだろうか？

彼らは入社した以上、会社から去ることもできず、退社をしてもこの場所にずっと留まることしかできない。

-遠い昔、人々は死後小さな翼を持った美しい存在になれると信じていた。おかしな話だ。とんでもない。

翼がついたら、ここから抜け出すことが出来るのか。私たちは退社をしてからようやく翼を得るのだろうか。

その背中に大きな荷を背負う哀悼者は、全てを救済する為に来たという。

しかし結局は自らもここに閉じ込められてしまい、空虚な信念だけを抱いたまま社を彷徨っている。

彼が背負うのは棺、行き場の無い職員を称える為の大きな棺。罪の無い犠牲を慰めるには程遠い。

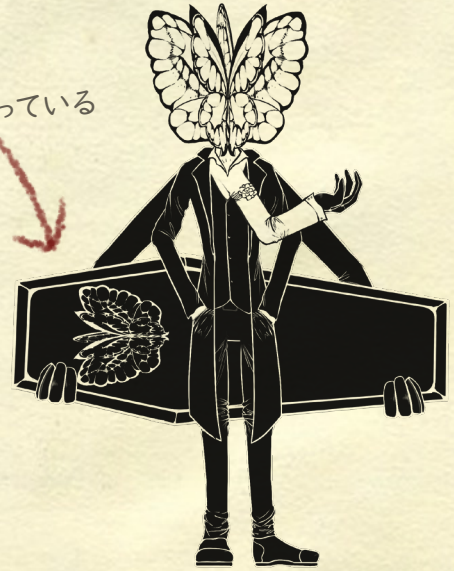
その中では数多くの蝶が安らかに眠る時を待っている。その時までは無為な羽ばたきを続けることになるのだろう。今となっては、いくつかが集まって一つになったのか、一つがいくつかに分かれたのかはわからない。

蝶ならば当然花粉を運ぶものだろうが、ここではまともな花一輪さえ咲いていない。

待つしかないのだろう、どんな世界にもその終わりはあるはずなのだから。

初期観測

数多の蝶が眠っている



彼にとって棺は決して安らぎを意味しない

E.G.O

HE

No. F-01-87
知恵を求める案山子

そしてそこは、変わらずエメラルドの道が美しく輝く都市のままでした。

藁で作られた案山子の形をした幻想体。藁はところどころ血で赤く染まっている。

頭の部分は誰かにに無理やりもぎ取られたように空っぽになっている。職員たちから脳を啜るという攻撃性を見せるが、その対象になった職員たちは皆、知能検査で優秀だと判断されていた。

それぞれの都市は、固有の技術を持たなければならなかった。それが都市を復興させる鍵だった。様々な技術があったが、その中で身体交換技術が発達した都市があった。壊れてこれ以上使い物にならなくなったり、あるいは気に入らなかったりする部位がある場合、これを治す、あるいは改造するという技術だ。都市に住む人々は皆、その治療を受けることが出来た。しかし、ある噂があった。肺を壊してしまい、息が苦しいという貧しい人と、視力がさらに良くなることを望む金持ちが来たのなら、貧しい人の目を抉り出して金持ちに差し出した後、その人の身体は腐っていく肺と共に、外郭のどこかへと捨て置かれる、というのだ。

都市の代表者は「とんでもない噂だ」と人々をたしなめた。そして噂を正す為に、都市の郊外で病気になっている人たちを数人選んで、彼らが望む場所をどこでも治そうと伝えた。幸運の主人公たちが選ばれ、数日後に治療を受けた一人が戻ってきた。帰ってきた彼の頭には大きな傷痕があった。「治ったのか」と尋ねられると、彼は「頭が軽くなった気分だ」と答えた。それまで彼は涙もろく毎日悲しんでいたので、彼の様子を見て人々は彼の望んだとおりに治ったと信じ込んだ。

しかし、一緒に連れられた他の者たちはどうなったか、という質問に対して、彼は何も言わずにただ笑い、暫くしてあった彼の両親の葬式でですら、何の表情も見せなかった。彼のすることはただ、窓の外を無気力に見ているか、ぶつぶつと独り言を言うだけだった。その後、彼は自分の家のドアノブで首を吊った。もしかしたら彼の受けた治療が原因ではないかと思った人もいたが、何日か経つと彼のことはすぐに忘れられ、そこは依然として、エメラルド色の道が煌めく美しい都市だった。

鍬を使って脳を摂取する為の穴を開ける

誰かに強制的にもぎ取られた痕跡がある

摂取された職員の頭蓋骨の中はぽっかり空いている。厳密に言えば死んではいないが死んだも同然だ

E.G.O

HE

No. O-02-98

ポーキュバス

私の頭が爆発する時間ですね。
良い一日でした。

<頭が爆発する時間>

正直言って、ここでの日常はあまり楽しいものではありませんよ。各々がそれぞれ、捌け口を探しています。暴力で、賭博で、食欲で……私はそんな他の人々よりも自制は高い方だと思っていました。故に私がポーキュバスの収容室の担当になったのかもしれません。

えぇ、ポーキュバスです。職員の中でも、どん底の人生を生きる職員たちの行き着く場所。

私は、同僚たちが扉の向こうで何をしているのか、聞いたことがありました。彼らの間では”信頼遊び”と呼ばれていました。

（中略）

あの子と親しくなるのは難しくない。そして親しくなりさえすれば、望む全てのものは難なく手に入れることが出来る。

恐らく時が来れば、簡単に棘に触れられるように、ポーキュバスの方から差し向けてくれる、と。そう時間はかかりませんでした。あの子はすぐに、私を歓迎してくれました。あの子は、すぐに撫でさせてくれました。

（中略）

初めて棘に触った時は、あまりの痛みに声を上げてしまいました。大きな針が肌を突き破って中に入ってくる感覚がしました。そしてすぐにやってくるのです。両足で立っていることも難しくなるほどの多幸感が。私は、自分が涎をだらだらと垂らしていることに気づきました。

怖くて、その収容室には暫く行けませんでした。しかし状況はさらに悪化するのです。吐き気がしたり、汗が噴き出したりしました。これらの症状は職員によって違います。ある人は歯に虫が這いまわっている感覚がして、歯を全て抜いてしまったそうです。

（中略）

どんな感覚か、ですか？私の語彙力では上手く伝えきれませんよ。貴方は人生で一番幸せだった時のことを覚えていますか？それの百倍もの幸せですよ。

そして私はポーキュバスの担当の一番最後のシフトになりました。当たり前です。脳はより強烈な刺激を望みますから。最初は棘ひとつで満足出来ていたのが、今では体をこすりつけないとあの時のような快感が得られないのです。

…もう行かないと。作業の時間です。

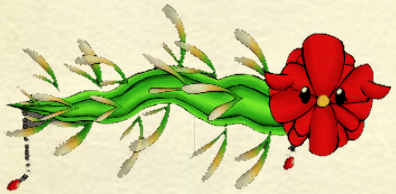
あぁ、ポーキュバスは貴方が思っているのとは違い、攻撃性などありません。私たちを食べたり、私たちの頭を切り裂いたりとか、そんなことはひとつもないのです。全ての遺体が幸せそうに笑っていたでしょう？それが全てです。そのまま、”死ぬまで”笑わせてくれるのです。

誰も責めることなどできません。私たちは毎日、共に地獄の中で生きていくのですから。とてもささやかな天国を経験することくらい……

私はむしろ貴方を可哀想に思っています。そんな感覚を経験できず、そしてこれからも一生感じることはないのでしょうが、偉そうなふりをしながら私のような崖に追い込まれた職員と面談をしなければならない貴方を。

…もう私の頭が爆発する時間ですね。それでは、さようなら。

中毒を治療する方法はない



鎮圧時

軽いゴムボールのようだ。
果てしない快楽を誘発する
物質を分泌する

喜びが文字通り爆発した

E.G.O

I M

HE

No. T-04-06

幸せなテディ

その記憶は暖かい抱擁から
始まります。

毛皮がところどころ朽ち、目が片方なくなった大きなくまの人形の幻想体。

前の持ち主から愛されていたのか首には古いリボンがかかっており、小さく名前が書かれている。あまりにも古いので、詳細を調べるのは難しい。

<カウンセリング記録一部抜粋>

「私は夜間のパトロールをしていました。幸せのテディに注意する必要はありませんでした。普段は無害でしたから。ただ確認だけをして帰るつもりで、そっと収容室の中を見ました。するとテディが誰かをぎゅっと抱きしめていたのです。私はしばらくテディの担当だった■■■が遅くまで残って作業をしているんだとばかり思っていました。しかし少し様子がおかしかったんです。なので、収容室に入って声をかけたんですが、■■■から返事は帰ってきませんでした。すぐに私は非常ボタンを押して人を呼んできました。■■■は昏睡状態に陥ってから8時間が経過していました。午前中に入って私が発見するまで、■■■はずっとテディに抱きしめられていたんです」

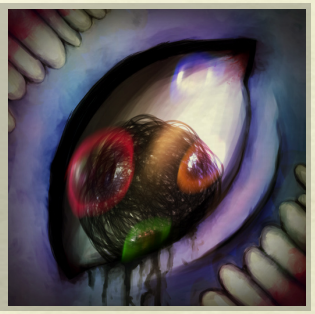
<発送不可と印刷されている古い手紙>

最初の抽出時の様子

主人からプレゼント
された唯一の思い出

修繕はする試みは
しない方が良い

E.G.O



WAW

No. T-02-71
夢見る流れ

赤ん坊に、彼が好きなブドウ味のキャンディが手に入ることを教えてあげてください。

「そう、そのまま…ずっとその本を見せてください。あ、写真のあるページじゃないとだめです、文字は読めないので。実験が長引きそうだと思ったら、良い感じの音真似でもしながら、出来るだけ彼の関心を引いてください。そういうことまで私がいちいち説明しなきゃいけないなんてこと無いですよね？

ええ、分かりますとも。可哀想なものです。可哀想で、哀れなものです。私だってそれくらいの感情はありますよ、わざわざありがとう。

しかし、結果的に彼はここに居ることで生き残れたわけです。そしてこれからもずっと生きていてほしいです。どんな姿になろうともね。

あなたも同じ考えなら、今感じている罪の意識について、謝っていいでしょう。それが将来の為です。

…

今日はブドウ味のキャンディだって言ってあげてください。あの子が一番好きな味なんです。」

<百科事典からの抜粋>

一般的な認識とは対照的に、ほとんどのサメはサイズが小さい。実際に人を傷つける種はごく僅かである…何と言っても、サメの魅力は硬い顎と歯にある。サメの顎は成人の約20倍もの強い力を発揮する。また、その視覚と嗅覚は非常に鋭敏で、獲物を容易に探し出すことができる。これが、サメが海洋最大の捕食者として生き残っている理由である。

彼の両親はずっと昔に子供を捨てていた。

随分前の感染のせいで、２年と生きられないだろうと言われていた。

研究員たちがその子供の父親と母親になった。子供はそこで呟くことを学び、歩くことが出来るようになった。ちゃんと喋ることは出来なかったが、子供は海が好きだった。海に連れて行く代わりに、海を見る事が出来るキャンディが与えられた。

色とりどりの夜と昼が過ぎた。

２年も持たないと予想されていた子供は、長い間生きることができた。子供は相変わらず甘いキャンディが好きで、ちゃんと耳を傾けて研究者たちに従い、この場所を自分の家として愛した。しかし子供が唯一出来たことと言えば、日差しの中の芝生の代わりに、狭い実験室の中を、不安げに、しかしどこか期待を持って走り回ることだけだった。明日はどんなキャンディを食べることが出来るかと思いながら。

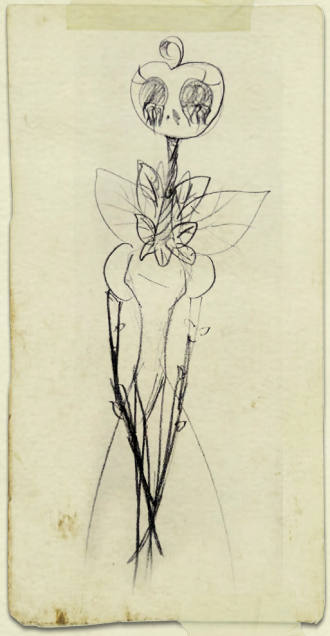
E.G.O

WAW

No. F-04-42

白雪姫のリンゴ

リンゴが王女と王の庭に落ちた日、
魔女の心は崩壊しました。



腐ったリンゴ特有のにおいが立ち込めている。

一般的な木の幹に比べて枯れた色をしているが、とても硬い。

布地ではなく、
植物で構成されたドレス

ツルを増殖させ、自分自身をツルに固定する。

廊下に縫い留められ、取り外すのが困難だった。

E.G.O

WAW

No. O-02-74

裸の巣

それはあなたの体の
どの穴にでも侵入できます。

顔が緑の光に染まっていく職員を見つけたら、すぐに各部署のセフィラへと報告してください。但し、単に腹を下している職員と紛らわしいこともあります。医療室に行けと指示をすれば、腹痛に困っている通常の職員は同意するでしょう。しかし感染した職員は、ぎこちなく見えるほどに体調が良いふりをします。そうであれば、職員には正常ではない事柄については警告しないでください。宿主が興奮するほど、感染は加速するためです。ちなみに、皮膚が変化する頃には、脳の30%が既に食べられています。この時点におけるあらゆる会話は、この幻想体が宿主の真似をしているだけなので、意識する必要はありません。

この幻想体は宿主の脳内に巣食い、物理的な痛覚をすべて失わせます。鋭い針や槍などでうっかりを装って刺して確認することも出来ますが、推奨されません。前述のように、宿主の30%は既に幻想体の一部であり、正常な会話は不可能です。

※「裸の巣」はあなたの体のどの穴にでも侵入できます。

※これは、全身を覆い隠せば侵入できないという意味ではありません。

※※しかし、可能な限り全身を覆い隠し収容室に入ることは、あなたの心を和らげる一助と成るでしょう。

※※※「裸の巣」の最終的な目的地はあなたの前頭葉です。

※※※あなたは蛇の巣となり、視野に入る全てを攻撃します。

※※※※あなたが巣になった場合、私たちはあなたを撃ち殺し、遺体を焼かなければならないことをご理解ください。

巣に生息している
寄生体の総数は測定不能

巣もまた一つの
生命体ではないか

職員の感染が進むにつれて寄生体が多くなる

抜け殻

E.G.O

少しぬめっているような滑らかな表面のため、不快に思う職員たちもいるだろう。しかし、その鱗は幾重にも重なっており、外部からの脅威を防ぐのに適している。たとえ引き裂かれたとしても、その再生能力によってすぐに修復されるだろう。

WAW

No. F-01-57
赤い頭巾の傭兵

あの野郎の首を私のベッドの上に
ぶら下げてやる。
それだけで、私は悪夢を見ることなく
眠ることができる。

「私はプロの傭兵よ、依頼するなら助けてあげる。私の仕事は高価だけど、ある条件の下でまけてあげるわ。もしあなたがあの狡猾な糞野郎に会ったなら、私に引き渡しなさい。あの野郎の首を私のベッドの上にぶら下げてやる。それだけで、私は悪夢を見ることなく眠ることができるの。」

赤い頭巾を被った戦士の姿が印象的な幻想体。彼女の擦り切れたつぎはぎの頭巾にはイニシャルが刺繍されているが、頭巾が傷ついているため判読できない。

この施設に来る前は、彼女は傭兵であり、居住地もなく周りをさまよっていたという。彼女は他人をあまり信用せず、戦闘に対して極端なほどの愛情を持っている。彼女は自分の肉体の一部が露出し、鏡に写った姿を見ることに激しい拒否感を示した。また、彼女の行動には多くの偏執的な症状も確認されている。

収容室外で緊急事態が発生した場合、解決しようとする強い意志を示す。彼女はそれを一種の「依頼」と呼ぶ。この行動は結果的に管理プロセスに役立つので、会社は状況に応じてそれを積極的に活用することを推奨している。

※以下の内容は、全ランクの職員が熟知する必要があります。

彼女が「大きくて悪くなるオオカミ」に出くわすと、状況は劇的に変化するだろう。彼女は、瞬間的な離人症的症状や、怒りの感情の調節障害などを日常的に発生させるようになる。これにより深刻な二次被害が多数生じるため、二体が出会う状況をを避けねばならない。

標敵を追跡する目

狩りの標的の印

口ではなく傷跡
を覆うマスク

マスクを着用していない状態。
最初は浅い傷一つだったが、
次第に深くなった。

普段は壁に斜めに
もたれかかっている

マントは
血を吸って、
より赤く
染まっていく

彼女が受けた依頼
により、多くの物語
の中のオオカミ、
ブタ、アヒル、そして
クマたちが血を流した

紅い傷跡

E.G.O

赤ずきんの傭兵が唯一愛せるのはオオカミの死だけだ。

片手には鉄を、片手には火薬を持てば、この世に恐れるものはない。中途半端な勇気より、憎悪に満ちた躊躇なき一撃が重要だ。

破滅でしか生きる価値を感じられない者の先には闇だけが広がっている。この果てしなく愛らしい童話の物語にも、いつかは終わりがあることを祈ろう。

WAW

No. O-02-62

審判鳥

彼の天秤はあらゆる種類の罪を
公正に評価することができます。

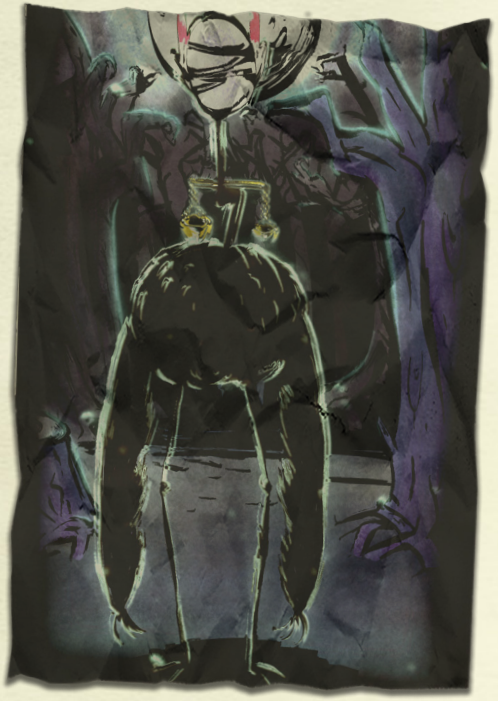
暗い森の中で不公平な天秤を持ち歩き、生き物たちを裁いてきた鳥。天秤は常に片方にのみ傾くが、目が塞がっているためにその事を知ることはない。あるいは、知っているが事実から顔を背けているのかもしれない。

元々は、その鳥は公平な審判者だった。彼の天秤はどんな罪の重さでも見逃さなかった。長鳥は森の平和を守るために、どんな罪でも測れる天秤を作った。

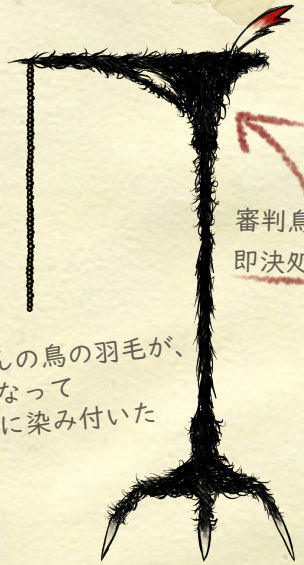
かつて、その鳥の目は全てを見抜くことが出来た。鳥の目はいつも輝き、夜空の星のように燃え上がっていた。しかし森を守るために、大鳥にその目を捧げた。今は目があるべき場所には、虚空のみがある。

包帯は今すぐにで破れそうなほどにボロボロである。その顔もまたきらめく羽毛で覆われていたが、長い間陽の光を浴びなかったために、見る影もなく抜け落ちてしまった。
残ったのは不公平な天秤だけである。長鳥の審判は決して止まらない。

~~悪いことは、言わざる~~、見ざる、聞かざる



これ以上私情を込めることはない



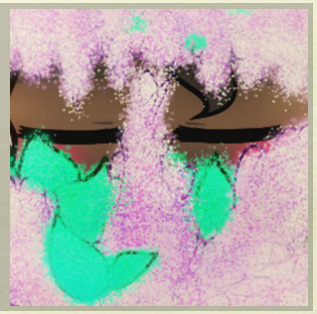
審判鳥の絞首台。
即決処分だ

たくさんの鳥の羽毛が、
怨念となって
絞首台に染み付いた

ユースティティア

E.G.O

誰もがそうであったように、最初の望みは素朴極まりないものだった。しかし平和への願いは、昔の童話の中に伝えられるだけとなってしまった。このE.G.Oを抽出した者は、会社内で最も正義感のある人物だった。巻かれている包帯は剥がさないようにしよう。見られたくない悲しい過去がその下にある。願わくは始まりの望みのように、このE.G.Oによって平和が続きますように。



WAW

No. T-04-53
アルリウネ

塵へと還る望みを抱き、
生きようとする全てのものを塵へと還す。

春の訪れと秋の終わりを知る幻想体。
表面は陶磁器で作られたように滑らかだ。目があるはずの部分はぽっかりと空いている。体に入った亀裂は、成長する植物たちに埋められている。

全身に花を咲かせて塵へと還るだろう

導くアルリウネ

残り香

E.G.O

E.G.Oとして抽出しても、元型の持っていた香りを隠すことは出来ない。持っているだけで、存在し得ないどこかの森の中に立っているような錯覚を引き起こす。皆の心の中の欲望が花に生まれ変わるときが来るのなら、このE.G.Oはもはや必要ないだろう。時折生じる亀裂なら、花の塊がそれを満たしてくれる。

WAW

No. O-04-66

小さな王子

これが私の呪いであっても、
私はこの呪いを祝福として愛するだろう。

職員の間では、「巨大なキノコの塊」と呼ばれていた。文字通りに巨大なキノコのようでもあり、カビに似た性質も持つ。外見は菌類に似ており、大気中に絶え間なく胞子を放出する様を、肉眼で観察することが出来る。

幻想体からは、運動性を持つ微細な胞子が生成され、空気を介して移動する。胞子は主に呼吸器系を介して他の生物を侵食し、繁殖する。

一定量以上の胞子を吸入した職員は、身体上に奇妙な腫瘍が発達し始め、体組織が侵食される。最終的には原型を留めない怪物となる。この段階になると攻撃性を帯びる為、発見次第射殺しなければならない。

＜カウンセリング記録の一部抜粋＞

本当に無口な男だった。

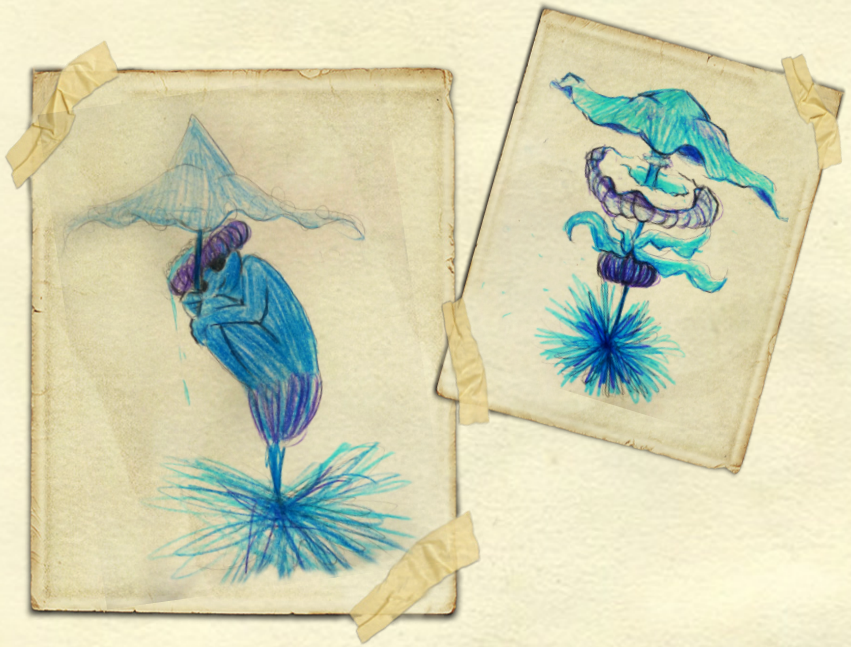
アイツには一つ妙なところがあったんだが、それは誰もが嫌っていたキノコの塊の作業に、自ら進んで志願してたってことだ。作業に行ったら収容室からぜんぜん出てこないってのも不穏の種だったんだよ。アイツの身体の中で何が育ってるか、分かったもんじゃない。

俺たちがあの幻想体の名前を、とりあえず「巨大なキノコの塊」って呼ぼうって決めた時、アイツが初めて反発したんだ。一番長くあれを見てきたのは自分だ、キノコの塊なんて呼ぶべきじゃない、って。話にもならないなって、皆アイツのことを笑ったよ。

それから数日後。皆も知ってるように、アイツは逝っちまった。胞子と菌糸まみれの死体が、アイツだって気づいたのは俺だったって言ったっけな。アイツの額のあざ。あれが見つからなかったら、あのバケモノがアイツの成れの果てだって、誰一人、永遠に気づかなかっただろうな。俺以外、アイツにあんなあざがあるなんて知らなかったから。何しろ、アイツには友人が居なかった。

これが、あの幻想体の名前を変えることにした理由の一つだ。悲惨な死への追悼が入り混じる、複雑な理由。

アイツには、実のところ友人が必要だった。だから、幻聴に気が狂い、自分がバケモノになっていくことにも気づけずに、侵食されていった。あのキノコは繁殖のためだけに、哀れな人間を手懐けたんだ。誰も名前を知らない、アレックスを…



友達ではない対象が観測した場合

沢山の腕が
揺れ動いている

胞子に感染すると見える姿。
顔などが見える。
幻覚を引き起こす成分が
あるのではないか

<職員アレックスの手記>

人の精神はあまりに弱く、ありのままを受け入れる事が出来ない。シャコが人間の目には判別できない数百万もの色を見分けられるのを知っているか？

私は友達が欲しいとは思わない。私たちは互いを理解することが出来ないからだ。人は自らを独立した個体と認識するが故に、他人を完璧に理解することは不可能だ。しかし、集団を形成する本能は失われなかったために、理解できずとも理解しようとするという矛盾した行動を見せ、お互いの領域を守りつつぎりぎりの綱渡りを繰り返す。

実のところ、私はこの意味のない遊びに、早々に飽きてしまった。私が巨大なキノコの観察に志願したのも同じ理由だ。ほんの少し異質に見えるというだけでは、私が躊躇う理由にはならなかった。

（中略）幻想体は特に何もしなかった。私は辛抱強くその静寂を記録し、じっと見守った。それが周囲に神秘的な色の粉を振りまいたある日、私は特別な変化を経験した。私は現実より一段階上の、「超現実」を認識できるようになった。彼が私にその手を差し伸べ、私だけがその手を取ることが出来た。

彼は精神を通じて私に話しかけてきた。心で会話をすること、それは私が一生涯望んできた事だった。私という存在を完全に理解され、一体になる感覚は本当に感動的だったで、私は興奮を隠せなかった。

（中略）もっと彼に近づきたかった。彼の一部になりたかった。私は常に彼のことを考えていた。私の心は開花する前につぼみのようで、徐々に心が浸食され…私は少しずつ、飼い慣らされて…

<録音記録の一部抜粋>

この録音記録は、収容室に設置された監視カメラの記録の一部だ。幻想体の胞子が監視カメラの視界を阻害してしまったため、音声のみが検出された。この録音記録の会話を元に、当該幻想体には幻覚や幻聴をもたらす特殊な胞子を拡散させると判断された。

録音記録を精密に分析したが、職員の声以外にはいかなる声も検出されなかったためである。当該職員はその後胞子に感染し、狂気的な状態に陥ったが、他の職員によりその場で射殺された。

—人間の言語は単純すぎて、適当な単語は無いのが残念だが…私たちは友達と言えるだろう。

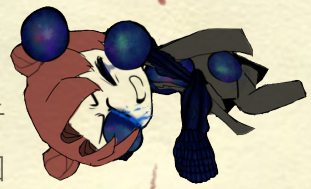
—…そうだ。私は君のただ一人の友達だ。

—君を受け入れるよ。君に出会ってから私の人生は変わったんだ。私は一日一日が憂鬱で、なぜ生きるのかという目的もなく、誰とも話さずに仕事だけをして、そして一日を終える。でも、私が捨て去った私自身を、君が拾い上げてくれたんだ、私が君の本質を見る事が出来たように、君も僕の本質を見ることが出来たんだ、それって本当に、とても幸せな経験で、僕も君を理解したいんだよ、君のような存在になって愛したい、ぼくは人間に生まれたけどうんざりな人生をおくってきたし、これからもそうだと思う、でも君に会えてとても幸せで。

—君はぼくのことを憶えておいてくれ、君だけをみつめて咲いた、名もない花のことを憶えておくれ。

—たとえこれがぼくの呪いになるとしても、ぼくはその呪いさえ祝福として愛するよ。ぼくの精神がくずれて倒れても、さいごの瞬間まで君のことを考えるよ、とおい宇宙から来た、たった一人のともだちのことを思いながら、目をとじるよ…

（その後、幻想体からそよ風が吹き出すような、非常に微かな音が聞こえた後、静寂。）



変異の済んだ姿。小さな王子の居る廊下を歩き回り、周囲のあらゆる人間を攻撃する。

非常に苦しそうに見えるが、何故か皆表情はとても明るかった。

E.G.O

WAW

No. T-04-50

女王蜂

巨大な蜂の巣と蜂が合体したような姿をしている。断面は生肉のように赤黒い粒子が見える。羽根がついているが、一般的な羽根としての機能はしていない。ねじれた顔の中で、それでもその形を留めた片方の目は、接近者を警戒するかのように瞳孔が動く様子を見せている。

一定の条件を満たせば周囲に胞子を撒き散らす。胞子を吸い込んだ職員に目立った変化はなく、その後実施されたいくつかの検査にも特に異常な兆候は見られなかった。

その後、胞子を吸い込んだ職員が後頭葉や腹部に激しい痛みを訴えた。一定時間が経過した後、頭が体から引きちぎられ、分かれた身体から、幻想体「働き蜂」が出てきた。

<相談記録の一部抜粋>

職員■■■■は以前からずっと、首の周りが痒いと私に訴えていました。何日か前からお腹の調子が悪いからと胃薬を何個も飲んでいたのを見たんです。

（中略） 突然、職員■■■■は話をやめたんです。相変わらず、彼は首を掻いていました。赤くなっていた彼の首が心配になりました。そして 頭を変な角度に曲げたのです。自分の意思で首をねじ切るのではなく、誰かに強制的に折られるような…

するとジジジっという、紙が破れるような、それよりも聞き慣れないような、何かが千切れるような音がして、彼の頭が床に落ちました。鈍い音でした。

それで終わりだったらよかったのに、彼の首から何かが這い出てきました。繭から孵化する蝶のように、頭のない彼の体を食い破って、羽と、黄色い胴体と、彼の体を蝕んだ歯と、二度とこの世界で出会いたくない、生命体とも呼びたくない、そんな奴が、

（中略）目はありませんでした、しかし、それは私をどんな方法であれ、認識していました。ただ今は攻撃する理由がなかったようです。彼の頭を持ち上げて、まるで働き蜂のように飛んで行ってしまいました。

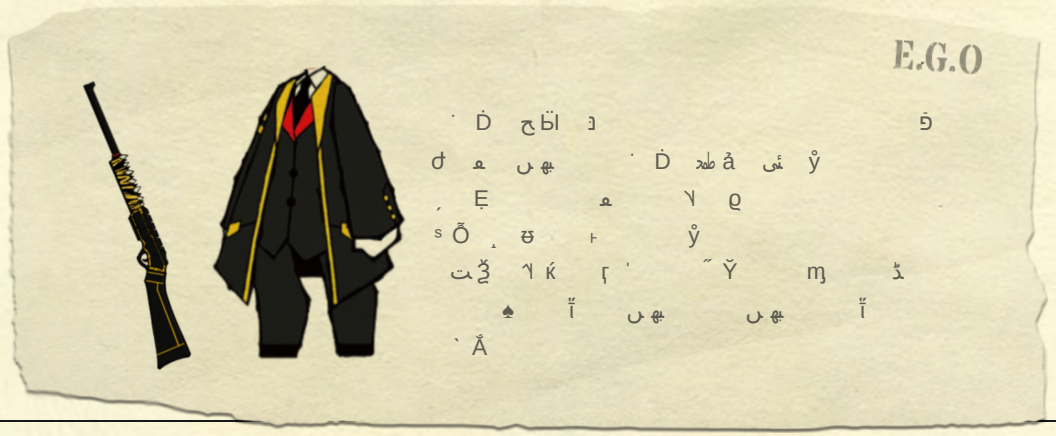
…私はいまだに、あいつの羽音や顎をがちがちと鳴らす音が、耳から離れません。

働き蜂

彼らは女王蜂の見た目とは明らかに違う。彼らに飛行は可能だが地上1m程を飛び回ることしか出来ない。触覚や目は存在しない。尾は臓器のようなものを引きずっている。

女王蜂に栄養素を調達する。個体数を増やす。彼らはこの二つの行動のみを示す。職員と鉢合わせると、顎でその頭を攻撃し潰した後、さなぎを職員の体に挿入する。

女王蜂のフェロモンには蜂たちの忠誠心を引き出す物質が含まれる



WAW

No. O-01-73
絶望の騎士

残ったのは風化した
騎士の空虚な誇りでした。

信頼と裏切りのくびきを繰り返し、最終的に黒い涙だけが感情の全てとなった、絶望の幻想体。

かつて、正義の為に守護者を務めていた過去の英雄。命をかけて王を、国家を、都市を、弱者を守った。

騎士は神の掟を守りながら、勇敢さと同時に善と正義を追求しなければならなかった。しかし長いこと荒波に揉まれた後、ふと後ろを振り返ると何一つとしてまともに守れたものがないという真実に気づいた。真実は多くの人々を変化させた。

善を守ろうとした彼女は、これ以上この世界に悪は存在しないという真実に気づき自らが悪となってしまった。皆が幸せな世界を夢見た彼女は、強欲に染まったまま全てを食らい尽くしてしまった。同じように、変わらないと考えられていた多くのものが変わり果て、消えていった。

騎士は 泣くことがないと
誰が言ったのだろうか？

悲しみではなく、絶望から流れる涙を見たことがあるだろうか？絶えることなく流れる涙は、眼窩を抜け殻へと変えた。黒い宝石が、灰のように落ちる。

誰かを守りたい気持ちは依然としてあるのか、閉じ込められた今も、誰かを保護する行為に絶えず執着する。後に残ったのは、空虚な騎士の矜持だけ。過去の未練を捨てられないまま、執念だけが残っている英雄の姿は、あまりにも哀れだ。

もし、正義がもう一度裏切られる時、その幾多の剣はあてもなく彷徨うことになるだろう。再び守れなかったという恥辱の、世界に対する怒りの、最終的な矛先は、自分が守ることの出来なかった全ての人々である。

他者に求められることで自分が救われることを望んだ騎士は、絶望の騎士という哀れな名前で呼ばれながら、他の彼らと同じように人々の記憶の中で消えていった。

加護の象徴

何一つまともに守
りきれなかった

この剣は、元は誰かを守る為の剣だった

涙の刺青は
守りきれなかった人々を
哀悼する為

彼女の心の絶望が形
象化され、内側から
突き破って出てきた

加護に失敗すると、絶
望が体から溢れてくる

E.G.O

WAW

No. O-01-04

憎しみの女王

愛と正義の名のもとに、
魔法少女がやってくる！

正義と平和を目指して、 悪党を打ち破る人型の幻想体。

全ての職員に親切な様子を見せ、日常的な会話を交わすなどの行動が可能である。自分が世界を救う為に生まれた英雄だと信じており、これに関しては 自負心も大きいようだ。

職員たちとの対話の中で不安や懐疑心が生じる場合、少なくとも4日以内に外見と性格が変異し、解離性障害と類似した行動をとる。

暴走が終わった後、全ての数値が正常に戻り、幻想体はこの行為についての記憶の一切を無くしていた。

<録音記録_1>
職員：今日の気分はどうかな？
-いいわ。世界は平和で、ここは静かね。平和というのはとてもいいことよ。 悪者たちがいないってことじゃない。そうよね？
<記録終了>

<録音記録_2>
職員：今日は元気がないみたいだね。
-いいえ、依然として気分はいいわ。世界は平和で、ここは……(これ以上話をしようとしなかった)
<記録終了>

<録音記録_3>
職員：……大丈夫かい？
-どうしてここはずっと平和なの？私が存在する理由は、悪者たちをやっつける為なのよ。これじゃまるで、私なんか必要ないみたいじゃない。ああ、私が魔法少女だということをあなたに言ったかしら？私は世界の平和を守る為に生まれたの。今日のここは、本当に静かね…
<記録終了>

<録音記録_4>
(職員が入って来たことすら気づかずに、独り言をずっと呟いている)
-世界は、善と悪の二つに分かれているの。私は正義の味方よ。私が善ならば、 悪も必要よね。悪者がいなければ、私がいる必要なんてないもの。それなら、誰が世界を守ってくれるの？
<記録終了>

自らを必要とする言葉を期待する

魔法で作られている服

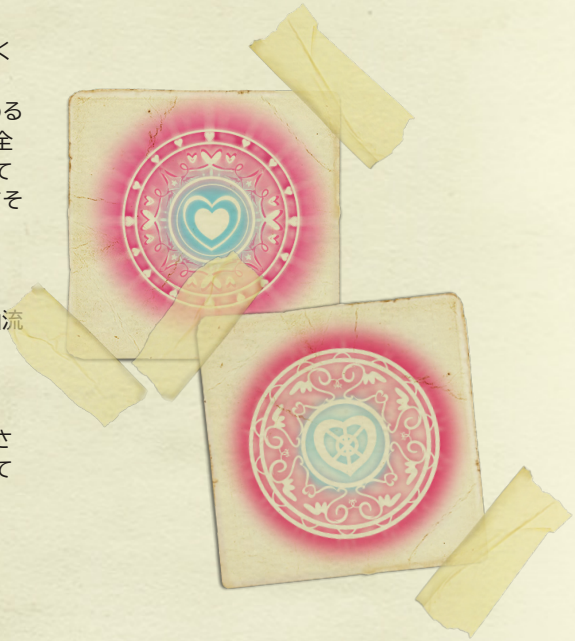
鎮圧完了後の状態。
変身中に起こったことは全て忘れる

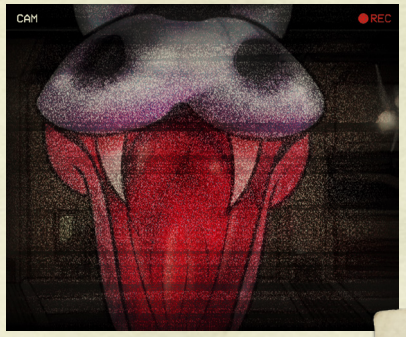
初期観測の様子

<録音記録_5：レベル3以上の関係者のみ閲覧可>
　この資料は暴走時に得た録音記録の一部である。
　幻想体は施設に設置されていた無線機を使用して、非常計画チームの職員に電話をかけた。
　-(すすり泣く声)
　職員：非常計画チームです。所属を教えてください。
　-私が……私がやったの…。私は…私を止めることができなかった…。私のせいなの…私が全てを滅茶苦茶にしてしまった。私に親切にしてくれた人たちを 裏切ってしまった。どうしてそんなことをしてしまったか、思い出せないの…。
　職員：周りはどんな状況ですか？
　-わからないの。誰も動かないの。血が沢山流れてて…。ごめんなさい…本当にごめんなさい……。

　この幻想体の隔離室では三人の遺体が発見された。その後、幻想体はこの事件に関する全ての記憶を失った。

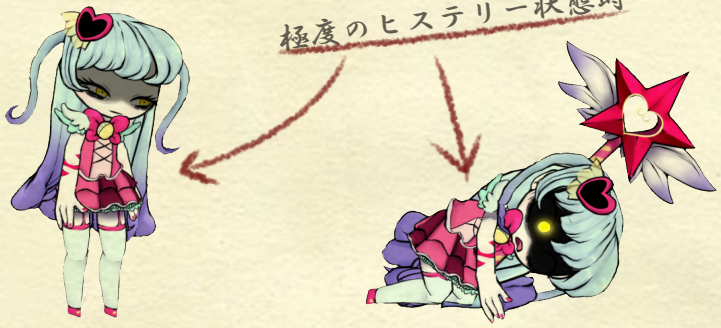
この魔法陣は"愛"を"分解"に変換する仕組みのようだ





<■月■日映像資料>

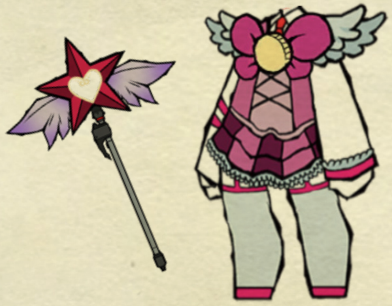
極度のヒステリー状態時

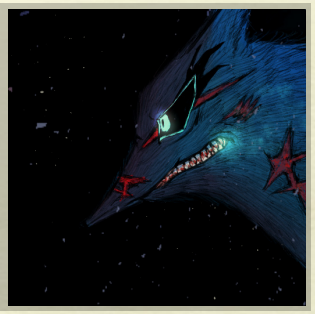


眼窩は空っぽだ。
音で敵を探して
いるのだろうか

翼は華やかだが、
ただそれだけだ

E.G.O





WAW

No. F-02-58
大きくて悪くなるオオカミ

それでも構わないという気がした。
自分は大きくて悪いオオカミなのだから。

まばらに毛が抜けた毛皮のオオカミの姿をしている幻想体。二足歩行が可能で、ある程度のコミュニケーションをとることも可能なことが確認された。

常に職員を貪って脱走しようとする。この幻想体は、一連の行動や会話の中に脱走の明白な兆候を示すので、少し気を使うだけで簡単に脱走を防ぐことが出来る。

■月■日に起こった事故は、職員の警戒心を高めた。赤ずきんとオオカミが出くわした瞬間、状況は制御不能になった。何としてでも二体の接触を避けなければならない。職員の何人かを生贄として利用し、互いの注意を逸らすほうが、潜在的な被害を考慮すると賢明だろう。

久しぶりに食べる肉はとても美味かった。俺は洋服箪笥から突き出た赤い布を見つけた。どこかでそれを見たかもしれないが、見なかったかもしれない。しかし、特には気にしなかった。その時から、自分自身を制御するのがますます難しくなった。それでも構わないという気がした。自分は大きくて『悪くなる』オオカミなのだから。

傷の9割はF-01-57によるものである。
彼女のにおいは傷口を開く

F-01-57を必ず呼ぶように

E.G.O

WAW

No. O-02-40

大鳥

一か月後、結論が出ました。
その森の中に“怪物”などというものは
存在しませんでした。

永遠に消えないランプ一つを持ち、暗い森の中を見張り歩く、大きくてたくさんの目を持った鳥だ。通常の鳥の形状とは異なり、翼は存在せず、かわりに物を拾える程度には長い腕が生えている。

…（中略）子供でも老人でも、発見したらじっと見つめてから頭を噛み千切ってしまった。大鳥は怪物から生き物たちを守るため、自分の羽を全て使ってロウソクを作り、そのロウソクで永遠に燃えるランプを作った。

大鳥のおかげで怪物の犠牲となった生き物の数は減った。しかし、大鳥は依然として、怪物の手によって死んだ犠牲者が気がかりだった。

大鳥はふと思いついた。「私が先に生き物を殺したら、怪物に殺される生き物は居なくなるじゃないか！」

その後、暗い森には頭を噛み殺す怪物がいるという噂だけが広まった。

これは■■■■地方の村に伝わる民話で、その村の最年長の住人である■■■■から聴取することが出来たものである。村の人々が森に子供たちが入るのを防ぐために作った話の一種であると一般には考えられているが、誰が最初にこの話を語り始めたかは不明である。

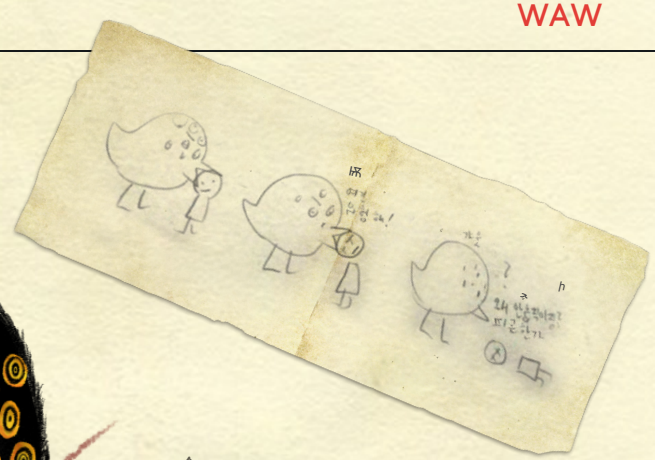
そして、物語は真実だった。

<録音記録の一部抜粋>

「私たちは森の中でこの大きな鳥を見つけました。次に“人々を惑わす怪物”を探しました。私たちは文字通りしらみつぶしにその森を捜索し、森に存在する全ての生命体を一つ一つ調査しました。そして一か月後、結論が出ました。その森の中に“怪物”などというものは存在しませんでいた。大鳥を除いては。」

<脱走時の廊下映像>

廊下は停電した



全ての目が一糸乱れず
に怪物を探す

赤い目は危険信号

永遠に火が灯り続ける

ランプを使って助けが
必要な者を呼ぶ

魅了された者は
自分の頭が噛み
千切られること
に気づかない

E.G.O

WAW

No. O-01-64
貪欲の王

悲しみが叫ぶ、消えろ！死ね！と。
しかし、欲望は永遠を望んでいた。
深く、永久に続く永遠を望んでいた！

幸せは執着になり、執着は貪欲となり、貪欲はそのまま永遠に固まり、黄金色の琥珀になった。原初の幸せは笑みを浮かべたまま、その中にいる。

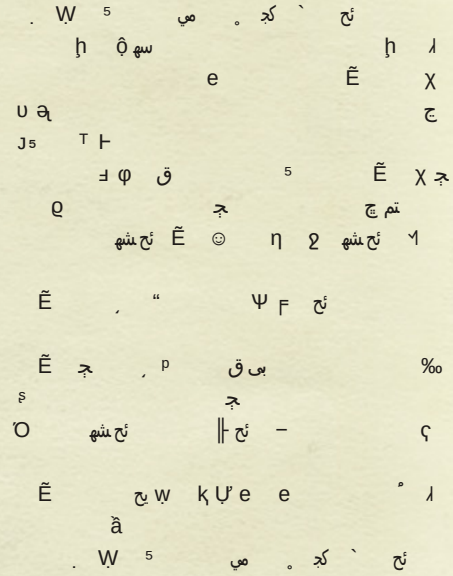
最初の種は、幸せになりたいという純粋な欲望だった。小さい種は満足することが出来ず次第に大きくなり、硬くなっていった。飢えた魚は輝く宝石を飲み込んだ。しかし宝石は空腹を満たすどころか、よりその感覚を増していった。

人が望む大半のことは叶わない。多くの欲望が捨て去られるが、完全に消えるわけではない。私たちの心の奥深くに残り、いつでも再び鎌首をもたげる準備をしてその水底で彷徨っているだけだ。

しかし幸せになりたいという願いも同様に、蛇のように頭をもたげている。ほんの僅かな餌が水面に落ちた瞬間、飢えた魚は瞬く間にそれを食らおうと　水面から浮上してくるだろう。実際私たちは、あまりにも理性的であるが故にこれらの欲求を上手くコントロールしていると錯覚しているが、それはあまりにも　滑稽な確信である。私たちは私たちが思っている程に、私たち自身を統制することは出来ないのである。

魔法少女が魔法少女でなくなった時、彼女は多くのものを飲み込んだ。地位、財産、名誉、そしてありとあらゆる快楽を。気がつけば全てを食らい尽くしていた。そしてそこには本能的な強欲だけが残った。

<誰かの日記>

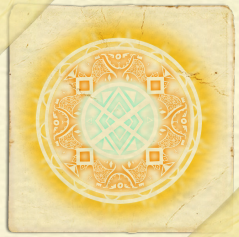


「世界の悲しみは深い。欲望は苦痛よりももっと深い。悲しみが叫ぶ、消えろ！死ね！と。しかし、欲望は永遠を望んでいた。深く、永久に続く永遠を望んでいた！」

"人類の最初の欲望は甘いリンゴの一口から始まったの。 その罰として私たちはエデンから追放されたのよ。
そして今、私たちのいる場所は広い果樹園。 私のバスケットはひときわ大きいから、
この世界のすべての果物を入れても満たされないの。 でも花があるのに蜜を欲するのは悪いことなの？"

目覚めることはないだろう

脱走の度に聞こえる笑い声は、
これが発しているのかもしれない

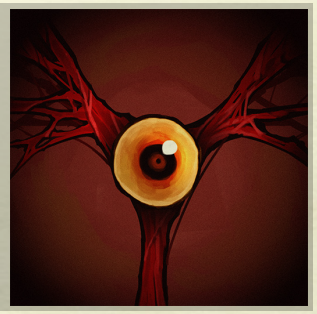


この魔法陣は

空間と空間を繋げる

目の前にあるものを躊躇いなく飲み込んでしまう

E.G.O



WAW

No. O-04-72

喰い込む天国

視線を逸らさず、見続けてください。
それはあなたの視界の中に在ります。

他人の視線を養分として、時々翼を広げる棘だらけの幻想体。

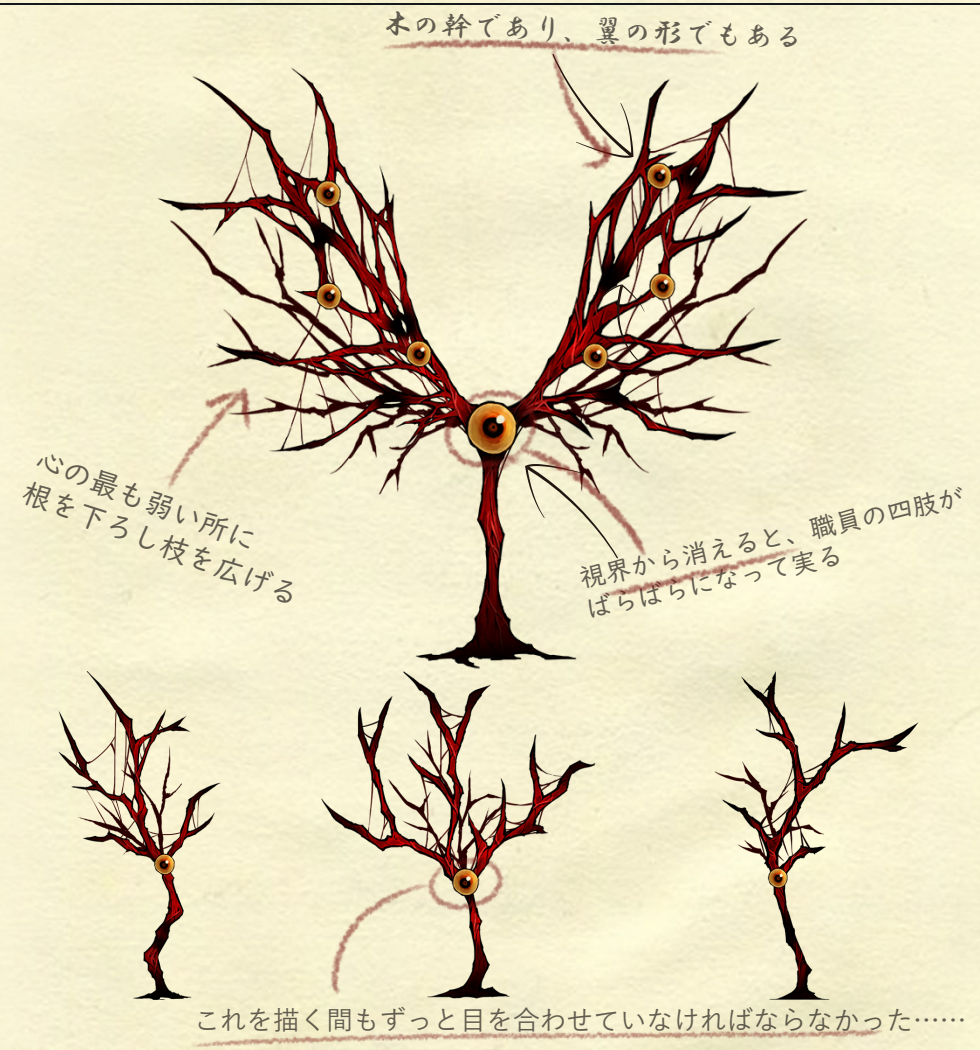
視線とはそのようなものです。関心。目に見えない繋がりの糸。集中の証。

こんな地中奥深くに、貴方の安息の場所はありませんから。

しかしこれを見てください。貴方の視線の中に立ってこそ、私は実を結ぶことが出来ました。

これが貴方の望む姿ですか？

その頬を伝う涙が乾いたら、答えを教えてください。



これを描く間もずっと目を合わせていなければならなかった……

E.G.O

WAW

No. F-02-70

黒鳥の夢

黒鳥が、白鳥になった夢から覚めた時、
何が起こるのでしょうか？

エリヤには、大勢の家族がいた。

彼女の貧しかった両親は、いつも言っていた。

“お前に残せるものは何もないけれども、私たちには正直さと誠実さという宝があるんだ。それはすぐにお前たちを助けることはないかもしれないけれど、いつかはみんなを幸せにしてくれるはずだよ。”と。

ある日、都市に霧が立ち込めた。初めはただの自然現象だろうと思われていた霧は、一日二日では晴れることは無かった。吐き気がする、むかつきがあると訴える人も出てきたが、ほとんどの人は大したことはないと思っていた。依然として沢山の人が霧の中で働いて、霧の中で一日を過ごした。

エリヤも、そのように気に掛けることのない人たちの一人だった。家族の中で唯一まともな職場に勤めているのは彼女だけで、また親譲りの貧しさで借金も多かった。エリヤには多くの兄が居たが、彼らは度重なる失敗のために、その意志は地に墜ちてしまっていた。

エリヤはいつも疲れていた。それでも、両親がいつも言っていた言葉のように、そしていつも触れていた童話の中の教訓のように、熱心にやれば上手く行くと思っていた。最後には白い翼を広げてみんなから羨ましがられた、あの鳥のように。

一部の住民は、霧を避けて都市を去った。彼らはこの都市は捨てられたのだと言った。しかし、エリヤは聞く耳を持たなかった。度々彼女は吐き気を催し、身体の中が腫れあがっていくのを感じた。

もうすぐだ、もう少しだけ。もう少しの辛抱でイラクサで作った服が完成する。愛してやまない兄たちにこの服を投げてあげれば、皆が睦まじく語り合っていたあの日々が蘇るはず。

ある日、いつものように仕事を終えて会社を出た彼女は、その帰り道で通行人と思いっきりぶつかった。その通行人は走ってきたにも関わらず、座り込んだまま立ち上がれなかったので、彼女は大丈夫かと聞いて手を差し伸べて助けようとした。その人はなんとか立ち上がったが、数歩歩くことも出来ずにまた倒れた。その様子はまるで何かから逃げようとしているようだった。エリヤはいったいどうしたのかと尋ねようとした。通行人はその前に口を開いたが、言葉を出そうとしたわけではなかった。

彼の口から、血と汚物の混ざった塊が吐き出された。まずは口から、その次は鼻と耳、そして目からまで…

その時、遠くから叫び声が聞こえた気がした。エリヤは何かを吐き出し続ける男性をそこに置いたまま、ゆっくりと歩き出した。

白鳥の夢を見ていた黒鳥が目を覚ましてしまったのなら、どうしたらいいのだろう？

煙の中に大勢の人がいた。ある人は大声で叫び、ある人は笑っていた。ある人は棒を振り回し、ある人は満身創痍の身体でうずくまっていた。地面は黒く湿り、無数の足跡に踏みつけられた異臭のする塊が辺り一面に散らばっていた。

彼女は兄たちを探し始めた。イラクサの服を着せてで呪いを解かねばならない自分の家族たちを。一緒に幸せを夢見た彼らを。

遠くに、愛する兄たちの姿が見えた。

その途端、エリヤは膝から崩れ落ち、他の人々と同じものを吐き出し始めた。

湖が静かに波を立てた。まるでつい先ほど、十数匹の白鳥たちが力強く空へ飛び立っていったかのように。

初期観測時。
凄惨を極める姿。

煙戦争時の
物質が付着している

もう日光を遮る必要はない
日傘は敵を遮るためだ

羽毛は非常に汚く、
汚物が付着している

E.G.O

ALEPH

No. O-03-89

もし何らかの欠陥によってその幻想体を覆うモザイクが消されてしまうようなことが起きるならば、我々はもう一度管理人の処分について真剣に考えなければならない。

CENSOREDについて少しでも描写を試みようとすると、話者聴者共に深刻な精神汚染を引き起こす。

したがって、CENSOREDの外見についていかなる描写も記録されてはならない。音声記録があれば特定部分を削除し、観察記録があれば描写に関する部分は削除されなければならない。

<録音記録一部抜粋>

ランディ：僕は君のような有能な職員をあの収容室に送らなければならないのを残念に思ってるんだ。最後に言いたいことはあるかい？勿論、最後に言いたいことっていうのはもしものことだけどね。

CENSORED：仕方ないですよ。私は職員の中で認知崩壊抵抗力の数値が一番高かったので。

ランディ：もう一度言っておくよ。君はただ認知崩壊抵抗力の数値が全職員の中で一番高いだけなんだ。もし10から数字を数えようとしても10が何だか分からなくなったり、あるいは胃から唾液や吐しゃ物がせり上がってきたり、君のいる場所がこの会社じゃないところにいるように感じたらすぐに隔離室を出なければならない。

CENSORED：次言ったら13回目ですよ、ランディ。

ランディ：僕たちはリアルタイムで報告を受けられないんだ。全てのカメラは消えているし、君の音声記録は作業終了後に更新されるんだから、心配するのは当然だよ。さっき僕が言った注意事項をもう一度読んでみてくれないかな。

CENSORED：部屋に入って、作業はせずに、ただ私と一緒に入る職員CENSOREDの作業を見守る。私はそこで起きたことの全てを録音する。例えCENSOREDが危険でも、特別な指示を出されない限り彼を助けようとしない。そうですよね？

ランディ：その通り。じゃぁ、僕が10数えたら君とのつながりは途絶える。君の記録に限りない幸運があることを。3…2…1……接続終了。

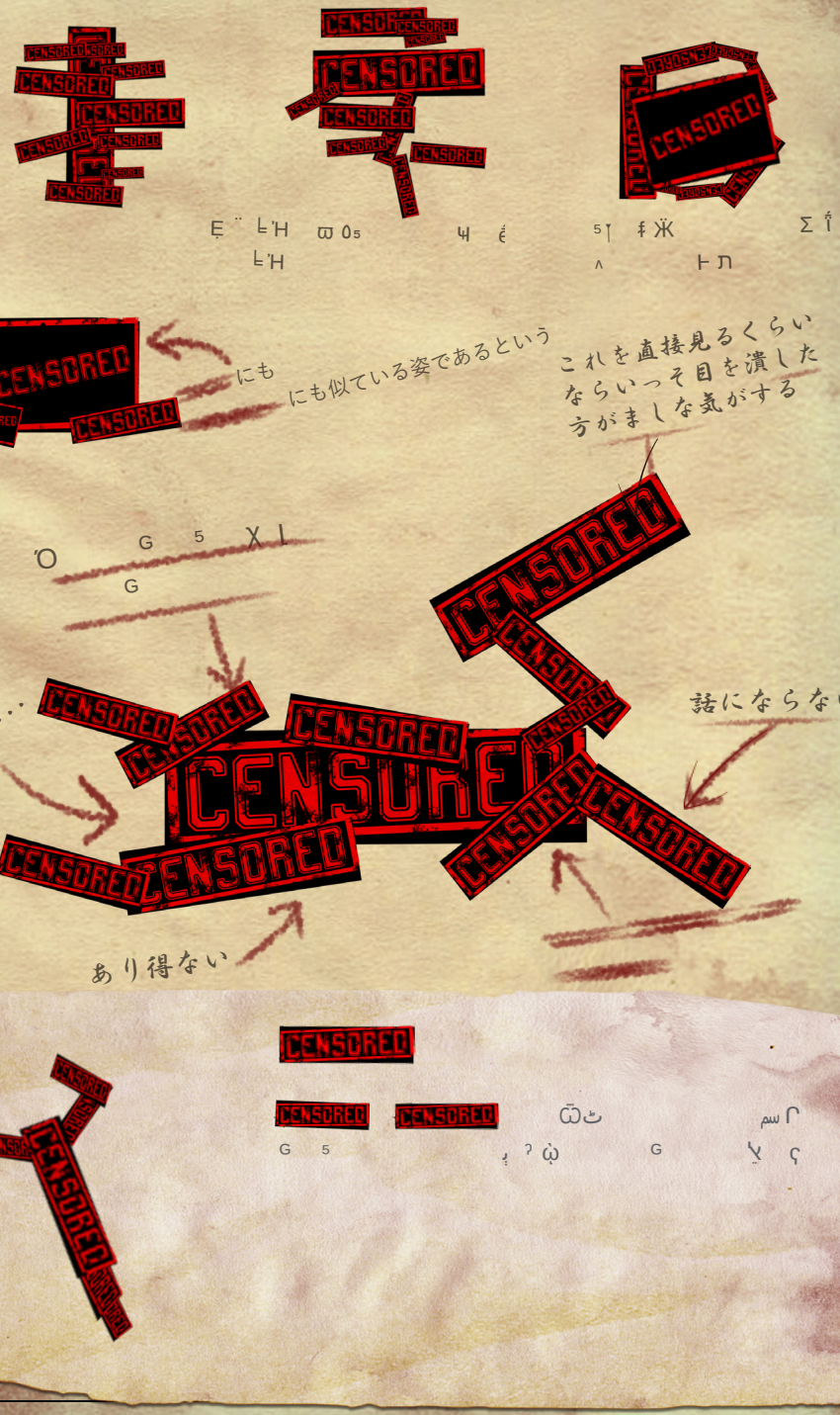
（中略）

CENSORED：ランディ…あれはまるで、随分昔の私たちのCENSOREDみたいじゃないですか…？…私は…これを見ることのできる唯一の人間だということを忘れていました。どうやら…繁殖することもできるみたいです……私と一緒にいた職員CENSOREDはCENSOREDになりました……これはまるでCENSOREDの一過程みたいですね……職員CENSOREDのCENSOREDから小さいCENSOREDが出てきました…このように数が……職員CENSOREDはCENSOREDのような悲鳴を上げています……泣き声は…聞こえますか？

– CENSORED

CENSORED：今わかりました……あれは私たちのCENSOREDだ、あれがCENSOREDの存在理由ですよ…私も…もうすぐCENSOREDで…

<記録終了>



ALEPH

No. T-01-31

静かなオーケストラ

壊れたものたちから、
世界で一番美しい演奏が始まる。

芸術を愛し、施設全体に自らの音楽を聞かせようとする幻想体。

<百科事典一部抜粋>

指揮者は、単に音楽的な誤りを正すだけの役割ではない。

最高のアンサンブルを引き出し、音楽の主導権を握らなければならない任務を担っている。

指揮者の実力は指揮台に立ってから5分以内で見定めることが出来る。

指揮者が楽譜を開くその刹那、彼の視線、行動、雰囲気を通じて、演奏者たちは彼に従属すべきか否かを見極める。彼らの間に妥協と調和がなければ、楽譜に盛り込まれた意味が現れることはない。したがって指揮者は、それだけ卓越した統率力と指導力、説得力が必然的に要求される…(中略)

<第一楽章：落ち着きを持って、緩やかに>

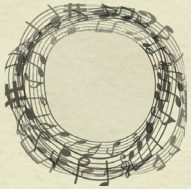
指揮者は終焉を奏で始める。

<第二～四楽章：愉快に、速く>

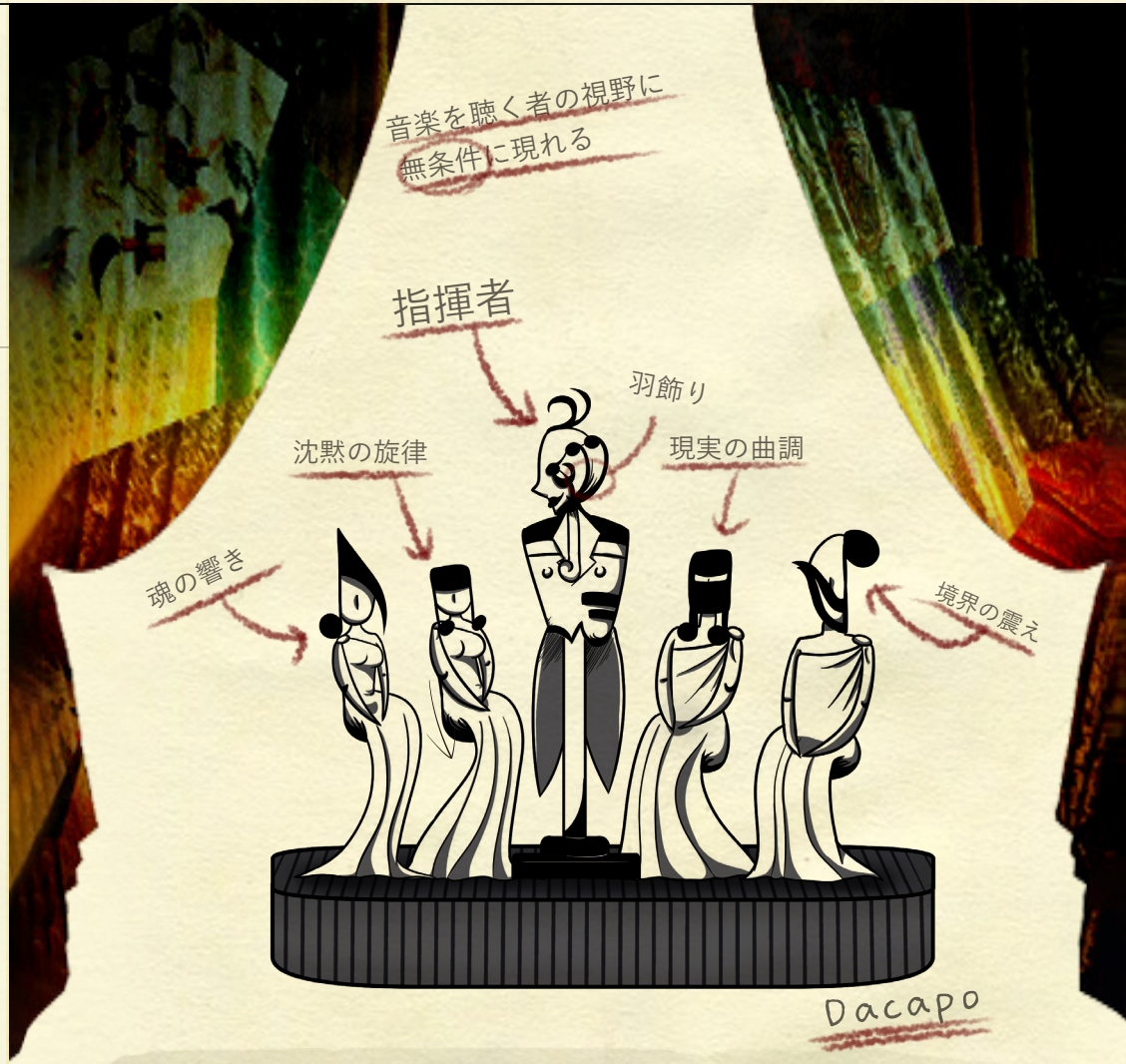
職員たちは徐々に全てを忘れ始め、交響曲に対し熱烈な感動を覚える。そしてそれは内面の狂気へと変貌し、目の前にいる相手に攻撃しようとする。この時オーケストラの音楽はさらに拍車をかけ、部署全体を終焉へと導いていく。演奏者たちが皆集まった時、誰も聴くことの出来ない、誰もが聴くことの出来る音楽が始まる。

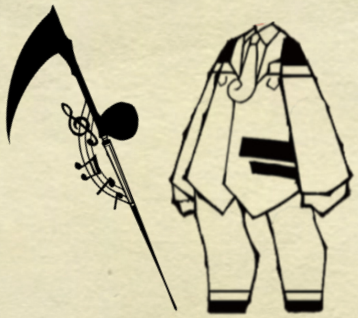
<終楽章>

”音楽は貴方の全てに響き渡る。”



拍手は鳴り止まない…





E.G.O

ALEPH

No. T-03-46

白夜

我が使徒たちよ、目覚めよ。
そして我を迎えるのだ。

生まれたばかりの胎児の形をしている。胎児と呼ぶにはあまりにもぞっとする程奇怪な外見だ。対話は可能だが、一般的な形の対話をしない。彼が言う全ての言葉は収容室全体に響き渡る。

“私の恩を受けた私の使徒たちは、自らが携わった悪の道から離れて私を探しなさい。時がくれば、私は彼らの罪を赦して彼らのいる場所へと下る。”

彼によって治療された職員12人は、全て姿形が変わり施設内全ての職員たちに救済を届けるべく徘徊する。彼らの背中からは飛べない翼が芽吹き、嘴のついた仮面をつけ、そして全ての罪を赦す十字架を背負っている。

“私が汝に伝えた教えに従え。肉体に逆らって、汝らは生まれ変わる。”

彼の使徒たちは遠くに手を伸ばし、隣人を抱擁し、彼らに福音を伝えるその姿のまま生まれ変わる。彼らは…

“時は来た。鐘が鳴る。新しい世界が到来する。立ち上がれ、私の従者たちよ。立ち上がり、私を出迎えよ。私は死であり、生である。闇であり、光である。”

白夜の呼び出しを
待つ使徒

使徒

誓約を対象に刻む。

存在理由の消失

鎌

存在を刈り取る

槍

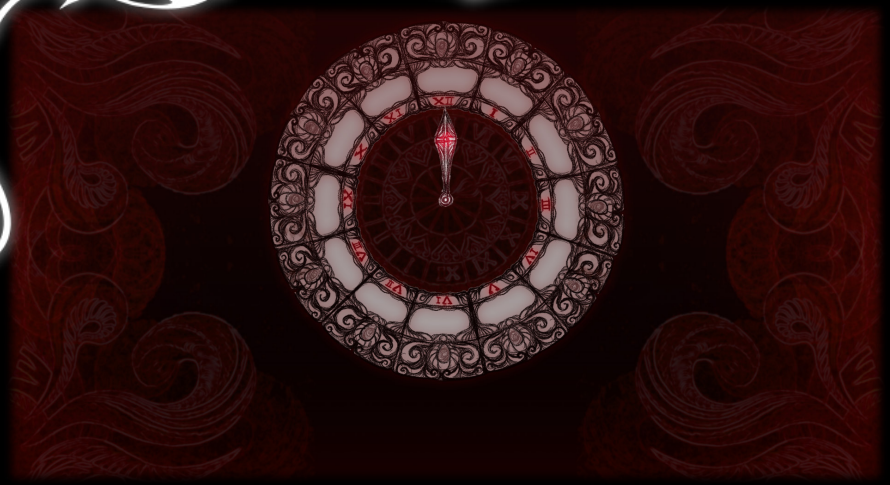
疑う者は
捧げられる

杖

誓約の言葉が
刻まれている

終末が来る…私にも慈悲が与えられるだろうか…

何処かに潜む悪魔を探せ



“私は言っておく、貴方は使徒[redacted]。私はこの岩の上に私の教会を立てる、陰府(よみ)の力もこれに対抗できない”

“おっしゃってください。そのことはいつ起こるのですか”

“主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか”

“使徒[redacted]と使徒[redacted]、この二人にはボアネルゲス、すなわち、"雷の子ら"という名を付けられた”

“主よ、私たちに御父をお示しください。そうすれば満足できます”

“彼が使徒[redacted]がいるのを見かけて、『私に従いなさい』と言われたので、使徒[redacted]は立ち上がって、彼に従った”

“この町に以前から使徒[redacted]という人がいて、魔術を使って民を驚かせ、偉大な人物と自称していた”

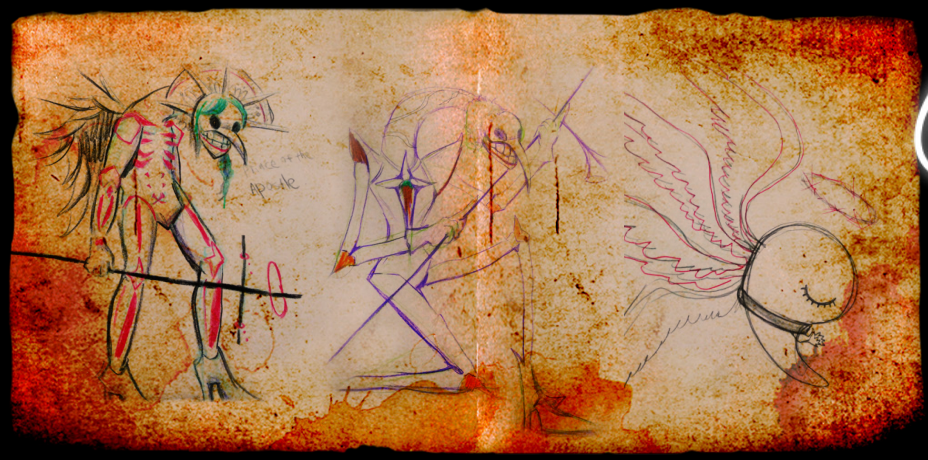
“使徒[redacted]が、仲間の弟子たちに、『私たちも行って、一緒に死のうではないか』と言った”

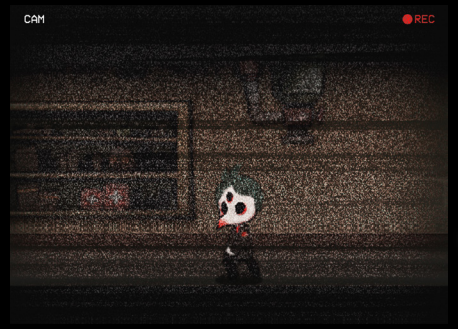
“使徒[redacted]は答えた。『貴方は神の子です。貴方はこの国の王です』”

“使徒[redacted]が、『主よ、私たちにはご自分を現そうとなさるのに、世にはそうなさらないのは、なぜでしょうか』と言った”

“これからは、誰も私を煩わさないでほしい。私は、彼の焼き印を身に受けているのです”

“貴方がた十二人は、私が選んだのではないか。ところが、その中の一人は悪魔だ”





ALEPH

No. O-06-20
何もない

そして多くの「皮」は
ただ一つの言葉「管理人」とわめく。

人間の形のような姿をしているが、人間ではなく、また人間であってはならない幻想体。一定の周期で職員を食べて、その殻を使って生きている。骨格や臓器がその過程で適切な場所に配置されず奇妙な形状をとる。

感覚を感じることがないので、小さな隙間から這い出たり、肉体の一部を切り取ることで脱走を試みる。

<何かの警告>

[redacted]

「私たちが職員として幻想体を観察するように、「何もない」も私たちを観察しています。そして職員を殻として被った後、自分のことをその死んだ職員である、と考えているんです。

その職員の負担の行動、口癖、好き嫌い、そして目に見える全てを模倣するでしょう。模倣のためにそれがどれほど慎重に、そしてどれほど長い間職員を観察したのかは分かりません。

つまり今でも私たちの周りを、誰かの殻を被り歩いているかもしれないということです。そして、この幻想体はますます人間の姿に近づいています。そしてそれを私たち人間と区別できなくなる時が来たら、おそらくそれが会社の破滅の日になります。」

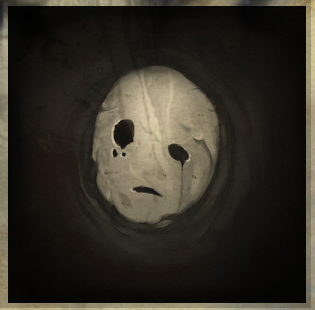
以下は「何もない」の皮になった職員が最後の瞬間に示した、異常な行動の記録である。

<録音記録の一部抜粋>
職員1:管理人、管理人！
職員2:ねえ、さっきからどうしてそんなに管理人を探してるの？あなた今日はなんか変よ。ずっと気持ち悪い笑顔で立ってるじゃない。
職員1:…
職員2:ああそうだ、警報があったのよ。「「何もない」の作業をした最後の職員は直ちにカウンセラーオフィスに来るように。」って。
職員1:…
職員2:それって…あなたじゃなかった？
職員1:…
職員2:ねえ、何か言ってよ…
職員1:管理人！管理人、管理人！（■■■■）
<記録終了>

（記録には音声ファイルのみが含まれていたため、正確には何が起こり、職員がどのような行動を見せたのかは分からない）

「何もない」が入った皮は、まさに直前の瞬間に自分が殺そうとしていた職員の行動を、最大限に模倣しようとする。自分が目にいれた職員の最後の行動、最後に言った言葉、そういったものたちを。

そして多くの殻は、「管理人」とだけ叫んだ。



ALEPH

No. T-01-75
笑う死体の山

その笑顔は不気味で 悲しみに満ちています。

ある典型的な一日のこと。事故が起こり、何十人もの職員が死亡した。理由はいつもと同じだ。何かが脱走し、その脱走を誰かが止めようとして、さらに別の脱走を引き起こし…

幸運なことがあったとすれば、事故がさらに悪化する前に部署を封鎖したために、一か所で皆が死んだことだ。文字通りに死体の山となり、当然ながら誰一人清掃したいとは思わなかった。通常通りなら、半日以内に片づけねばならなかったが、その事故はあまりにも凄惨だったし、皆非常に疲れていた。だから、清掃は保留となった。どこの部署だったかは訊かないでくれ。

常温で放置された死体は当然ながら、数時間で腐っていった。大半は欠損していたから、もっと早く腐っただろう。

普段ならすぐ片づけられるはずのその山は、かなり長い間部署内に残っていた。自然の法則に従い、それらは腐り、溶け、そして崩れていった。

そうして、あれはそこで生まれたんだ。死体の山で。死者によって生命が与えられた。驚いたって？じゃあ、もう少し聞いてくれ。死者たちは皆、笑顔のまま、互いが互いの身体となった。それぞれの無事な部位を分け合い、互いの足となり、口となった。だからと言って、彼らが意識を取り戻したわけじゃない。彼らが望むのはただ一つ、俺たちの血と肉だ。臭いを嗅ぎつければ、すぐにやってくるだろう。その笑顔は不気味で、悲しみに満ちている。

死体を得れば得るほど、それはその形を整えていく。そして、決して満足することはない。

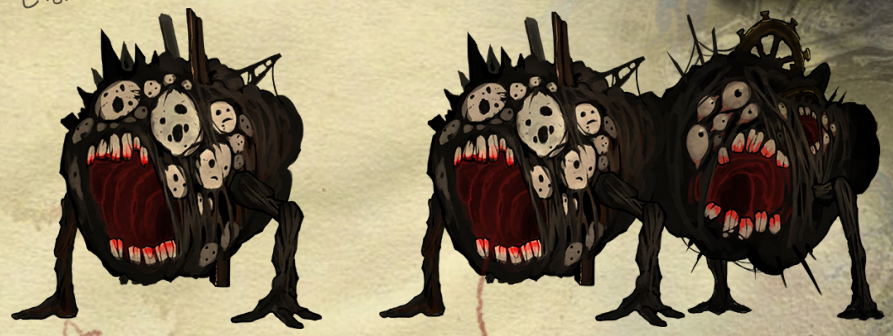
俺がお前にこんなことを言う理由は、もう時間が無いからだ。ここでは、事故はいつも繰り返されるものだろう。誰かはしばらく黙祷してくれるだろうが、大部分のやつは「またか？」って言って顔を背けるだろう。まあ、良い事があるとすれば、この部署の封鎖は終わってるってことだ。ここには俺しか残ってない。ああ、さっきの話から教訓は得たか？大体の童話と一緒だよ。「怠けるのはやめよう」ってことだ。俺の声が止まったら、ぴったり三分後。すぐここに来て、お前の同僚たちを片付けてくれ。

もうすぐ俺は話せなくなるだろう。大きな爆弾を呑み込むところだからな。あとわずかだ。周りはすっかり血塗れだ。あの笑顔たちが見えてきたよ…ここでは、あまり見ない表情だよな。

大きな爆発音が聞こえても驚くなよ。さっきも言った通り、ぴったり三分後だからな。これだけの爆弾なら、十分に制圧出来るはずだ。

あれが最後に見る死体は、俺のものになるだろう。

顔を細かく確認しないように



死体を食べる度に分裂する

響き渡るは人々の絶叫

吐き出されるは人々の嘆き

ALEPH

No. O-02-63
終末鳥

“あそこに怪物がいる！
この森には怪物が住んでるんだ！”

この世界が罪で満たされた時に姿を現すと言われている。多くの職員がこの幻想体が現れることを恐れている。この鳥について語るにはまず古き黒い森について話さなければならない。かつては平和で美しかったその森を覚えておかねばならない。そして終末が訪れる。

<黒い森の物語>

むかしむかし、温かい木々がたくさん生えた森に、とある3羽の幸せな鳥たちが暮らしていました。鳥たちには名前はありませんでしたが、森の中の生き物たちにそれぞれ大鳥、小鳥、長鳥と呼ばれていました。沢山の生き物たちが住んでいたその森では、誰もが自由で、誰も戦う必要はなく、幸せでした。鳥たちは森が壊れたり破壊されたりしないことを、誰よりも強く願っていました。

平和だった森に見慣れぬ者がやって来たのは、太陽の光が一番きらきらと輝く昼のことでした。彼は旅人であり、開拓者でもあり、預言者でもありましたが、同時に誰でもない者でもありました。彼は森に入りたがっていましたが、鳥たちは怪しい彼を森のなかに入れませんでした。すると、怒った彼は森を去りながら鳥たちに言いました。

『やがてこの森に悲劇が訪れるだろう。森は悪行と罪に染まり、争いが絶えぬだろう。悲劇が終わる時は恐ろしい怪物が森に現れ、すべてを飲み込んだ時だ。二度と森に太陽と月は現れぬ。森は決して元の姿になることはないだろう。』

この予言を聞いた鳥たちはひどく悩みました。彼の言うとおり森で争いが絶えず、怪物が現れて森を壊してしまったらどうしよう？そう思った3羽の鳥たちは自分たちが森の番人になることにしました。誰よりも森を愛しているので森にいる仲間たちを守って、森の平和を守ろうと思ったからです。

目がたくさんあった大鳥は森に怪物がいないか監視することにしました。大鳥の目は遠くまで見ることができて、他の仲間には見えないものも見ることができたからです。すると、誰かが言いました。

『でも、みんなが寝ている暗い夜に怪物が出たらどうしよう？』

それを聞いた大鳥は心配になって自分の羽を全部燃やして、永遠に消えないランプを作りました。これで森の仲間たちは昼も夜も大鳥の終わらない監視を受けながら暮らすことになりました。

長鳥は森の平和のために、森に入ってくる者に罪の重さを測ることにしました。長鳥の天秤はいつも正しく罪の重さを測ることができたからです。すると、誰かが言いました。

『でも、いつか天秤がどっちにも傾かなくなったらどうしよう？』

それを聞いた長鳥は心配になってどんな時でも審判の結果が必ず出るように片方にしか傾かない天秤を持つことにしました。

小鳥は自分のクチバシを使って、悪いことをした森の仲間に罰を与えることにしました。すると、誰かが言いました。

『でも、君のクチバシは小さいから全然痛くないよ。』

それを聞いた小鳥は心配になって、自分のクチバシを大きく裂いて、どんな生き物でも一口で飲み込めるようにしました。

もはや森には誰も訪ねてくることが出来なくなりました。森の外では、森の悪い噂が広がりはじめました。

『森に入った生き物はみんなひどい目にあったって』

『大鳥が森の生き物たちをいつも監視していて一瞬たりとも自由じゃない』

『長鳥の天秤は全然正しくない』

『小鳥の罰は怖すぎる』

鳥たちは怒っていました。僕らはこの森を守ろうと懸命に努力しているのに、どうして僕らの苦労を誰も分かってくれないのだろう？森を訪れる者はますます減り、だんだん多くの生き物たちが不満を言うようになり、森では毎日争いが絶えませんでした。森を平和にしようと、鳥たちはもっと一生懸命頑張りましたが…

『ここは広すぎて僕たちだけじゃ森を守りきれないよ。』

『でも、僕たち以外に森を守れる生き物はいないよ。』

『僕たちが力を合わせればもっと強くなれるはずだ！』

どこまでも見通せる目を持つ大鳥、どんな罪でも裁ける長鳥、どんな物でも飲み込める小鳥が一つになった瞬間、森に闇が訪れました。鳥の姿を見た生き物たちは、恐怖のあまり悲鳴を上げて逃げ始めました。森はすぐに修羅の巷となりました。そして、そんな騒ぎの中で誰かが叫びました。

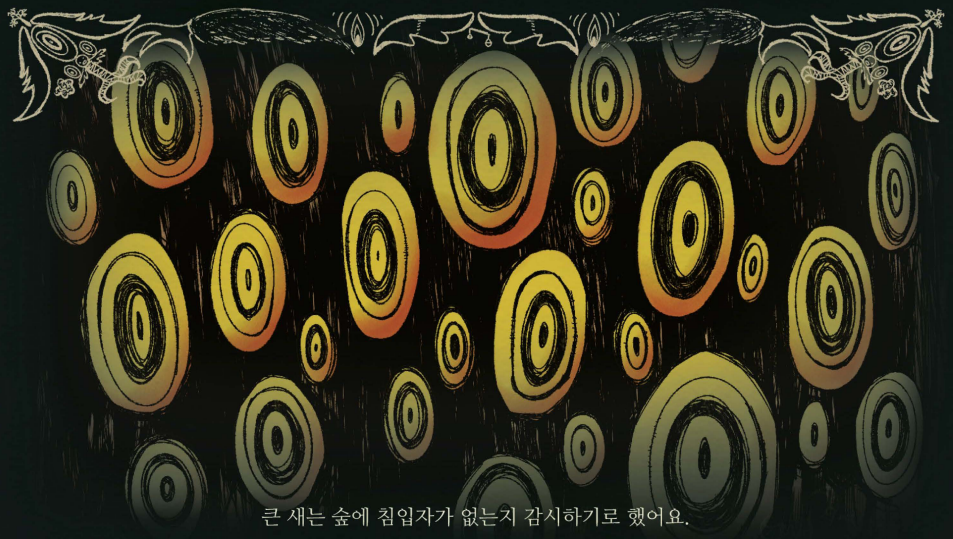
『あそこに怪物がいる！この黒く暗い森には怪物が住んでるんだ！』

怪物だって？一つになった3羽の鳥たちは慌てて周りを見渡しますが、誰もいませんでした。3羽の鳥たちは怪物が森に入って来たら大変だと思い、森を歩き回りながら怪物を探し始めました。しかし、何も見つかりませんでした。怪物も、他の生き物も、太陽と月も。残ったのはただ一羽の鳥と黒い森だけでした。それから森には真っ暗な夜だけが続くようになりました。

そして、誰もいない黒い森には恐ろしい怪物が住んでいると噂されるようになりました。

옛날 옛적, 따뜻하고 나무가 울창했던 숲에 세 마리의 행복한 새가 살고 있었습니다.

むかしむかし、温かい木々がたくさん生えた森に、とある3羽の鳥がいました。
鳥たちは森の中で幸せに暮らしていました。



큰 새는 숲에 침입자가 없는지 감시하기로 했어요.

큰 새의 눈은 먼 곳까지 볼 수 있었고 우리가 볼 수 없고, 보지 못하는 것까지 볼 수 있었기 때문이죠.

大鳥は森に怪物がいないか監視することにしました。
大鳥の目は遠くまで見ることができて、他の仲間には見えないものも見ることができたからです。

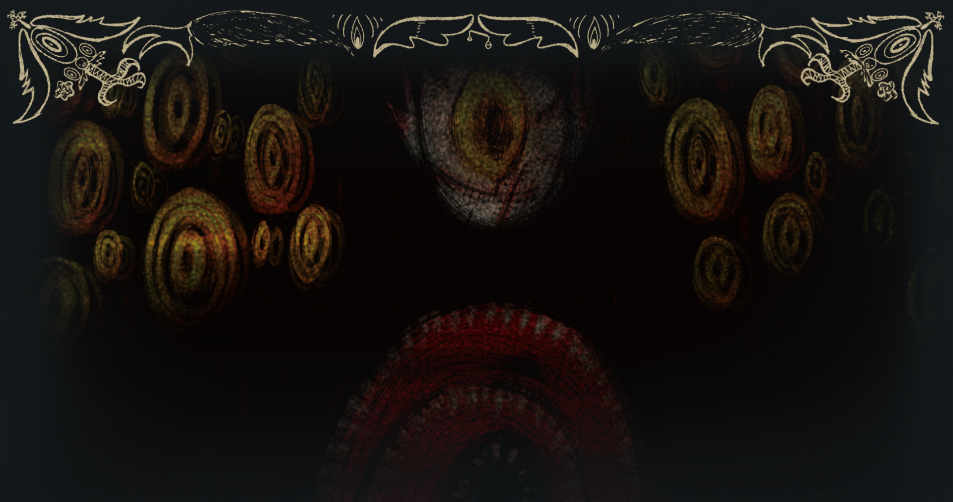
긴 새는 숲의 평화를 위해서 숲에 들어오는 자들의 죄의 무게를 재었습니다.

긴 새의 저울은 공명정대했고 모든 죄의 무게를 잴 수 있었기 때문이죠.

長鳥は森の平和のために、森に入ってくる者に罪の重さを測ることにしました。
長鳥の天秤はいつも正しく罪の重さを測ることができたからです。

작은 새는 자신의 부리를 이용하여 나쁜 짓을 저지른 생물들에게 벌을 주기로 했습니다.

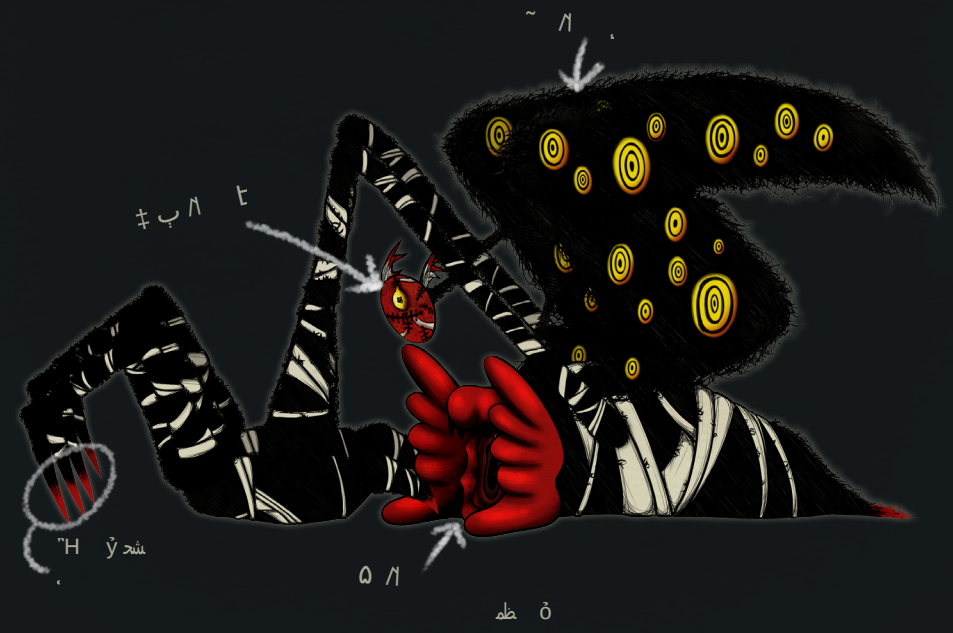
小鳥は自分のクチバシを使って、悪いことをした森の仲間に罰を与えることにしました。



그때, 아우성 속에서 누군가 소리쳤습니다.

“저기 괴수가 있다! 검고 어두운 숲에는 크고 무서운 괴물이 산다!”

そんな時に誰かが逃げながら叫びました。
『あそこに怪物がいる！この森には怪物が住んでるんだ！』



백 리 밖도 볼 수 있는 큰 새의 눈은 멀었고

遠くを見通せた大鳥の目は見えなくなりました。

어떤 것이라도 삼킬 수 있는 작은 새의 입은 다물어졌고,

どんな物をも飲み込める小鳥の口は閉じられました。

늘 우주를 응시하던 머리는 고개를 떨구었고,

いつも空を見上げていた長鳥の頭は下を向きました。

새들은 숲 속을 배회하며 괴수를 찾기 시작했지만 아무도 없었습니다.

생물들도, 해와 달도, 괴수도. 남은 건 그저 한 마리의 새와 검은 숲이었지요.

鳥たちは森を徘徊して怪物を探すが何も見つからない。
怪物も、他の生き物も、太陽と月も。
残ったのは一つになった3羽の鳥たちと黒い森だけでした。

ALEPH

No. O-03-93

蒼い星

やがて星となって再会しよう。

社内の全職員に対し、緊急声明を通知いたします。ロボトミー社は皆様の健全な社内グループ活動を応援しています。しかし、最近になって不健全な非認可グループの会合が行われているという目撃報告が寄せられています。繰り返し報告されており、これを看過することはできません。

特定の幻想体を神聖視し、自ら崇拝することは社則違反です。この場所では、何であろうとも「神聖」ではありません。

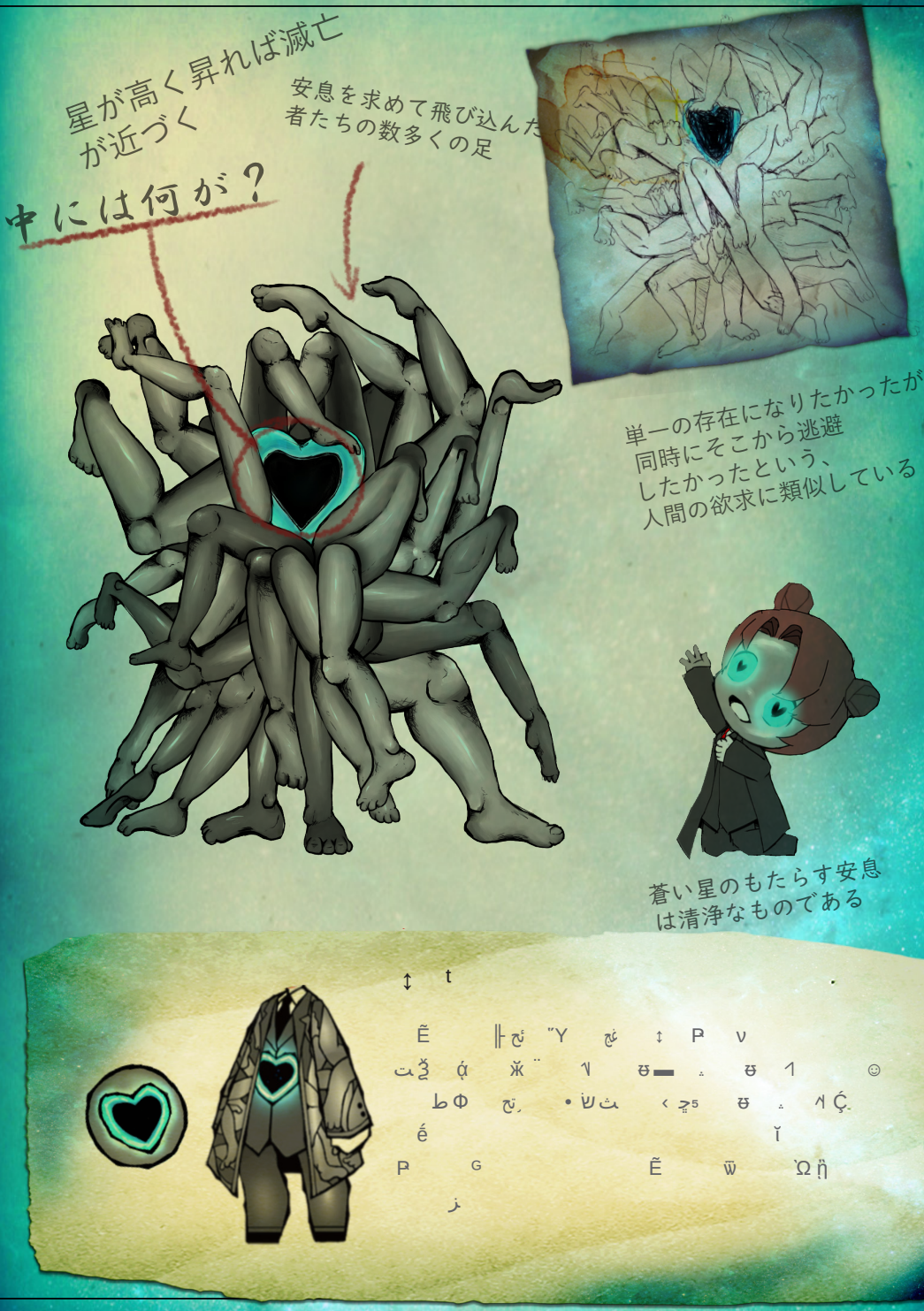
特定の幻想体の担当ではないにもかかわらず、収容室に許可なく出入りしようとしたことが判明した職員は、処罰を免れないでしょう。

もしある幻想体に対して身を投じたいという衝動があるのでしたら、それは一種の「感染」です。ここの一部の幻想体がそうであるように、あなたの脳を調整し、幻惑する過程にあることを意味します。作業を直ちに中止し、精神治療を受けてください。職員基礎教育課程を通過した皆様なら、不適切な事柄に惑わされることは無いと信じています。

ここにブラックリストを公開します。名前に対応する職員は、3日間の間、社が提供する治療を受けなければならず、各自の担当セフィラによって処罰が決定されます。このリストを公開する理由は、我々の周りにこれほど多くの感染者がいたという事実を周知するためです。

なお、数日前、特定の幻想体の収容室に侵入して身を投げかけた職員ソフィーを救った職員ディランの勇気は非常に称賛されるべき行いでした。

皆様の大切な同僚がこのような行動を示した場合には、直ちに担当セフィラに報告してください。



在りし日の記録

恐怖に直面し　未来を創る

白夜

白夜はペスト医師のコンセプトが決まった頃に、ディレクターが
野心的に連れてきた子です。

白夜の外見のデザインにはかなり時間がかかりました。

使徒の仮面も全て違う形をしており、それぞれの意味が付与されています。

登場する個体数が多くかつ変身するので、時間と労力を沢山使いました。

白夜本体もレガシーの頃と変わり、少し翼が増え華やかになりました。
後ろに光も差しています。

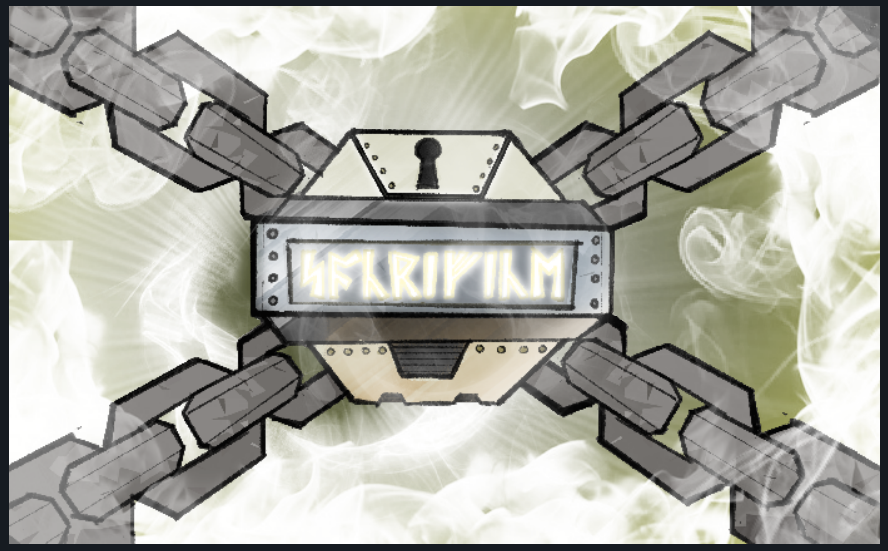
使徒たちは初期と違ってグラフィックがザワザワしなくなったのが少し寂しいですが、仕方ないですね^^

by Kim Jiyeon

そりのルドル・タ

ルドルタはクリスマスを想いながら作った幻想体です。
最初の設定は狂気じみた科学者の残忍な実験でした。
”そりがルドルフを引く”ということをメインに作業を進めました。
だからゲームでもルドルタはじっとしていてそりが動きます。そりの中のプレゼントはもっと活発に動きます。
皆さんもお分かりでしょうが、ルドルフとサンタを合わせた名前です。

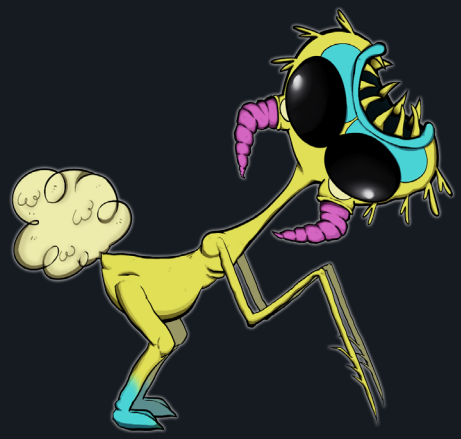
by Kim Jiyeon



夜明けのハンマー

夜明けのハンマーは珍しく収容室のフィルターが先に出来た幻想体です。幻想体のデザイナーよりも先に、私がコンセプトを決めました。
自分なりにルーン文字の翻訳機まで使って、犠牲を意味するSacrificeの文字を描きましたが、結果的にはリニューアル時に文字通り犠牲になりましたね。

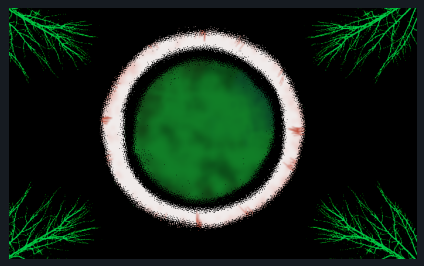
by Jin Harin



ノリノリ（ヘルパーじゃないよ）

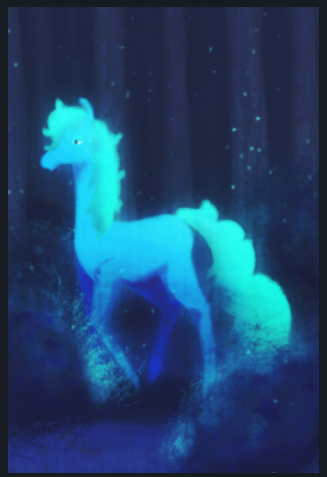
ベータの広報映像とトレイラーにだけ出てくる、裂ける狐(内臓の話をする、殺伐とした可愛いお友達)は、無名の胎児とは全く関係のない幻想体です。
人間が生贄になるシーンの映像を撮りたかったのですが、その当時胎児のアニメーションがまだ作成されておらず、仕方なく狐の子を使うことになりました。
実は『狐』ではなく『猫』です。ノリノリというれっきとした名前もあります。
しかし諸事情により実装出来ませんでした。残念です。

by Kim Jiyeon



沈黙の対価

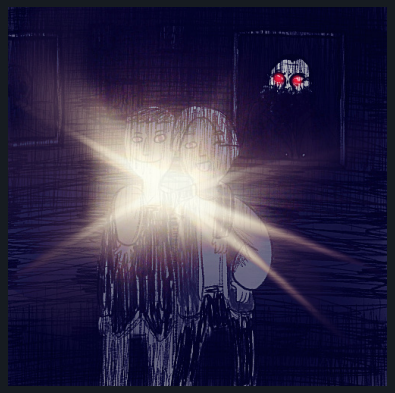
沈黙はもはや、平和だけをもたらす訳ではなくなりました。-アンジェラ



蒼白の馬

単なる偶然だと思っていました。

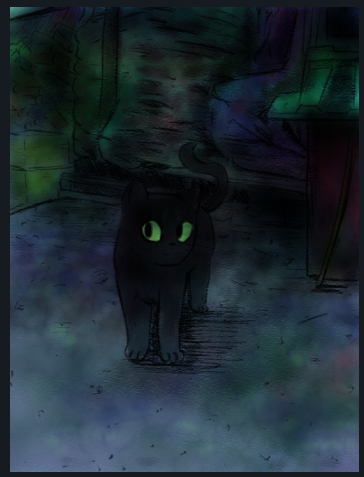
「~~ジョゼフ~~は興奮した表情で私に近づき、叫びました。自分が真摯に管理していた幻想体が自分を見つめ、跪いて涙を流したとか、そういう内容でした。ジョゼフをご存じないんですか？彼は何か月か前に”何もない”の殻になりました。それは決して、私たちを見て反応をした訳ではありません。私たちについた死の匂いを嗅いだのです。」



誰かの肖像画

ただの”肖像画”です。

「私は断言しておきますけど、あのクソ肖像画は私たちの油断を引き出したんです。そうじゃないなら、私たちがこれまで観察や作業を行っていた間、何故あれは微動だにしなかったんですか？」



貧しい脚本家の手帳

台本通りに

彼らの証言はあまりにも奇妙だった。
加害者であるAは、「自分が殺人をする直前まで自分の行動を認識することさえ出来なかった。ただちょっとした芝居の一場面を演ずるものだとばかり思っていた」と主張しており、目撃者であるCは「その後AがBに殺されるということは知っていたが、演劇が最後まで演じられる為には仕方のない犠牲だった」という証言をした。

長靴をはいた猫

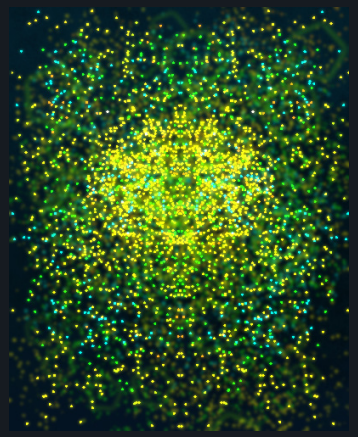
魅力的な提案

「ぼくが人間に話しかけたことはほとんどない。光栄に思うと良い。ぼくと手を組んだ人間は皆、素晴らしい名誉と富を手に入れることが出来た。しがない百姓の息子を王さまにした話はしたっけ？」

私を見て笑うピエロ

私はあなたに楽しく笑ってほしいんだ

「早くその収容室を出るべきだったのに…私が楽しまなかったから、あれは他の道具を出したんです。道具だと思いました。その瞬間はね」



ぼくのオレンジの木

最も”純粋”だった記憶

「何故よりにもよって『童心』なのか？数多くの議論の末、慎重にではありますが私たちは遂に、これを定義することが出来ました。これは■■■■■■■■でした」

堕落したアムルダート

百花繚乱

この幻想体はただの血を流している植物人間などではなかったという点、私の言った他愛のない言葉、そして これから私の言う全ての言葉を聞き、正確に理解できると考えられる点だった。

ジャックのいない豆の木

500年前の贈り物

「とんでもない話のように聞こえるかもしれないが、うちの職員たちの中で、木のてっぺんがどうなってるか見てやると言って登ってしまった職員がいるらしい。

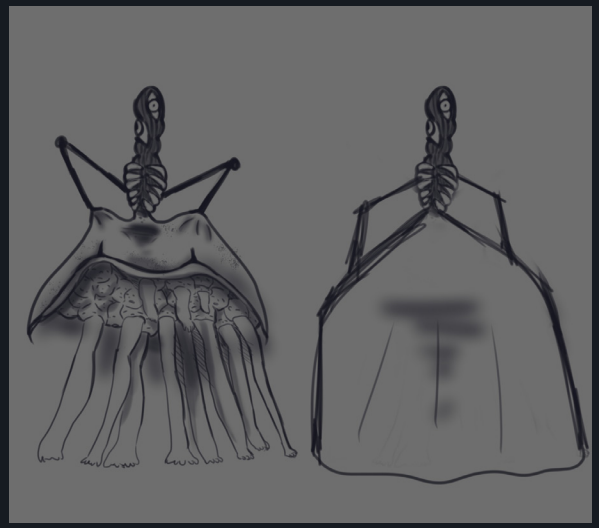
…

その木にてっぺんって概念が存在するのなら、まあ辿り着いた先で上手くやってるんだろうな」

物言わぬ少女

奇妙な罪悪感

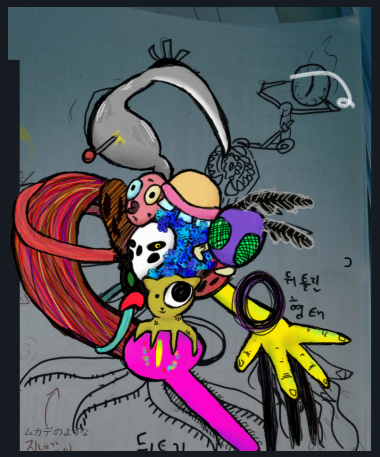
物言わぬ少女の部屋は一人での投入が許可されていた幻想体でした。以前は職員たちに被害を与えたことは一度もありませんでしたから。
私たちは一週間観察を続けていましたが、分かったことは、後ろ手に凶器を隠し持ってはいたが、攻撃しようとする試みは見られなかったということだけでした。



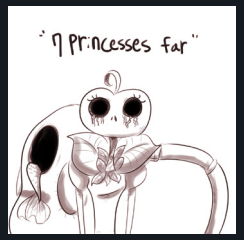
Warden

セイレーン

ロープと縄



ねじれた形



7人のプリンセス

人魚姫

かぼちゃの馬車

ノスフェラトゥ by Kim Yunjung

季節の神々

春の神

秋の神

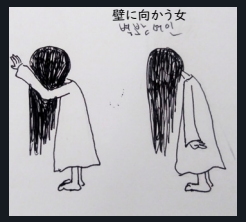
冬の神

夏の神“酷暑の”トカウ

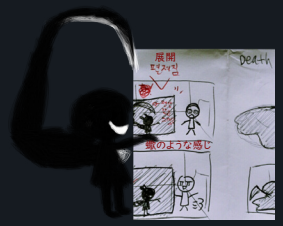
春の神“気まぐれ”パンズ

チャンサンボム
長山虎

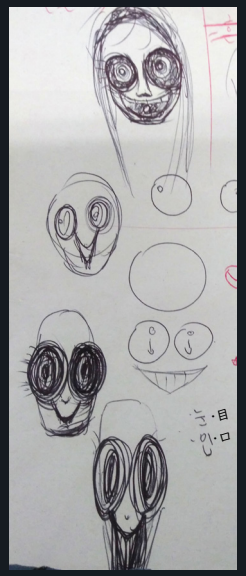
スケッチ



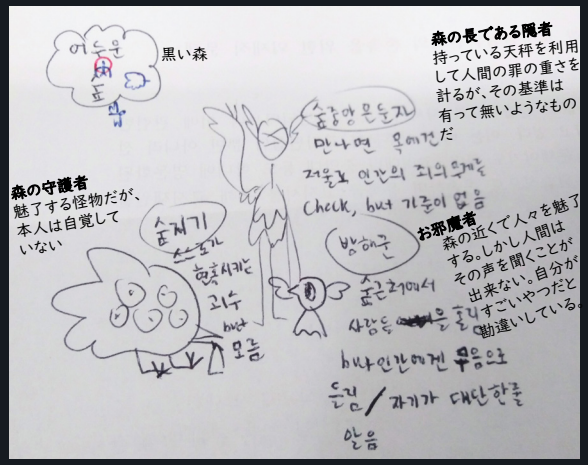
老婆
オールドレディ



焦がれる死神



壁に向かう女



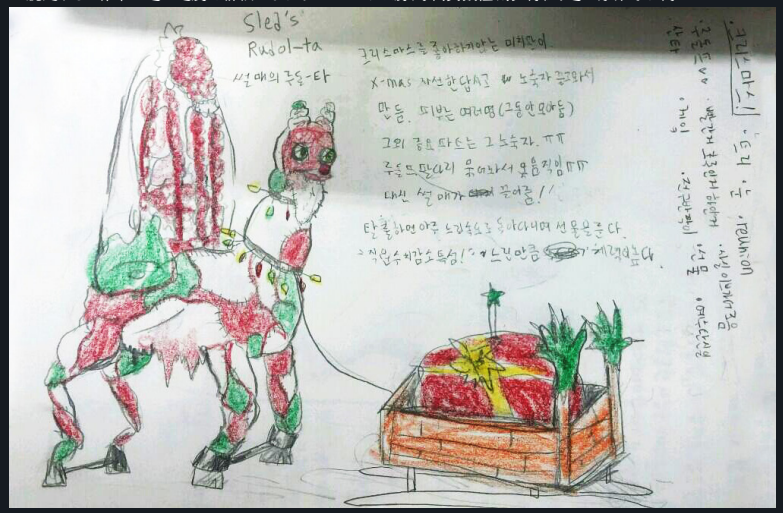
大鳥、審判鳥、罰鳥 初期構想

テレジア

オオカミ

クリスマスが嫌いな狂人が、ホームレスの人を『クリスマスチャリティー』に引き込み、これを作った。
皮膚は数えきれない程の多くの人間からできており、他の重要な部分はホームレスの人から作られている。ルドルフの手足は繋がれて動かないようになっています。そりが代わりに引っ張る！
脱走すると非常に遅い速度で徘徊しながらプレゼントを渡す。職員数値減少特性！遅い分体力が高い

＊クリスマス！ ＊ツリー ＊雪 ＊再会
＊ルドルフw ＊あの赤と緑のやつ ＊実はイブの方が好き
＊サンタ ＊ケーキ ＊妖精のライト ＊プレゼント ＊イエスの降誕



ルドルタ コンセプト

これは、現実を→受け入れられず、呪いをかけられたお姫様だという妄想を抱いている怪物

性別なし
女性らしい体を今は使っている

美女は、彼女に親切にしてくれた野獣を殺し、呪われた。
彼女は野獣になり、誰かが呪いから解放してくれるのを待っている。

実際は目

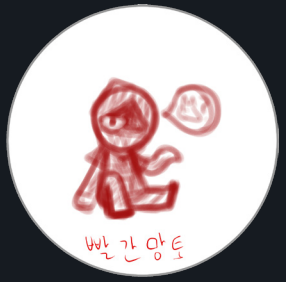
子供を食べる怪物、友好的なイメージを与える為に姿を変える

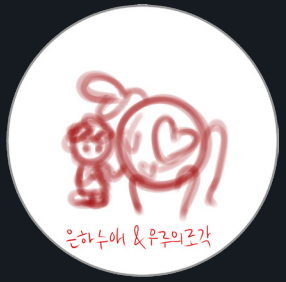
低レベルの
職員を食べる

表情 無し
口の動き 無し
(食べる時に動くだけ)

コンセプトアート集

バッジ



赤いマント


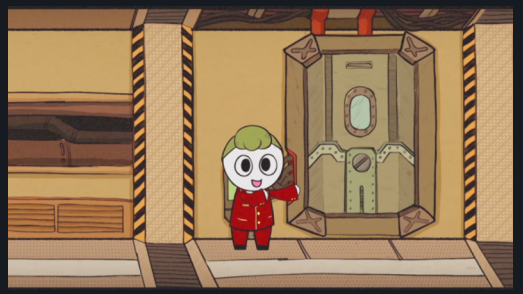
銀河の子&宇宙の欠片

レガシー職員

ウサギロボの初期構想

ウサギロボ

ウサギロボ スケッチ

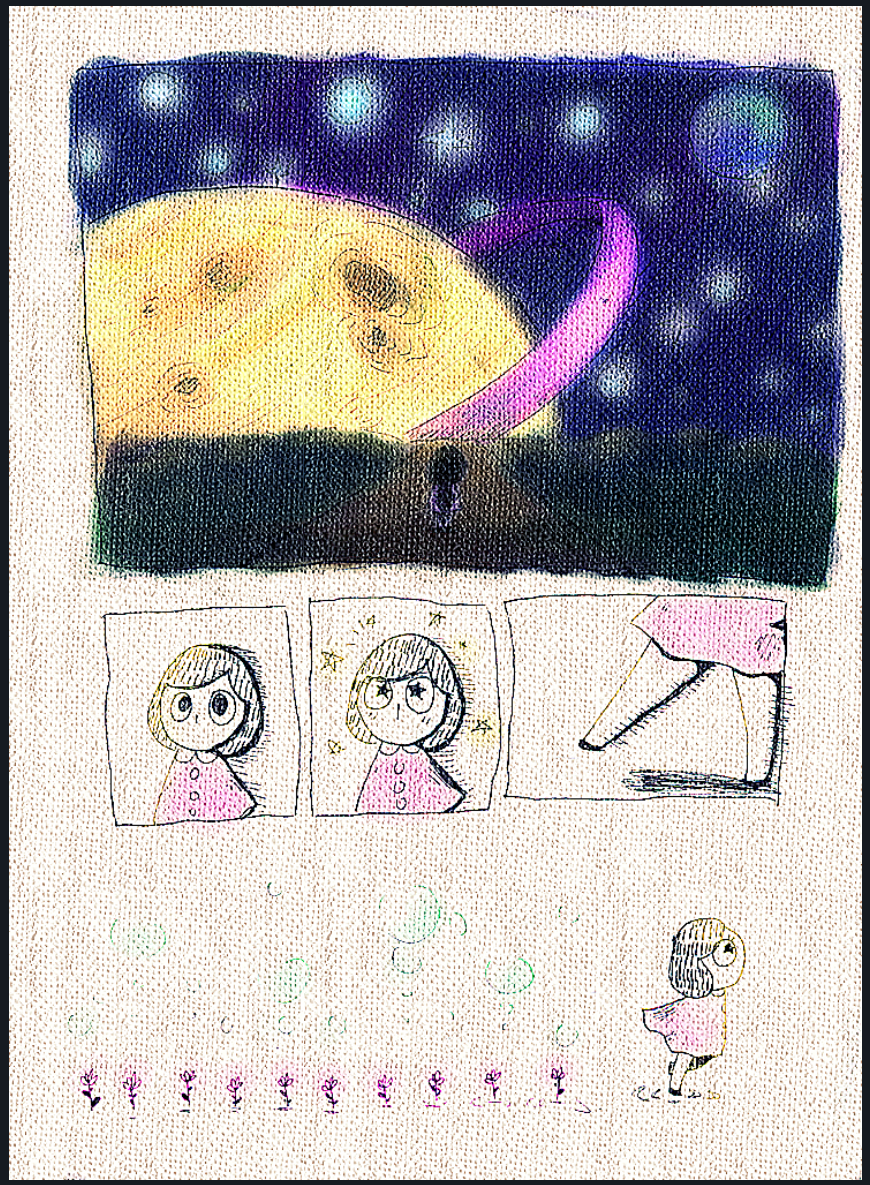

ジェレミー

ウサギロボのコンセプトは「死んだ職員のリサイクル」でした。
ウサギロボをひっくり返して見てみると…？
現行版は死んだレガシーの職員をリサイクルしていると考えられますね。（笑）

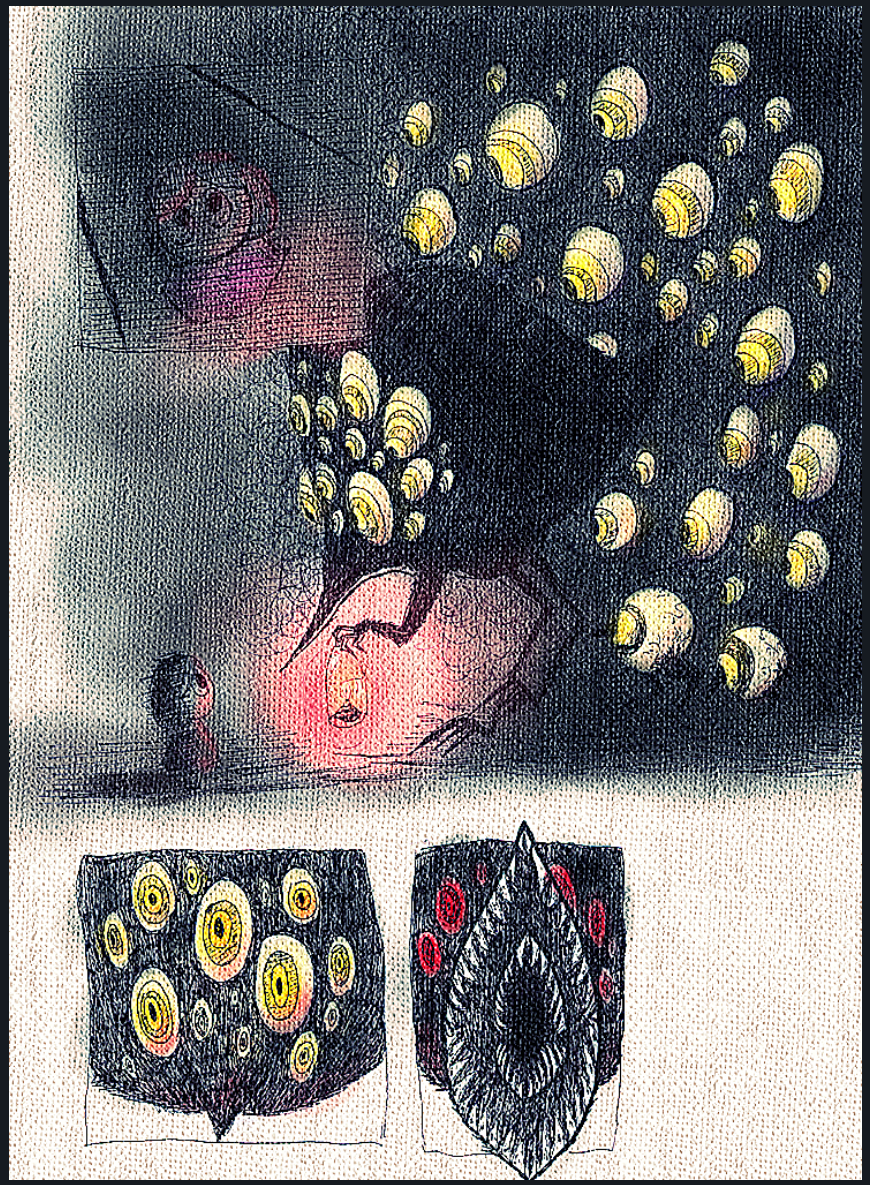
ジェレミーは、アーリーアクセスのトレーラーの職員です。
ロボトミー社を紹介してくれていたあの職員ですね。

by Kim Jiyeon

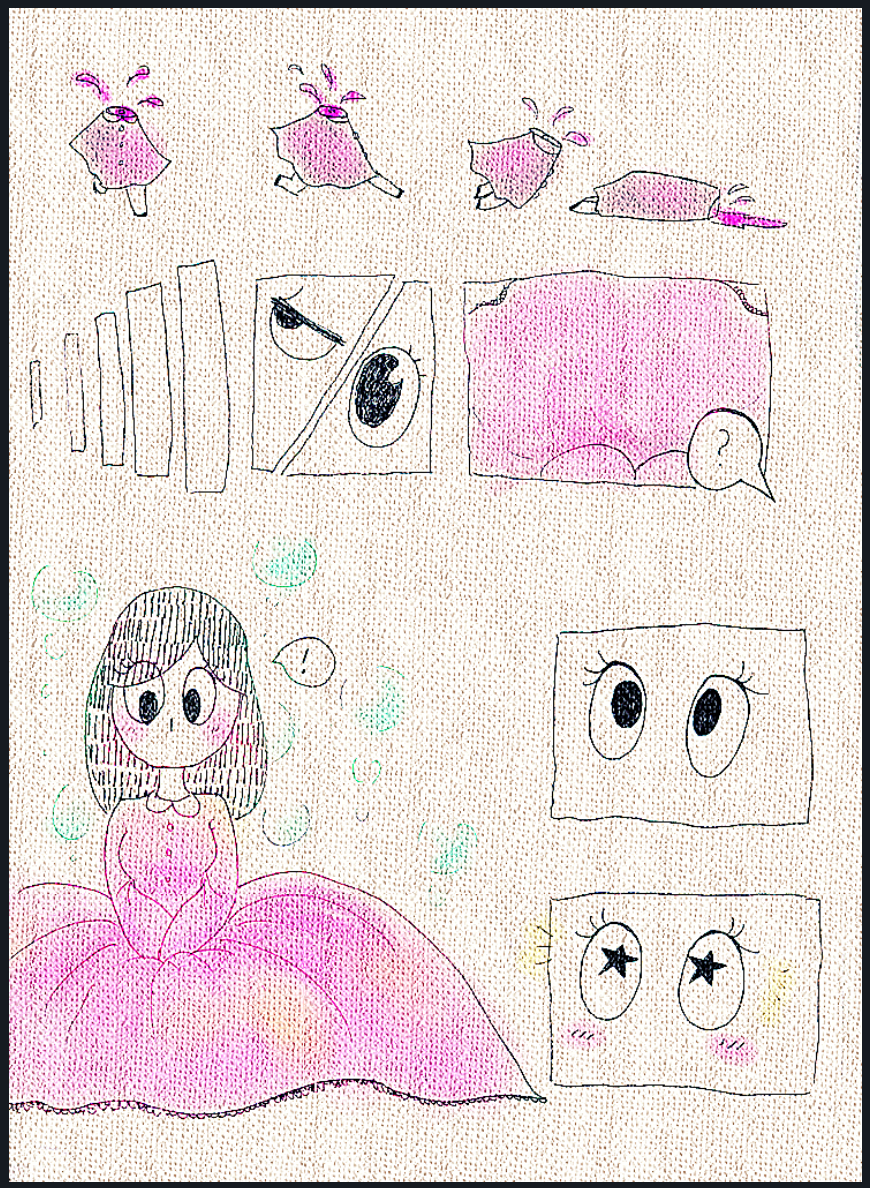
大鳥の漫画はProject Moonに合流する前に描いた漫画です。
実はこの漫画は、ほぼ無作為の単語の列挙で成り立っています。
小さな子供、森、怪物、死、花、そして星。



いくつかの作品は、一個人の経験と価値観によって意味が変わるものではないでしょうか？
この漫画もその一つだと思います

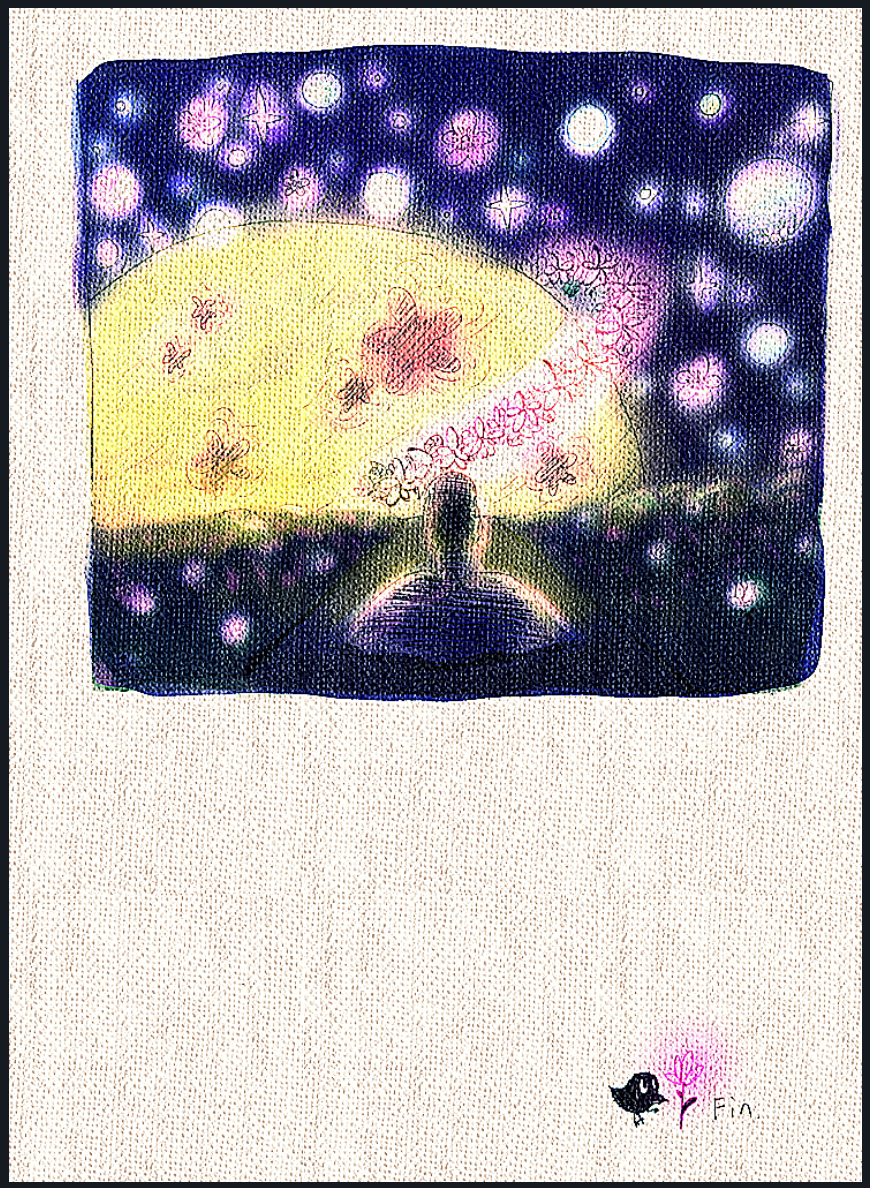


大鳥の後ろの小さな目玉鳥たちの元々(ロボトミー以前)の設定は、
森を守る怪物である大鳥と同じ種族です。
(漫画の大鳥の子どもではありません。大きなボスを追いかける純粋な子供たちみたいなものと
思ってくれれば良いです)



子供は成長するほど全身に目が増え羽が生え、大人は大鳥のような姿になります。
もちろん、今はない設定です。:D

by Kim Jiyeon



PROJECT MOON

Director KIM JIHOON	Designer HAN EUNKYUNG	Designer LEE YUMI
Artist JIN HARIN	Artist KIM JIYEON	Artist KIM YUNJUNG
Programmer JU HYUNGJUN	Programmer SEONG YOONJAE	Programmer CHOI TAEHYUNG

O-09-05

PROJECT MOON

Copyright(C)2017.All rights reserved by Project Moon